大正六年九月十四日　第三種郵便物認可・昭和十六年十二月廿五日印刷納本・昭和十七年一月一日發行（毎月一回一日發行）

# 建築と社會

日本建築協會

第25輯 第1號
昭和17年1月1日

國土防空强化を實施
急げ施設の完璧
セメント化工物への僞裝
コリケン防空用セメント着色顏料　コリケン防空用僞裝液セメント外裝及スレート煉瓦用
㊧小西勝太郎商店　小西理化學研究所
大阪市東區平野町一丁目　工場◆兵庫縣伊丹市

三星印

# 防音裝置

燃へぬ腐らぬ

三星バザールブロック構成の防音裝置は爆音に耐へる吸音率を有す。

設計・施工

大阪田島應用化工株式會社

大阪市北区中之島五丁目三〇番地

電話土佐堀(44)一三二八・五六八二
六二二一・七二九四

三星産業株式會社

東京市神田区錦町二ノ四

電話　神田(25)四三九七番

# 會　　告

本協會定款第十七條、第十八條及第二十條に依り昭和十六年十二月四日開會の評議員會に於て理事會長、副會長、常務の選擧を執行致しました結果下記の通りであります。

（當日常務の職務分掌を頭書の通り互選）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事 | 會長 | 片岡 | 安氏 |
| 理事 | 副會長 | 井上 | 新二氏 |
| 理事 | 副會長 | 竹腰 | 健造氏 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 主記 | 桐本楠雅氏 | 主記 | 佐藤正次郎氏 |
| 主記 | 中西六郎氏 | 主記 | 西澤藤生氏 |
| 主記 | 藪中一良氏 | | |
| 主計 | 小林三造氏 | 主計 | 松久保敬三氏 |
| 主計 | 和田貞治郎氏 | | |
| 編輯 | 伊藤和夫氏 | 編輯 | 大下順三郎氏 |
| 編輯 | 小林清氏 | 編輯 | 錦田直一氏 |

（五十音順）

昭和十七年一月

社團法人　**日本建築協會**

# 會　　告

## 創立廿五年記念事業計畫に就て

本會は大正六年三月關西建築協會と稱し孤々の聲を擧げ大正八年一月、日本建築協會と改稱、大正十五年十月社團法人の認可を得逐年隆盛の一路を辿り今日に及び今春は恰も創立滿廿五年に相當す

顧れば此間本會がなしたる諸事業は相當廣範圍に亘り社會に貢獻せし所不尠も就中都市計畫と建築物法問題、住宅問題、震火災問題、防空問題、建材問題職工教化問題等は其重要事項の一にして、特に都市計畫並に建築法實施は本會努力の結晶たり、又住宅問題は夙に力を注ぎつゝあるが大正十一年の交櫻ヶ丘に於ける住宅改造大博覽會の如き當時五拾萬圓の巨費を投じ多大の効果を收め本邦に於ける此種催の嚆矢とす、更に關東大震災には調査員の派遣組立住宅の提供をなしたる外各地震火災には常に獻身的努力を續けつゝあり、降而昭和八年關西に防空演習開始せらるゝや率先府縣市と協力演習に參加し又支那事變起るや南京上海の戰跡視察結果の發表等爾來引續き防空問題の研究と諸施設の促進に努力を重ね居れり。

一面會誌建築と社會並に各種圖書出版其他各常設委員會などは年々不斷の調査研究を進め居り之等事項は枚擧に遑なし、かくて昭和七、八年には創立十五年記念として各地に住宅博覽會外各種の事業をなしたるが今や我帝國は米英に宣戰を布告し大東亞戰爭五年を迎へ至る所大捷を博しつゝあり、古今未曾有の世界大動亂の眞只中に直面して茲に廿五年の壯年期を迎えたる本會は團體として爲すべき多くの任務と建築家として益々職域奉公の誠を竭すべき事を痛感し尤も緊急を要する防空問題に一大重點を置き此の記念すべき廿五年の事業となすべく目下夫々計畫成案を急ぎつゝあり。

然しながら本事業は相當重大問題にして獨り本會の力のみにては其目的達成至難にして大方諸賢の絶大なる御賛同と御援助を乞ひ以て祖國日本の國土防衛に盡さんとす、幸ひ憂國各位の御協力と御鞭撻賜らん事を熱望して止まざる所謂なり。

昭和十七年一月一日

社團法人　日本建築協會

# 會　　告

## 創立廿五年記念事業寄附申込御芳名

本會記念事業計畫發表するや各方面より多大の御聲援と御賛同を辱ふしつゝあるが本稿〆切迄に御援助を得て寄附金御申込を受けたる諸賢下記の通りなり茲に尊名を列擧し御芳志に對し深甚の謝意を表す

十二月中ノ御申込順

| 円 | | 円 | |
|---|---|---|---|
| 1,000.00 | 株式會社 西松組 殿 | 200.00 | 飯田組 殿 |
| 200.00 | 日本橋梁株式會社 殿 | 2,500.00 | 株式會社 淺沼組 殿 |
| 10,000.00 | 株式會社 佐伯組 殿 | 1,500.00 | 野澤幸三郎商店 殿 |
| 200.00 | 福島合名會社大阪支店 殿 | 1,500.00 | マルケイ建築材料株式會社殿 |
| 100.00 | 白石基礎工事大阪支店 殿 | 200.00 | 株式會社島田硝子製造所殿 |
| 1,000.00 | 東洋リノリューム株式會社殿 | | |

| 円 | | 円 | |
|---|---|---|---|
| 2.00 | 竹内さく 殿 | 5.00 | 大路清一郎 殿 |
| 2.00 | 石井茂 殿 | 2.00 | 近藤常治 殿 |
| 10.00 | 酒井彌三郎 殿 | 100.00 | 鈴木末尾 殿 |
| 10.00 | 泉谷千秋 殿 | 4.00 | 森本秀一 殿 |
| 2.00 | 酒井精一 殿 | 100.00 | 石川寛三 殿 |
| 5.00 | 二階堂禎典 殿 | 10.00 | 增田正一 殿 |
| 20.00 | 左谷陽充 殿 | 20.00 | 內田成之 殿 |
| 2.00 | 岩橋楠松 殿 | 10.00 | 佐藤四郎 殿 |
| 2.00 | 田中稔朗 殿 | 10.00 | 平木臻 殿 |
| 10.00 | 尾龜清四郎 殿 | 10.00 | 高岡與三吉 殿 |
| 5.00 | 錦織尙嗣 殿 | 100.00 | 海野浩太郎 殿 |
| 100.00 | 鈴木一幸 殿 | 100.00 | 谷民藏 殿 |
| 10.00 | 池田官治 殿 | 10.00 | 長尾清一 殿 |
| | | 計 ￥ | 19,061.00 |

十一月迄御申込分

| 円 | | 円 | |
|---|---|---|---|
| 25,000.00 | 株式會社 大林組 殿 | 10,000.00 | 株式會社 錢高組 殿 |
| 15,000.00 | 株式會社 竹中工務店 殿 | 10,000.00 | 大倉土木株式會社大阪支店殿 |
| 15,000.00 | 株式會社 清水組 殿 | 5,000.00 | 株式會社 松村組 殿 |
| 10,000.00 | 株式會社 鴻池組 殿 | 3,000.00 | 株式會社鹿島組大阪支店殿 |

| 円 | |
|---|---|
| 3,000.00 | 株式會社 藤木工務店殿 |
| 3,000.00 | 株式會社 中島組殿 |
| 3,000.00 | 合資會社 西本組殿 |
| 3,000.00 | 株式會社 間組大阪支店殿 |
| 2,000.00 | 合名會社 大阪橋本組殿 |
| 2,000.00 | 株式會社 木村組殿 |
| 2,000.00 | 松尾橋梁株式會社殿 |
| 1,500.00 | 西田儀太郎殿 |
| 1,000.00 | 左雲勘治郎殿 |
| 1,000.00 | 株式會社安藤組大阪支店殿 |
| 1,000.00 | 合資會社 池田組殿 |
| 1,000.00 | 井上福藏殿 |
| 1,000.00 | 株式會社須賀商會殿 |
| 1,000.00 | 株式會社 中村工務店殿 |
| 1,000.00 | 大阪田島應用化工株式會社殿 |
| 1,000.00 | 大阪窯業セメント株式會社殿 |
| 1,000.00 | 大阪窯業株式會社殿 |

| 円 | |
|---|---|
| 700.00 | 株式會社 岡本工務店殿 |
| 500.00 | 株式會社戸田組大阪支店殿 |
| 500.00 | 株式會社島藤大阪支店殿殿 |
| 500.00 | 廣島藤田組 大阪營業所殿 |
| 500.00 | 株式會社 新工務店殿 |
| 300.00 | 不動建築株式會社殿 |
| 300.00 | 西林岩助殿 |
| 300.00 | 株式會社 小坂井組殿 |
| 300.00 | 岡本芳雄殿 |
| 300.00 | 村野建築事務所殿 |
| 300.00 | 阪神築港株式會社殿 |
| 250.00 | 合資會社勝呂組大阪支店殿 |
| 200.00 | 合名會社 熊取谷商店殿 |
| 200.00 | 株式會社 森本組殿 |
| 200.00 | 芝田工務店殿 |
| 150.00 | 日產土木大阪支店殿 |
| 100.00 | 市村兵次郎殿 |

（以下個人關係）

| 円 | | | |
|---|---|---|---|
| 1,000.00 | 長各部竹腰建築事務所一同殿 | 野中駒市殿 | 荻田眞之助殿 |
| 600.00 | （@ ¥ 200.00） | 竹中景一殿 | 伊東宗太郎殿 |
| 東畑謙三建築事務所一同殿 | | 石川純一郎殿 | 小林三造殿 |
| 須賀藤五郎殿 | 山脇友三郎殿 | 瀧邦一殿 | 平塚鎗吉殿 |
| 200.00 | （@ ¥ 100.00） | 三浦茂殿 | 鷲尾九郎殿 |
| 清水釘吉殿 | 田中豐輔殿 | 渡實幸殿 | 多喜昌三殿 |
| 150.00 | （@ ¥ 50.00） | 14.00 | 伴野貞三殿 |
| 今林彦太郎殿 | 井上新二殿 | 580.00 | （@ ¥ 10.00） |
| 津村芳三殿 | | 小林久男殿 | 森村正義殿 |
| 35.00 | 桐本楠雅殿 | 川勝隆一殿 | 黒澤重允殿 |
| 240.00 | （@ ¥ 30.00） | 黒澤研殿 | 足立正雄殿 |
| 和田貞治郎殿 | 岡部顯則殿 | 池田鐵五郎殿 | 千賀正人殿 |
| 藪中一良殿 | 芝田知重殿 | 瀬戸强三郎殿 | 田中市藏殿 |
| 中西六郎殿 | 松久保敬三殿 | 古川久吉殿 | 後藤敏郎殿 |
| 大下須三郎殿 | 小林清殿 | 木內定雄殿 | 木村捨藏殿 |
| 25.00 | 岩尾保衞殿 | 片桐嘉祿殿 | 前內文二郎殿 |
| 440.00 | （@ ¥ 20.00） | 大西幸七殿 | 鈴木廣好殿 |
| 飯田賢次殿 | 木田延衞殿 | 幸木貞夫殿 | 荻野賀一殿 |
| 岡本全男殿 | 市川正三郎殿 | 青木巖殿 | 奥井臻殿 |
| 若松初三郎殿 | 日高胖殿 | 宮川豐藏殿 | 青柳貞世殿 |
| 伊藤正文殿 | 和田喜藏殿 | 清山清治殿 | 井上利男殿 |
| 平松鶴吉殿 | 矢野義夫殿 | 伊藤新三郎殿 | 石河晃太郎殿 |

馬野七登殿　小川正殿
岡野寛治殿　川瀬喜久雄殿
早良俊夫殿　高松與吉殿
伊勢彰殿　新名種夫殿
井上一雄殿　松井清足殿
田中一殿　片山信一殿
安宅順一殿　川村脊藏殿
荒川義夫殿　藤岡照雄殿
岡部巖殿　前崎長造殿
杉浦喜三郎殿　瀬川庄三殿
辻徳殿　中島勝喜殿
塙信殿　濱田理一殿
廣瀬初夫殿　藤田元吉殿
松村俊雄殿　村田哲男殿
小澤利良殿　宇賀一郎殿

**28.00**　(@￥7,00)

淺野新一殿　家生健郎殿
桑原一雄殿　阪井米吉殿

**30.00**　(@￥6.00)

荒木久義殿　小早川美武殿
山田源藏殿　鈴木強殿
出向井佐次郎殿

**95.00**　(@￥5.00)

栗岡豊夫殿　大野鬼作殿
吉田光太郎殿　富永龜雄殿
小河吉之助殿　田中龜太郎殿
岩本基殿　大村勇殿
岸壯年殿　小泉昇殿
小山亥智郎殿　自髭二郎殿
高橋種夫殿　西村秀清殿
服部萬次郎殿　堀田堪殿
松山愛三殿　安田則世殿
山口挺二殿

**28.00**　(@￥4.00)

松本秀雄殿　伊藤文四郎殿
植田正三郎殿　澤津橋精次殿
久保正吉殿　二宮太平殿
高木太作殿

**6.00**　(@￥3.00)

吉本壽渡殿　濱岡荒吉殿

**138.00**　(@￥2.00)

山田良次殿　松本幸雄殿
森上次雄殿　井上由幸殿
入江秀夫殿　綿谷宏一殿
平田薫殿　中嶋良輝殿
天井勇殿　橘高壽殿
丸本欣治殿　富吉良之殿
臼井正三殿　岸好雄殿
野田一夫殿　津田鑿殿
吉原侑三郎殿　金田洋三殿
伊藤惠造殿　實崎靖殿
大植忠利殿　井上新平殿
堤奈良吉殿　箕浦奮一殿
西村銀三殿　畔上眞治殿
旭野清殿　天地嘉平治殿
粟井一馬殿　井筒吉兵衛殿
梅田功殿　岡本豐殿
大村重吉殿　奥田孝作殿
加治佐三四郎殿　角林勘三郎殿
樫本清殿　久保正一殿
楠正已殿　小西池堯殿
小林武夫殿　五島政男殿
佐々木一夫殿　阪本忠義殿
須川徹一殿　千原大五郎殿
土佐正作殿　中居榮藏殿
中村英夫殿　西野正義殿
花田長市殿　林政一殿
東本修殿　法田明殿
細川唯一殿　堀川竹雄殿
水谷儀太郎殿　本橋常吉殿
守谷茂殿　森山清治殿
森脇秀雄殿　安田繁藏殿
山際光三殿　山田邦夫殿
山田軍三殿　山中吉郎殿
米田良男殿　和田久治郎殿
杉原良一殿

**十一月分　計　￥135,709.00**

**累計　￥154,770.00**

昭和十七年一月一日

**日本建築協會**

# 建築と社會

第25輯　第1號　　昭和17年1月發行

## 一　月　號

目　　次

アート頁
新年を迎ふるに當りて……片岡　安…（1）
年頭所感……井上新二…（1）
年頭所感……伊藤正文…（2）
年頭に當りて農村住宅を展望す……竹内芳太郎…（4）
日本に建てる住宅……山田　醇…（6）
防火改修事業一ケ年の回顧……大野勝三郎…（9）
最低限生活の要請と建設住宅の基準……西山卯三…（13）
木材配給機構に就て……松本儀八…（17）
體位向上厚生施設に就て……野中駒市…（20）
簡易生命保險の保健施設に就いて……佐藤重夫…（31）
イコマサンと厚生鍛練……竹内　孝…（35）
修養道場・八紘苑……荒川卓次郎…（37）
我社の厚生施設に就て……南　岩男…（38）

★紫　烟　室★

二人大名……山口　正…（41）
燒夷彈と火災の特異性に就て……富田　清…（44）

★新建築欄★

大阪市立職員厚生園・體育會館・：日本電力產業報國會修養道場・八紘苑・：三友會武庫川……運動場クラブハウス：

會　　報……（47）



連　峯　雲

# 新年を迎ふるに當りて

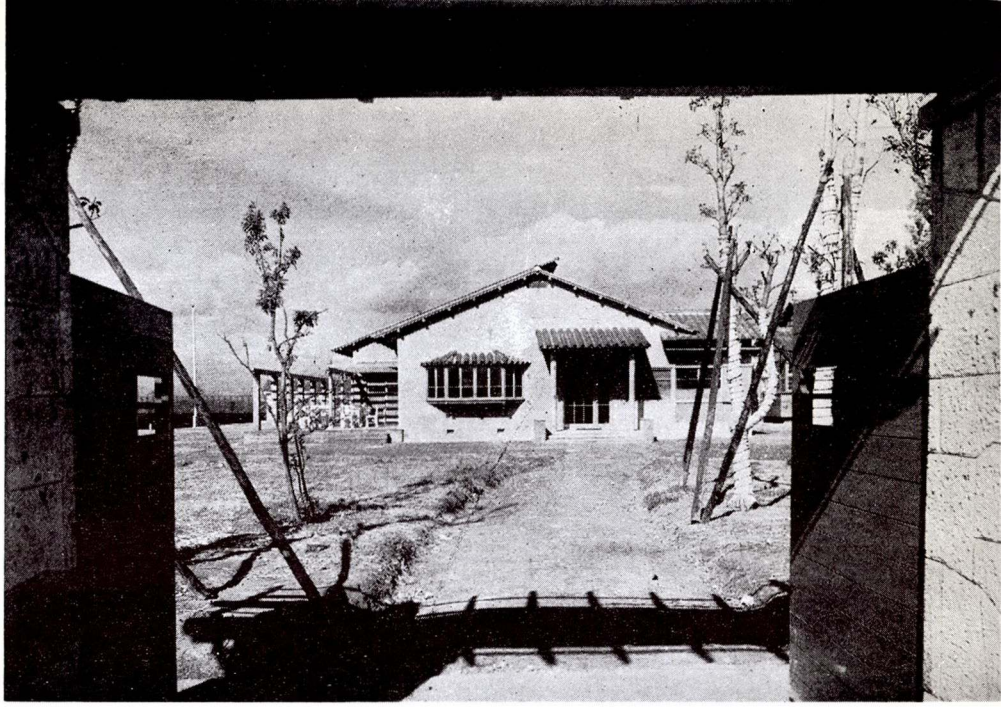
日本建築協會會長　片　岡　　安

新年を迎ふること正に25回に及ぶ、その間本會は年一年とその面目を新たにして職域奉公の實を擧げ來たのであるが、最近數年間我國が東亞新秩序建設に乘り出して以來の本會の努力は相當目覺しいものがあつたことは會員一同の窃かに得意とするとこ

ろであつた。然るに大東亞共榮圈の建設には幾多の困難と强力なる沮害が加はり、此處二三年間の國民の苦闘にも拘らず可なりの憂鬱を感ぜしめたのであり、特に最近の米英の傲慢なる壓迫的態度には最早忍び得ざる事態となり、畏くも去る十二月八日渙發されたる畏き宣戰の大詔に依り、大東亞戰爭の幕が開かるゝに立至り、僅かに旬日を出でざるに早くも太平洋も南洋もさては印度洋も長らく米英海軍力の制覇に委ねられたかの如き形態は全面的に排撃されて日章旗の威力は突如その實力を發揮して東亞共榮圈の確立に輝かしき黎明を齎らしたのであつて、大和民族の大使命は着々とその目標に向つて勇敢なる進展をなしつゝあると見て差支はないのである。

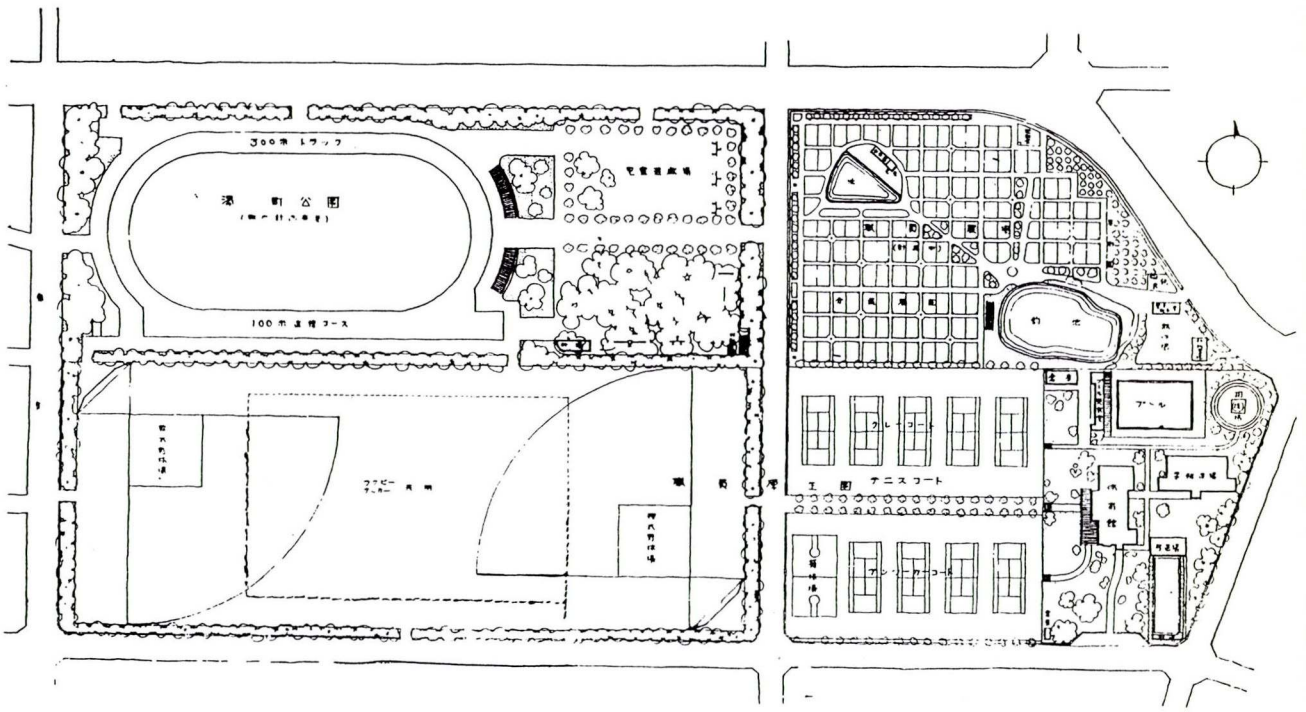
今や大東亞共榮圈の建設はその實現期に入つたのである。我々建築工作に當るものは過去數十年に鍛へ上げたる手腕とその識見を以て、此偉大なる建設の一面を負擔しその完遂に精進せねばならぬのは固より、此名譽ある大事業の計畫とその運營に當るには、從來の如き小規模の小乘的活動を離脫し、大局を把持して、各員それぞれの長所を集結し、百年の將來を充分に見透したる善謀善策を基礎としたる一貫せる大計畫の下に協力一致、その實現に邁進すべきである。

過去數十年の我々の建設は凡て局地的であり小規模であつた。しかし大東亞地域の大建設に對する準備であつたとすれば、必ずしも無駄ではなかつた。今後の我々建築界の人士が擔ふ責任も亦重且つ大なるを感ぜざるを得ない。



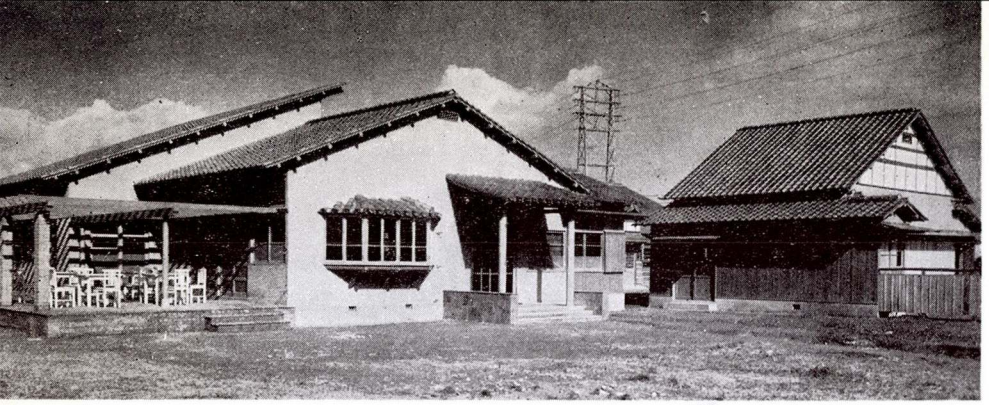
1. 正門より本館を望む

大阪市住吉區澤ノ町、南海電車阪和線我孫子觀音前下車、西へ行く事約2丁餘にして、廣大な地域に一大綜合運動場のあるを見る。青空の下にくつきり浮んだ本館は如何にも明朗な體育會館らしく清淨な感を受ける、門を入つて約十間餘本館がある玄關は南向で明るい。平面圖で御覽の通り近代運動の程んど凡てを揃へて、設備のよさに、感心させられる。



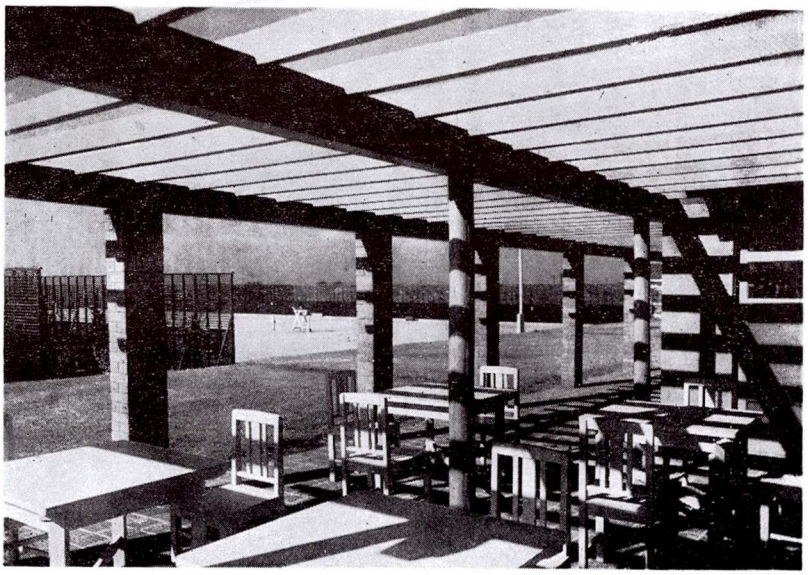

大阪市立
職員厚生園

職員厚生園平面圖



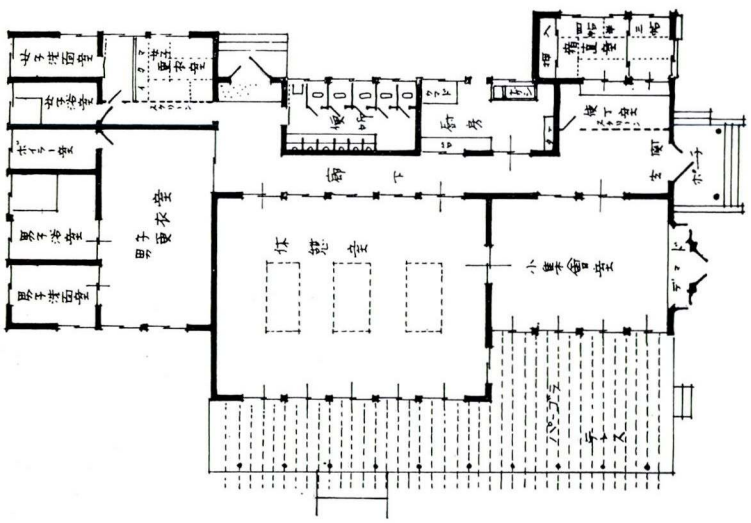
**2. 本館**（東南より望む）

玄關の横に瀟洒な出窓があり露臺は、純白なパーゴラとの對象が非常に美くしい。



**3, 露　臺**

やがて藤や、葛が青々と繁り、そよ風吹くパーゴラの下に、運動に疲れた體を横へ冷い飲物をのむなど實に壯快であらうと思はれる。廣さは約十坪程である。



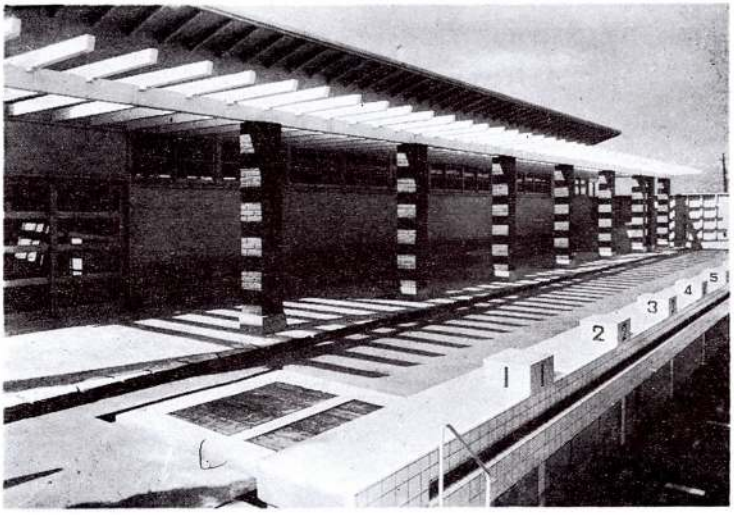

4. 體育會館平面圖

大阪市職員厚生園・體育會館・設計　大阪市役所健築課

大阪市立
職員厚生園

設計・大阪市建築課





**5. 水泳プール**

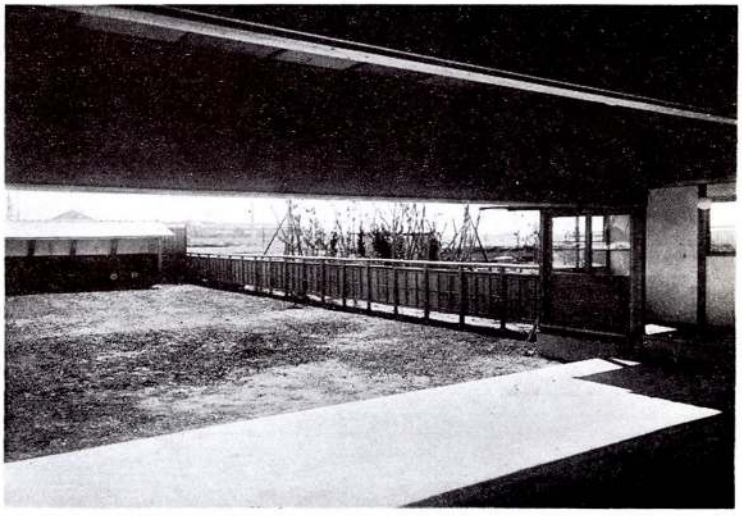
東南隅より脫衣場の方を見るクツキリと浮び上つた白い線。飛びこんで泳ぎたくなる。夏ともなれば隨分と河童連で賑ふ事であらう。プールは25米突プールである。

**6. 水泳場脫衣場**

脫衣場の內部がよく整理の出來る様な方法を採つての設計だそうだが殘念ながら內部を見る事が出來なかつた。

**6. 弓道場**

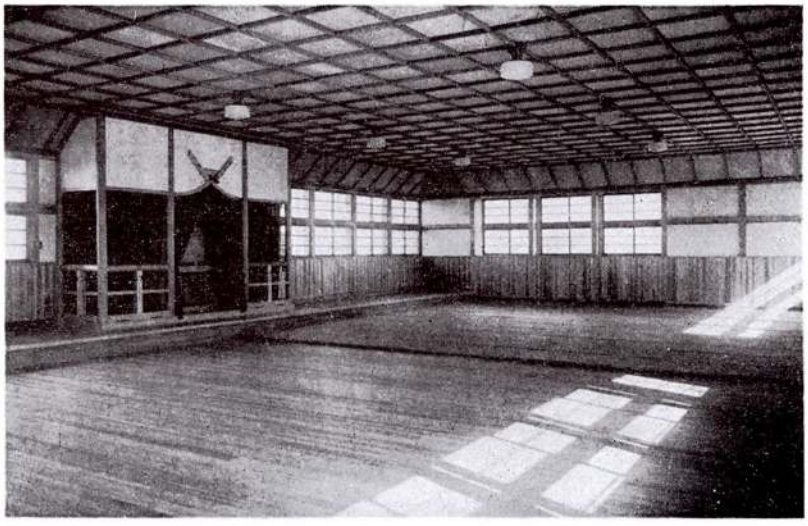
射場は南向きの明るい所で構造としては別に變つた所はないが射手の場所準備場が思ひ切り廣くとつてあるのは氣持がよい。





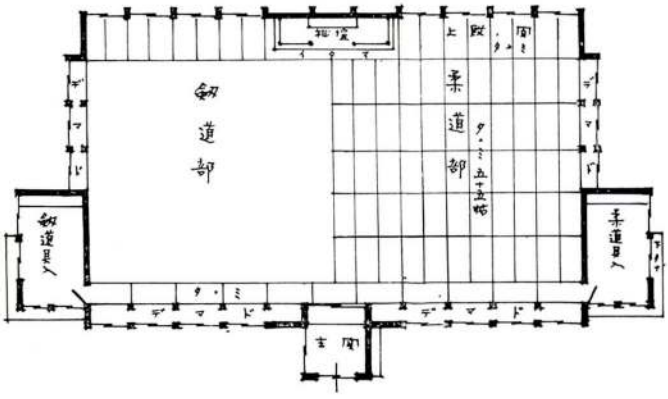
**7. 柔劍道場**

武道場としては一寸變つた建方で近代式建築風の內に武道場らしい感を與へられる。南に玄關あり。

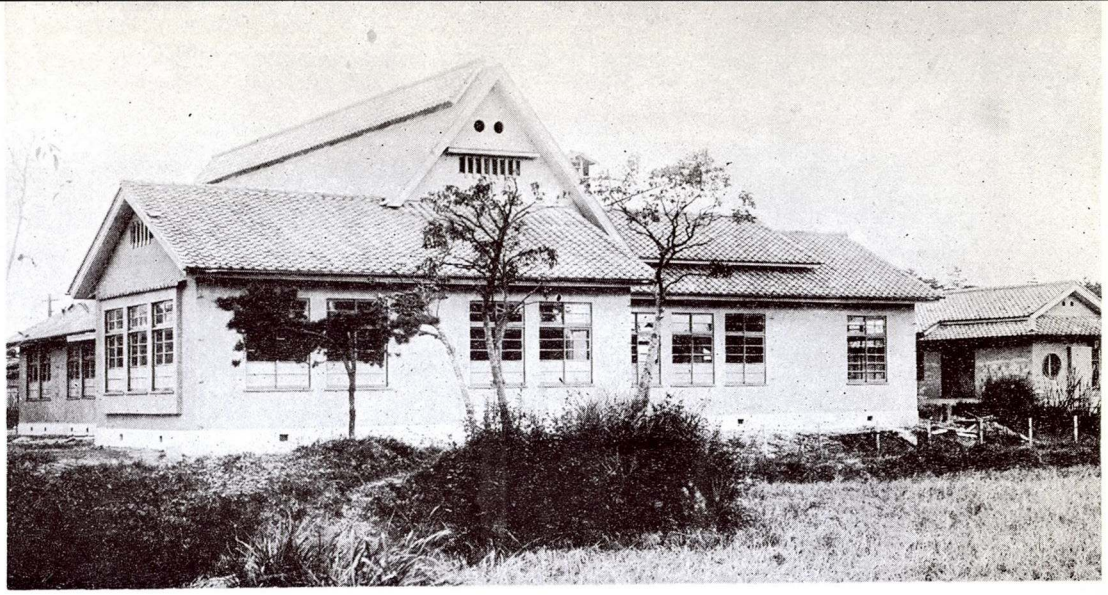


**8. 道場內部**

玄關を這入ると正面に武道神を祭る祭檀あり。內部は大變明るく氣持がよい。通風採光共に申分がない。




9. 道場平面圖

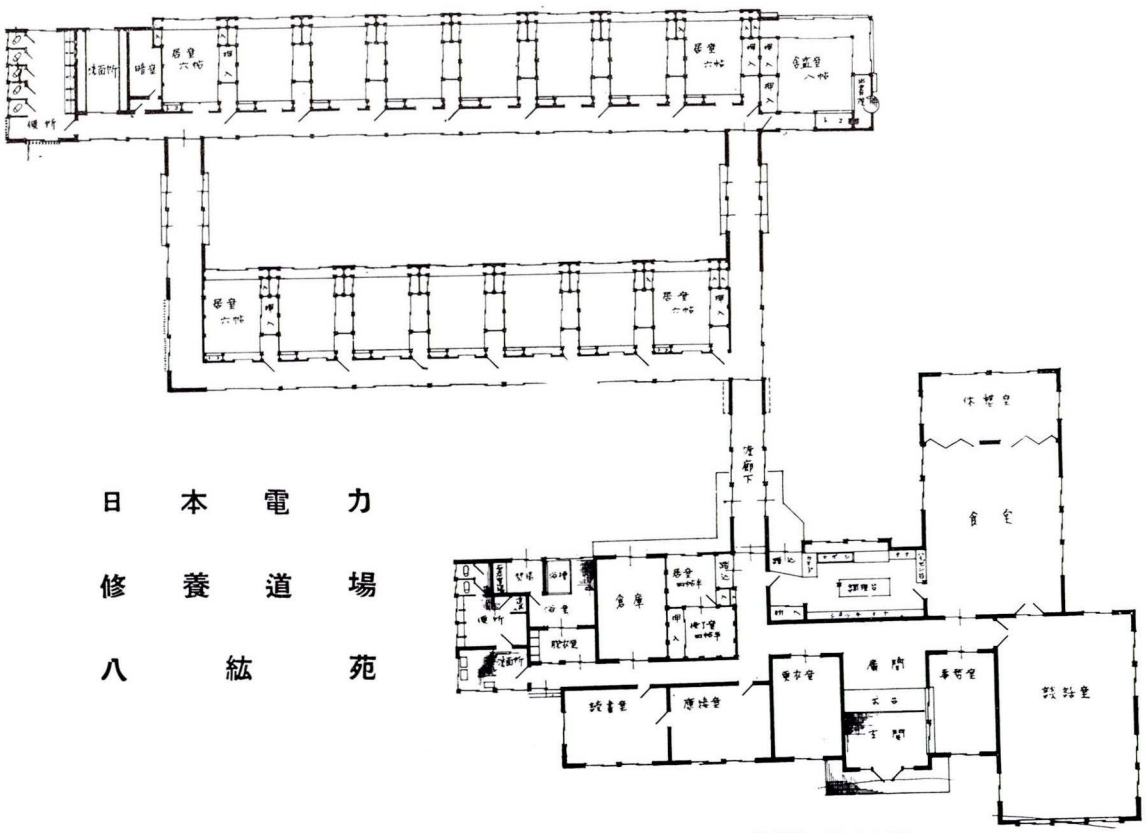


1. 談話室、食堂及寮の一部（西側より見る）

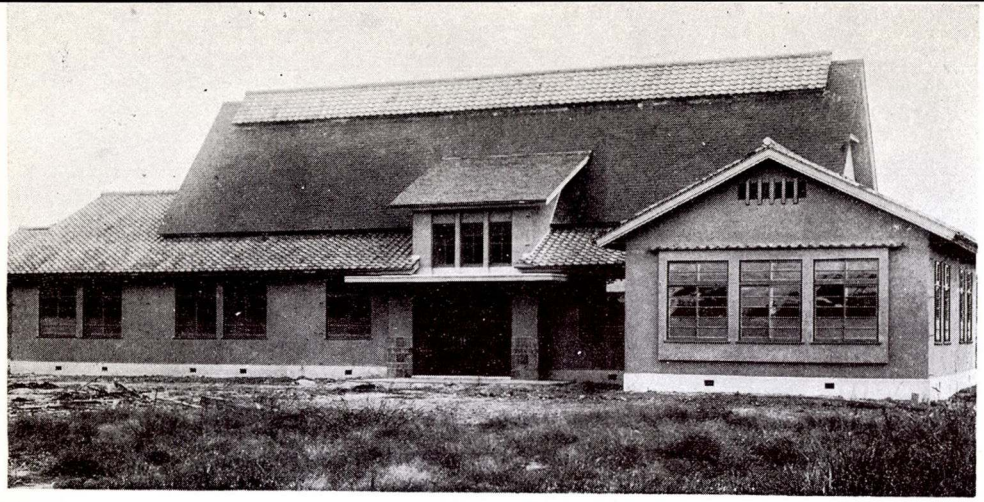
位　置　大阪府南河内郡藤井寺町

大鐵沿線藤井寺下車、西南行く事約十丁餘松林の彼方に本館を中心にして厚生園がある。山あり森あり、池あり、四季とりどりの眺めよく、野球グラウンド、相撲場等運動設備も完備し、運動場の周圍には果樹園、蔬菜園、花壇なども設けられて居る。同社が社員の皇道精神による錬成と身心の練磨を圖り、又は日光と親む事により家族をも含めての健康增進を計る計畫には敬服する。

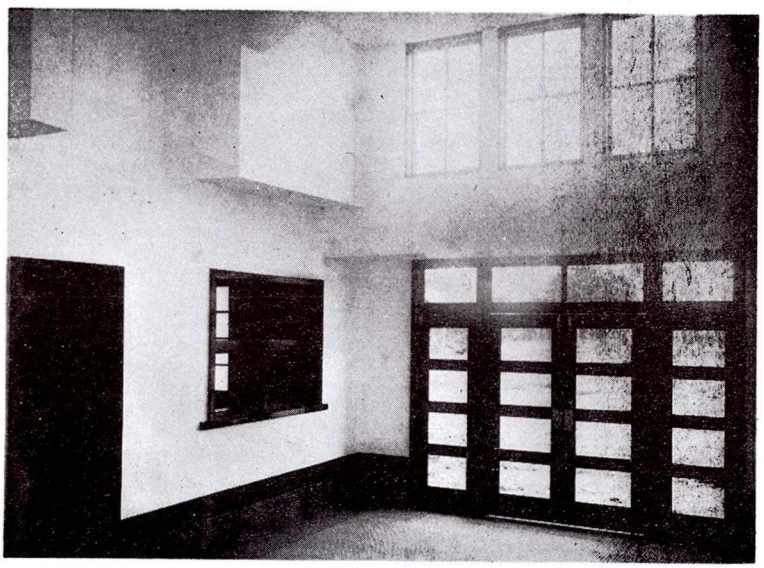
日本電力
修養道場
八紘苑




八紘苑　平面圖

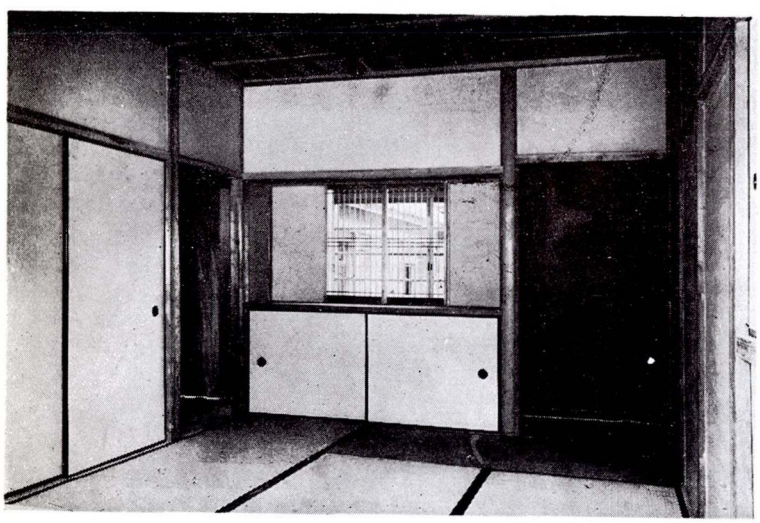


3. 玄關正面及談話室



4. 玄關內部

北方の庭園及蔬菜園を見る、玄關は北向であるが採光に考慮が行き届いてる爲か明るい。



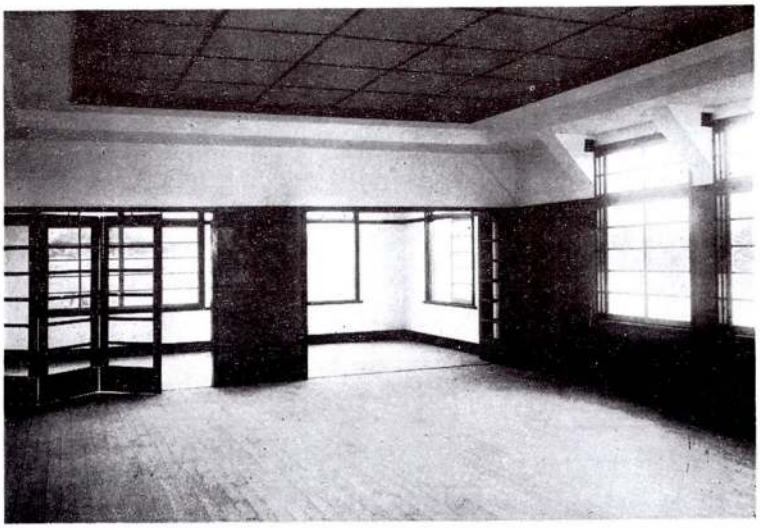
5. 一宇寮居室

合宿所ではあるが、此うした合宿所に有り勝な殺風景さを出さない様、務めて家庭的雰圍氣を出し、床の間、チガヒ棚等を配しての設計には同社の意圖する處が充分にうかゞわれる。寮は全部南向で明るい。

日本電力産報會
八　紘　苑

設　計　池田谷健築事務所
施　工　楠　谷　組





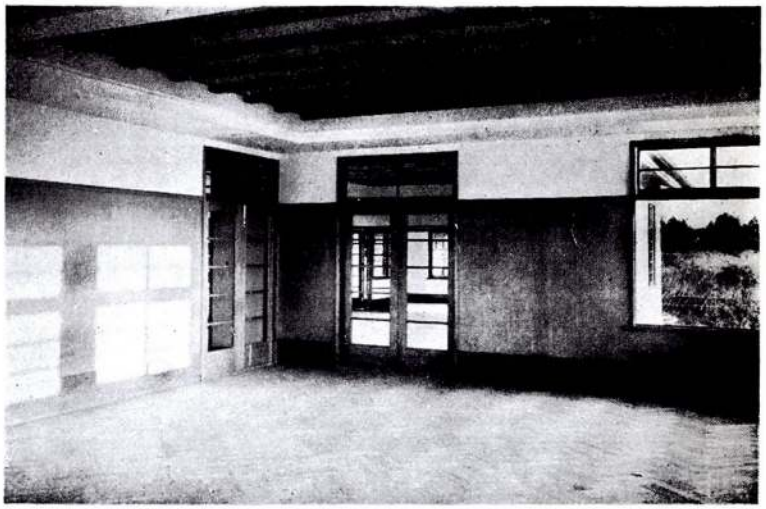
6. 圖書室及玄關談話室
（外部より望見す）

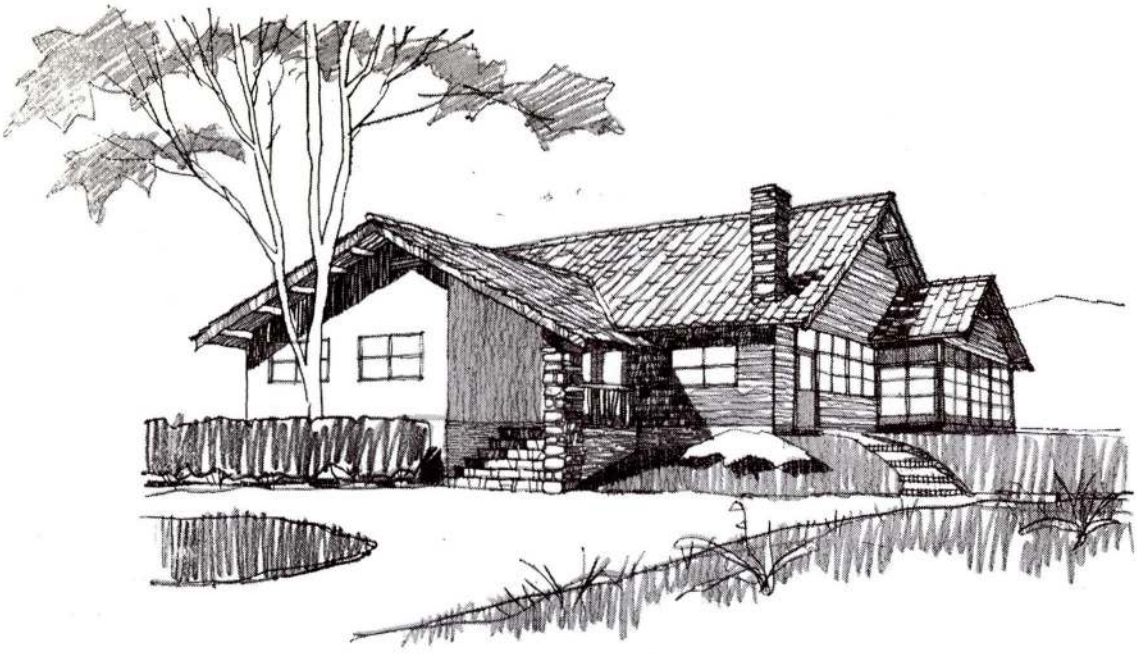
7. 食堂内部

充分に食堂を明るくさせる爲採光に注意してある。通風、保温は適當に考慮されての設計で寫眞撮映の當時はまだ完成せず窓硝子も這入てない狀態である。

8. 談話室

今は立派な家具も這入つて談話室らしくなつて居る。至れり、つくせりの設備で窓も西、南に多く室内は明るい。扉を開いて出るとサンルームがあり、食後の談笑に當てられて居る。





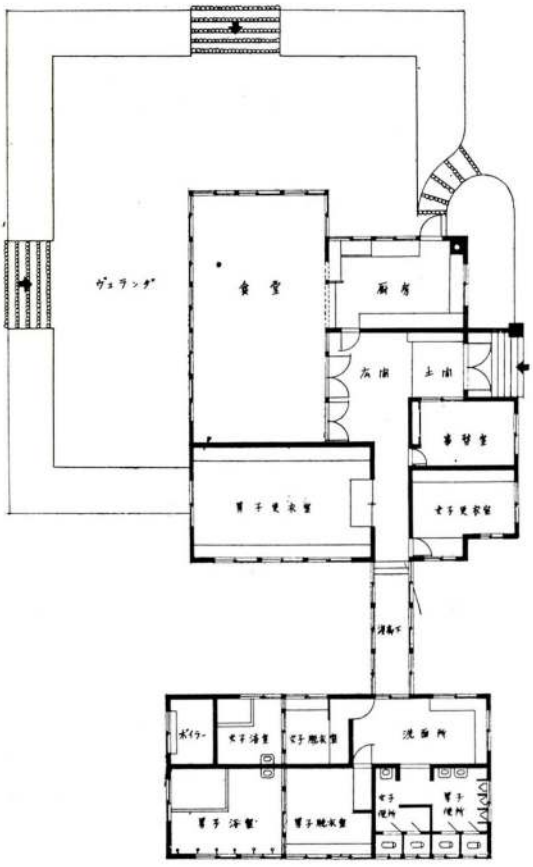
## 三友會武庫川運動場

**設計施工　　竹中工務店**

位置　兵庫縣川邊郡野間

阪急伊丹線稻野下車、西へ約25分行くと木間がくれに瀟洒な建物の本館を始として大綜合運動場のあるを見る。本館は未完成ながら東向の明るい建物で廣いベランダは樹木やパーゴラを配して運動後の疲れを休る場所としては實に好適で採光及通風申し分なく、此の種建築物の好模範である。

目を轉ずれば西にカブト山の連峯あり、丘あり、池あり、錬成と都塵を離れた厚生道場としては最適である。




### 1. クラブハウス

本館目下仕上最中ではあるが見た目にも會館としてふさわしい建物である。

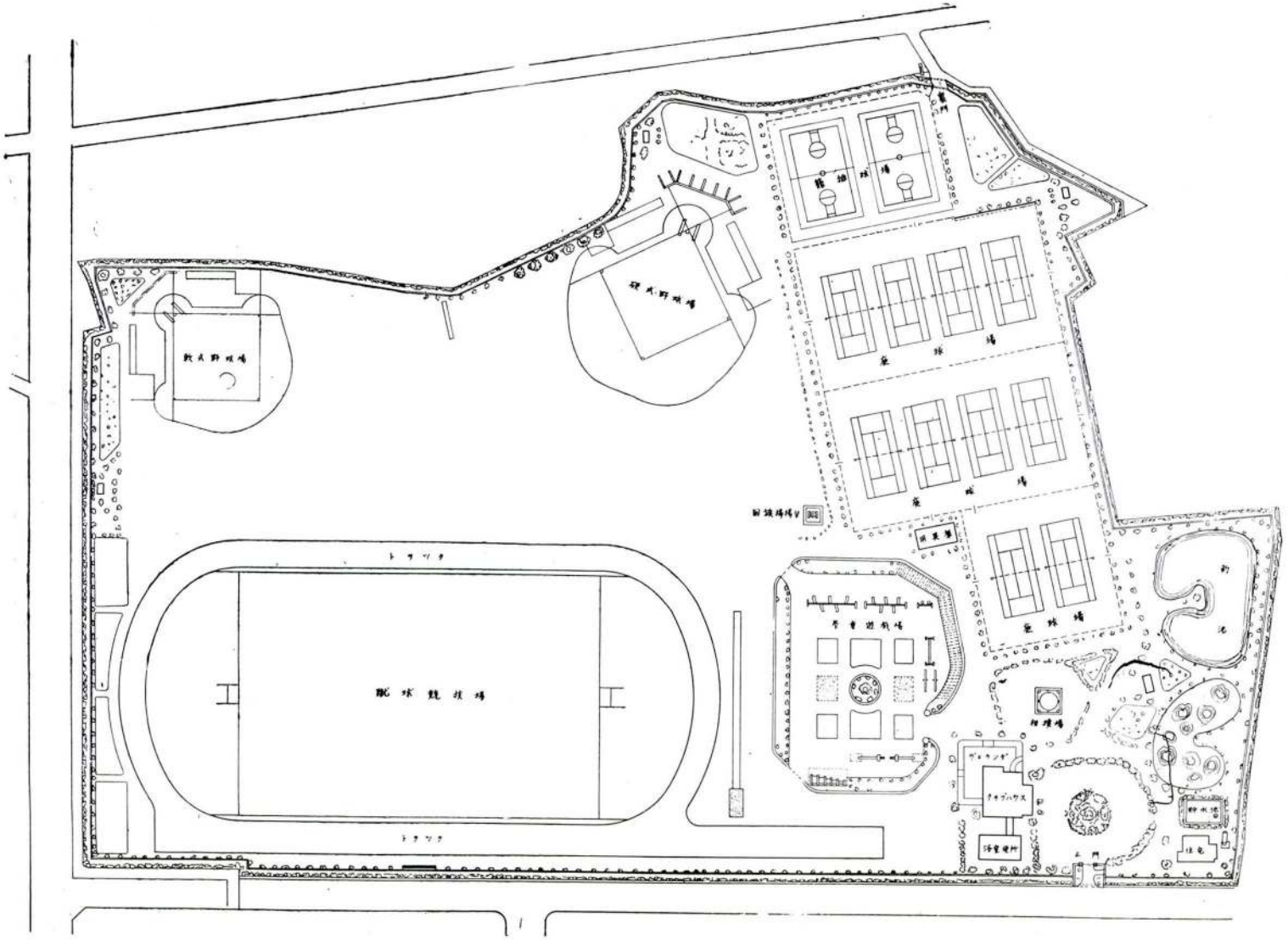
### 2. クラブハウス平面圖

木造　　平屋根　　建坪　50坪

外部　　板張ペンキ拭取、腰、入造洗出
　　屋根、鹽燒瓦葺

渡廊下及浴室便所

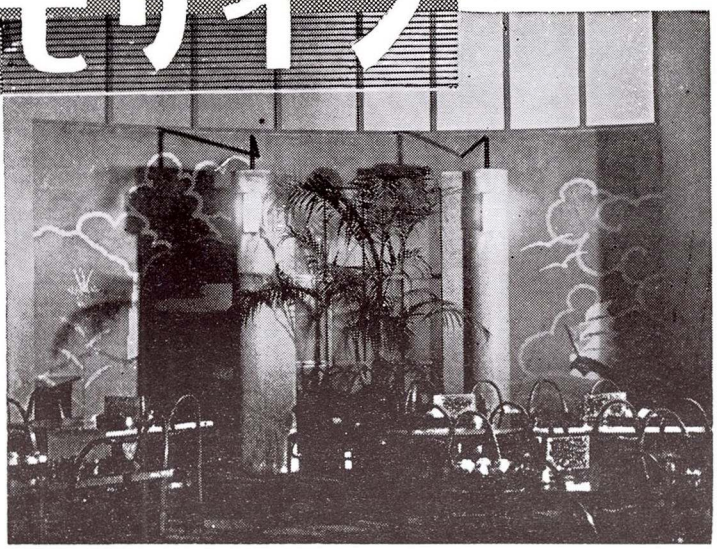
計　27坪


庭球場
庭球場
庭球場

専賣特許　便利な

# ラス・モザイク

塗料化されたる
明日のタイル



大阪・大鐵映畵劇場　食堂　ラスモザイク施工

**日本陶織株式會社**

大阪市東淀川區豊崎西通3丁目
電話豊崎㊲1388番カタログ贈呈




寧樂屋家具裝飾店（ナラヤ）

大阪市西區南堀江通1丁目43番地
（木綿橋電停南）
電話堺川 ㊸ 2663・7932

# 年頭所感

井上新二

皇國の興廢を賭して決戰に、一億一心となつて大和民族總進軍の時は來つたのであります。東亞新秩序の建設に過去四年有餘に渡つて大陸に戰を續けて來たが新秩序建設の大進路を事毎に防害し來つた敵性國家の米英に對して、畏くも昨年十二月八日渙發された宣戰の大詔により神速果敢な皇軍の壓倒的戰果に全世界驚異の裡に新年を迎へたのであります。

銃後の決戰體制も將に之からでありまして、國民の凡てがあくまでも強く如何なる事が起ろうとも一致協力して防衞にあたらねばならぬは言ふ迄もありません。

此うした時にあたり、今年の建築界の動向はもう既に確定してるも同樣であり、國土防衞に對して、一環をなす我が建築界の任務も亦重且大であります。都市の防空には多年私が事ある毎に申して居りました防火改修が最も急を要する事業なのであります。

現在の日本の都市は木造建築の集團都市で今迄焼夷彈に對しては殘念ながら殆ど無抵抗と言つてもよいのでありまして、其れではならぬので之に對して或程度の抵抗力を付ける必要があるので、鐵筋コンクリートにすれば理想ですが其れは急には出來ぬ事でもあり、兎に角、過渡期的な一時の彌縫策ではありますが、防空建築規則が出來、新らしく建築される物に對しては或る程度の防火構造を要求し來たのであります。又既設のものに對しても防火的改修をするものでありますが、此れは徹底したものではなくとも焼夷彈により火災を起しても、燃えて行く時間を延すと言ふ効果は充分にあります。從つて消火、防火の餘裕も出來る譯で防火改修の急務も其處にあるのであります。總ての物が焼夷彈により皆燃えてしまうと云ふこともなく隣組、警防團の力によつて此へ、又消火も出來るのであり、災害を局部的に出來るのであつて此處が決戰體制下最も急を要する事業である譯であります。

建築資材に就て言へば、現在防火改修事業、等に建築資材は優先的に配給をされる事になる、從つて一般建築に就て言へば、今年は建築物資は昨年よりも配給が窮屈になつて行くだろうとの見通しはあります。一般建築工事も自ら制限されて戰時下必要缺くべからざる建築物のみを建築する樣に、一般に自縮を要望したのであります。其してそれに依つて出來る餘裕物資を防空施設に振り向けるべきだろうと思ふ。

防火改修に就ては國土防衞の見地からしても最も急を要する問題で工事は從來は自發的に協力と言ふ意味合で極く少規模に事業を進めたが、戰時下防空法の改正により防火改修事業は法的に根據を持つ樣になつて來た。自發的に組合を作り防火改修をやる事に對しては政府も勸奬するし、又組合で補助金の交附を行つて來たが、いよいよ戰時體制下に入つては小規模の改修では木造都市の防空强化は最早期待出來ない。防火改修をするには相當な金額が必要であります。空襲の災害にそなへて金を掛けて、防火改修をして置けば火災に對しては非常に有効であります。戰時下の急務として、或る程度まで、一般建物の所有者の時局認識に訴へて、補助金無しで大規模の防火改修をなさなければならぬ事になつて來ました。

本年度の仕事としては此の戰時體制下に於ける重點は防火改修事業促進の一語につきるのであると思ひます。

# 年頭所感

伊藤正文

あらゆる文化面の事象についても、刷新を迫られてゐる時に當つて、我々の建築界は如何に更新されてゆくべきであらうか。

制度の上での新しい機構を確立すること丶共に生活態度について未だ未だ深い反省と實踐とが必要なのではないのか。

經濟狀勢の推移に伴ふ物的乃至人的資源の不足は表面に現れた重大な現象ではあるが、之に對處するに制度の改革のみを以つてして、果して滿足出來るのであらうか、更に國家目的に添ひ得らるであらうか。

いつの場合も、更新の轉機に當つては、相關的な二つの面が色々な形であらはれて矛盾する樣が著しくなつてくる。

今も、建築界について見ると、差迫つた應急的な居住問題の解決策と、國民文化の高揚といふ悠久な立場からの考慮とが、異つた面の姿を現してゐる。即ち、應急的の面としては質の良否よりも量の大を望み、しかもその方策としては劃一化への規制を主眼とする。所謂生活の合理化といふ一應の經濟限度の程度に目安を置いて規格的一元化を理想とする事業の促進である。

しかるに文化高揚の建前からは、量的に見た規格化でなく、意味に於て國家目的に添ふべき統制の下に創意、創造の面に於て、或は科學的妥當性の面に於て、寧ろ個性の力を尊ばうとする。

前者は、所謂協同化の面であり、後者は個性化の面である。量的解決と質的改善との相對である。經濟的現實と、生活の人間性との問題である

茲に、緊縮さるべき國民生活の全般について考へると、無駄にして無意味なものが如何に多くあつたかと云ふことが反省される。住居についても生活用品についても、藝術的價値となり全くの無駄な制作、製品の如何に多かつたことか。ついには、手間のかゝつた度合、エネルギーの多く費されたものをもつて價値ありと誤認せしめることすらあつた。特に生活用品、工藝作品にそれがどれ程、文化的にも國を災して來たことであらうか。こうゆう誤られた感覺からは依然として、單純なものは價値なしとする見方が根强く殘されてゐることである。茲にも生活制新への指導が如何に困難であるかゞ伺はれて來る。

生活用品の機能と美觀とが、ピツタリ合一して來るには、國民學校の工作教育の方針、指導者の認識力の問題も伏在して一朝に解決することの困難をしみじみと感ぜられる。

その意味に於ても眞に協同化への文化的高揚は理念的に可能であつても、現實の問題としては却つて安きに就かんとする低調卑俗に陷ることが多いのである。

斯樣に考へることによつて、單なる協同主義的方針の危險性が多いことが知られる。又茲に斯樣な動向なり、指導方針なりに對して强い反省が、必要となるのである。

丁度第一次歐洲大戰の結果は、物資、勞力の價値を新に見直さしめ、工作に對する徒らな勢力の浪費が如何に無意味で無駄であるかを知らしめ、建設と生活の美は、目的への眞の機能に現れることを教へたのであつたが、今は亦、國民的自覺による國民文化の高揚と精神的な力の表示に深い反省が求められつゝある。

而して今次事變乃至大戰の影響は、切實に舊慣朴守の生活態度を打破して、新しい發足を促してゐる。そこで考へられることは、國民生活樣式の特に住居の、量の面に於ける解決は政策上の一面として、技術的企畫的には質の面の改善の急務なことである。

現實に於て住居問題は經濟的、社會政策的に於

て解決されようとしてゐるが、文化的質の面に於ては遺憾ながら明確な方針がない様に見える。

住に含まれる生活用品と亦之に準じ、簡易化、協同化の面の強調のみが眼に立つて、實質的に合理化され、美化され、却つて經濟化されるには未だ遠いかの感をすら與へてゐる。

質の向上、文化的高揚は、只科學化、合理化のみでは解決されない、創造的な個性の力に俟つて科學や理論や經濟が生活化され、美化される筈である。創造力の發動は、個人の能力のつゝましやかな鉄錬の成果である。して見れば、文化的勞作にたづさはる者の必須の態度として、國家目的に添ひ、國民をして感奮興起せしむる爲に、偉れた創作、創造の力を發揮せしめなければならない。

しかるに、規格化、標準化の範圍に於て多量生産の一面をのみ强調する時は、却つて創造、創作の熱意を萎縮させ、量に於ても減退の現象を生ぜしめ、全く意味を失ふに到るの惧れがある。

同樣に國民個人の生活樣式に對する工夫改善は國民個人の創意的興味を動力とする。茲に文化統制、特に造型文化方面の協同化による基準樣式が稍もすれば、低調卑俗化するの憂をもつものである。

經濟的には安價でもよい、資材亦粗末でもよく構成方法も簡易でよい、しかし、構成された効果が、機能的な美しさに徹する樣な、勤勞精神と勞作とが今必要なのだと思ふ。

國民の生活は質素、簡易でよい。否さうならざるを得ないが、簡素の中に品位と健康とが保たれ寧ろそうゆう文化の向上が需められつゝある。

所謂、理念的な言論や政策の訊議よりも、勤勞文化への精神力と實踐とが國の爲に要求されつゝあるのだ。

斯くて、國民個人の創意と人間性を尊重し、しかも國家が必要上指示する土地に、國が要求する規模形式の住居を建設せしめ、奬勵する。之がドイツのジードルンクの意圖である。

盛上る力は、國民個人の創意の發揚であり、國家の企圖する國土計畫、經濟計畫、防衞計畫は、國家統制の指導精神である。

國が協同化を特に强調し、生活全部面に劃一的な統制力を行使するコルホーズの意圖との對照を今、我々の惱裡に畫いて比較する必要があるのではないか。

我々は日本の現在の問題に直面してゐる。

日本の住宅問題の學的檢討も更なり、現實の方針が、もつと論理的、國策的に透徹の域に入ることを期待すると共に、現狀勢の推移が居住の形式と量とに於て、果して要求する樣になるであらうかの見透しをつけるべき研究に着手されてよい筈だと思ふ。

それは國防的に、又社會學的乃至經濟學的にである。

建築職域に在る者にとつては、實質的協同化への理論を認識すると共に、個性的精神化の面に於て、勤勞文化への實踐的奉仕の覺悟を要求されてゐる。國の政策としては、國家目的に於て統制し創造的勤勞文化建設の精神を指導する方途こそ緊要であると信ずるものである。

（筆者は工學博士神戸高工・早稻田大學講師）

# 年頭に當りて農村住宅を展望す

竹内芳太郎

昭和16年の農村住宅の全貌に亘つて回顧し乍ら今年度の展望を極めて概観的に述べてみよう。

言葉の詮議はいつも退屈なものであるから省略するけれども、普通の常識では、農村住宅といふ場合には、所謂民家を包含してゐることは勿論であるが、民家といふとどうも狭義に解釋され易い。

多分「民」といふ字が邪魔をして、民藝的な臭が發散するからだらう。私の使ひ慣れた言葉で云へば、茲では農家々屋と云つた方が、内容と合致してゐるやうに考へられるが、普遍性に乏しいので特に農村住宅で代用させたことだけは、豫めお斷りして置いた方が良いと思ふ。

農村住宅を對象とする學問や、之を扱ふ部門といふものは案外に多い。例へば建築歴史でも地理學の方面でも、民家として研究の對象に取り上げられるし、民俗學や民族學、それから鄉土誌學の側からも觀察される。きうかと思ふと農業の方面特に農家經營の方では、住宅としてだけでなく職場として、個々の住宅は勿論、聚落全體の問題に迄、發展させて考慮すべき重要なものとされてゐる。

以上の如き理由で、農村住宅は時には、貴族の邸宅や武家の屋敷と同列に、同じ價値を以て思考の對象となることもあれば、或は都市住宅とか、民族を異にした土地の住宅とも比較研究されることもある。更に、又言語や習慣の如き民間の無形傳承と同時に、有形傳承の一つとして、民家が考案されることもある。

考古學を含めて概括して民家の史的研究に關しては、この數年來、各地に現存せる古民家の調査や實測が、相當に活潑に行はれてゐるし、古文書や繪巻物の類だとか、物語の中からも、民家の在りし姿は糺明され、乃至は先史考古學の分野に於ては、發掘品や遺跡によつて、遙かに遠い昔の面影さへも、偲ばうとの難行がつゞけられて来てゐる。

此等の幾多の人々の勞苦によつて、年代記的に或は地誌的に、民家の外觀や間取、構造、及び技法の末に至る迄その系統や分布の如きものが、多少明かにされつゝあるのが現狀である。

民家研究會に於ても、誠に微々たる力ではあるが、常に各地の民家を紹介して研究者に寄與してゐる。實測の技術や調査の方法に就ては、中にはまだ稚拙にして不完全なものも無いとは云へないが、それでも會員の不斷の熱心な協力によつて、異る土地の民家の概況だけは、居乍らにして察知し得られるものが多い。

又雜誌「住宅」に於ては、屢々主として近畿地方の民家を、多少觀賞的な見方で紹介してゐるが之なども資料としては傑れた價値あるものゝ一つに數えることが出來る。

今年度に入つてから、民家の現狀調査で著しく眼に立つことは、調査者の視野が外地に迄轉開されたことである、外地といふ言葉は、或は當を得ないかも知れないが、滿洲や朝鮮の民家が紹介されることが多くなつたことは、吾々としては喜びを以て迎へなければならないと思ふ。滿洲拓殖會社では、所謂滿洲五族の生活調査、特に農民の家屋の調査研究を計劃的に行ひ、相當奥地に迄　危險を冒して若い調査員を派遣し、幾多の報告をもたらせてゐる。然し不幸なことには、その報告書は、一般に公開されないので、折角の貴重な資料も充分に利用されることの尠いのは遺憾である。

斯くの如き狀態で、この種の領域での學問の進展には、睹るべきものが多々あるが、まだ何と云つても資料は充分と迄は云へないので、今後尚數年間、或はそれ以上もの間は、この苦しいボーリ

ングが續けられて行くことであらう。

地理學や民俗學の方面でも同樣であつて、斷片的な資料採集に努めてゐるが、狹い見界で物を觀察し、成功を急ぐ人はいつも失敗を繰り返してゐる。結局未だ當分は素材探求の時代であるといふ感を深くするばかりである。

地理學では「民屋地理學」の提唱があり、その出版物も公けにされてゐる點特筆すべきである。從來とても住居は、人文地理學の一課題として取扱はれては來たが、提唱者島氏は、別に一つの學問として體系づけようとの熱意を以てゐられるだけに將來の發展も期して俟つべきものがあらう。

民族學界では、柳田先生が「居住習俗語彙」を公刊されてから、特に著るしい行跡を見ないが、依然として民家そのものだけを對象とするのでなく、そこに營まれる住生活に根ざした、各地各樣の傳統的習俗の採集が續けられてゐる。生活の一表現としての民家研究は、今後建築家の例でも此等民俗學的方法を適用させることによつて、一層その深度も增されることゝ思ふ。

次に十六年に刊行された民家に關する著述には今先生の「草屋根」である。隨筆集であり、舊稿を一卷に纏められたものであり、又內容は必ずしも題名から想像される如く民家にだけ限られたものではないが、示唆に富む論文も含まれてゐて、後進を益する處が誠に多い。殊に之に據れば、先生の民家研究上の輝やかしき業績が、窺ひ知られるばかりでなく、一つの方向を指示されてゐる點特筆に値するものである。

又近來漸く聲の高くなり來つた日本文化の再檢討と云つたやうな意味から、建築學會では本年の秋の定期展覽會の主題に日本民家を採りあげてゐる。そしてそこには誰でも着眼し易い民家の歷史的、考古學的乃至は觀賞的な面ばかりでなく、新らしい農村文化建設のため、住宅の受持つべき分野をも取扱ひ古い住宅に如何に新らしい生活を盛り込むべきかをも展示したのである。

之と似た角度で、幾分政治性を持たせた運動が日本文化中央聯盟や大政翼贊會などから發足してゐる。即ちより健全な地方文方振興のため、衣や食と共に住も重要な地步を占めてゐるのである。

以上述べた所謂民家研究とは、一見しては對蹠的な性質を持つかの如く感じられるが、農村住宅改善の問題が殘されてゐる。この問題は嘗て大正の末から昭和の初期にかけて、一般生活改善の理念の下に、主として保健衞生の側から檢討し、改善の勸奬を政府が指導したことがある。多くは臺所の改善といふやうな局部的改善に終始したやうであるが、全國各地の指導者の熱心な唱導と相俟つて今日でも之には尙著しき効績が窺知される。

この流を汲むものとして財團法人同潤會の業績も想起される。以下は勘からず私自身關係ある事柄になるので、氣の引ける感じがするが、同會では日本學術振興會の委囑を受けて、過去七箇年に亘り、東北地方の農村漁村住宅改善の調査研究を行ひ、漸く本年その事業を完遂したのである。その結果標準住宅の設計を完了し、報告書中に之を公表してゐる。

尙及之と前後して、財團法人東北更新會は、東北地方の生活更新に着目し、補助金を與へて、主として農村住宅の部分改善に努めて來た點も特に記述して置く要がある。

東北地方の農村住宅改善に關しては、東寶映畫會社の文化映畫部で、約半歲餘の日子を費して「農村住宅改善」なる映畫を作製した。單なる興味本位の映畫でなく、農村文化の啓蒙や指導に寄與する點尠くないと信ずる。

第七十六議會は臨戰體制下に於ける國策遂行に遺憾なからしむるために、特殊法人として住宅營團と農地開發營團及び帝都高速度交通營團の設立が決議され、日ならずして各勅令が公布された。この內、住宅營團は專ら時局產業に伴ひ著るしく拂底を告げた、勞務者並に庶民の住宅を建設供給することを以て事業の主要目的としてゐる。農地開發營團は、我國の最も重要なる國策たる食糧增產の遂行を期するために、未墾地を開發して、其處に自作農を創設し、健全な新農村を築きあげるのが目的となつてゐる。從つて前者は主として都市並にその附近とか、或は產業地帶に於て事業を行ふのであるが、後者は農村が對象となつて來る。

而して住宅營團の建設する住宅は、設立される地域の關係からも、亦數量から云つても、我國の

（以下16頁下段へ續く）

# 日本に建てる住宅

山田　醇

**保健住宅の研究**

私は三十年前に東大の建築科を出まして、一小建築家として建築の實際方面に從事して來ましたが、私の學校を出た頃には、施工や豫算の事を擔當するものは、大工上りの建築家か工手學校出のものが多く、私共が、か樣な方面に頭を向けると多くの人々から馬鹿にされたものです。事實私共は在學當時施工上必要な實際方面の事柄や、建築經濟に關しては、ほとんど教育を受けて居らぬ爲に、始めて現場に立つた頃は、今から想像すると無我夢中で、大工や左官になめられてとても閉口したものです。其の結果大いに感奮して、請負人や大工左官に頭を下げて、此の方向の研究に沒頭しましたが、一番苦心したのは木材の値段と質と產地の見分け方でした。

又學校を出た翌年東京に始めて一家を整へる事となり、市の內外に數十軒の貸家を見て、其の中で一番理想的な小住宅を選定して、其處で家內を迎へ子供が出來ました。處が四月に生れて七月には晝夜の別なく泣かれて非常に閉口して、數人の小兒科の博士に來診を乞ふたが、誰一人正確な診斷を下すものなく、不得止家內の親友の兄に當る當時無妻白面の一町醫であつた岡部國手（現在では小兒科醫としては、日本有數の臨床の大家です）を呼んで診察を受けた處が、抵抗力の弱い赤子が、家が悪い爲に、ヒステリーを起して其の結果榮養不良となつたので、榮養劑を持つて凉しい處へ轉地するならば、直ちに回復するであろうと云ふ事で、當時家內の祖母が日光に居住して居つたので早速日光に送り屆けた處が、僅に二週間餘りで全快した事がありました。

私の理想の家が悪いと云はれた事が、大變に私を刺戟して早速最高最低寒暖計や濕度計などを買入して、自分の家は勿論友人、知人の家の濕度を計り、家の形、家の向き、日光の當り工合などを測定した結果、私の理想の家は奥行が淺い事と、所謂辰巳向きであつた爲に、筋向ひの家が八十五度の時に九十三度であつた事を發見して非常に驚き爾來保健住宅の研究を思ひ立ち、如何にせば夏凉しく、冬暖なる家を作り得るか、しかも夫れが丈夫であり、便利であり、經濟的であり、尙且體裁善く出來るかと云ふ事に就いて、八、九年間熱心に研究した結果一貫した成案を得て、大正十年に歐米を一巡して大小善悪多數の住宅を見學しましたが、氣候と習慣を異にする歐米住宅では、建築の樣式や家具の種類位が目に止まつたのみで、保健的住宅には何等參考になるものを見出しませんでした。

餘談になりますが私は一度は歐米を見度いと思ひまして、日露戰爭の二三年前から世界各國の人々と、長い間繪葉書の交換や郵便切手などの贈答をしたので、住宅の研究に非常に便宜を得ましたが、氣候と住宅の關係を調べる爲に、同一シーズンに英佛獨の住宅に二、三週間づつ居住して見ました、之れが爲にドーバー海峽を一年間に九回も往復しました。

從つて知人の親族友人等の家を、上下貧富の別なく相當數多く見學せしのみか、三日も四日も色々な階級の家に宿泊して家人同樣に生活して、おしめの洗濯や料理の方法や衣類の保存法や納稅等の事柄迄詳細に調査した結果は、前述せるが如く氣候と習慣の異なる彼等の住宅から得る處甚だ少なく、結局日本の住宅は日本の氣候に立脚して、通風、換氣、日當り、採光、防濕、耐濕、壽命と云ふ事を眼目とし、夏凉しく冬暖かに、地震や風雨に安全に、我々の現代生活に不便なく、しかも一家の保健に留意し、其の上經濟的で尙且美觀を損せずして下品にならぬ樣、建築すべきである事を痛

感して、以上の建築的要素を一々解決すべく今日迄努力して來ました。

**氣候を無視するな。**

我國の氣候は四季の變化があつて、農産物等には非常に都合善く、我々の小學校の地理書には世界一良い氣候であると書いてありましたが、文化人の居住の爲の建築には、甚だしくトラブルの多い氣候で、特に歐羅巴の氣候に比して、夏は暑く冬は寒く其の上夏冬の濕度が全然反對である事に注意せぬと、保健的住宅を建てる事は斷然出來ぬものです。即ち日本に建てる住宅は、夫れが洋館でも和風でも完全に日本の氣候に順應する樣に工風する事が肝要で、日本の氣候を無視して、歐米直譯の住宅は決してコンホタブルなもので無いと堅く信じて居ります。

歐米一巡後此の信念に狂い無き事を慥かめましたので、昭和三年の初夏「**家を建てる人の爲に**」と云ふ小冊子に、此の事柄を稍詳述し、更に昭和七年の晩春「**住宅建築の實際**」と稱するものを出版して、更に體驗と信念とを力說した處が、出來損じた家の改善希望者が殺到して非常に閉口した事がありますが云ふ迄も無く我々文化人の住宅は一家團欒の牙城でありますから、保健、堅牢、經濟、美觀と云ふ事は極めて大切な事であります。

最近の建築雜誌を見ると、私の主張せる間取りの構成に依つて作れるものが、非常に多く散見する樣になつた事を、私自身は心窃に喜んで居りますが、然し仔細に觀察して見ますと、其の大部分は私の發表した間取りを改惡したものが多く、ほんとうに保健的要素を完全に取り入れたものが、極めて少ない事に驚いて居ります。最近新聞紙上で見た住宅營團の小住宅中に、甚しく保健的要素の缺乏したものがあつたので、十二月號の雜誌「**住宅**」に簡單に意見を記載しましたが、要するに如何にせば保健住宅を作り得るかと云ふ方面の勉强不足せる結果と想像して居ります。

然らば如何にせば保健住宅を作り得るかと云ふ問題の解決は、此處では簡單に記述する事が困難で、折角此の頃其の詳細を纏めて近く出版する豫定ですが、要するに積雪三尺以下の地方にあつては、南向きに建て、建物の南北の軸が、東には十八度を限度に、西には六度を限度とし、なるべく東西に長く、南側の突出を三尺以內とし、奥行きを四間以上として、尙且通風、換氣、防濕、耐濕防寒、防暑、採光、日當り、堅牢、壽命等に留意し、其の一つ一つを合理的に研究し解決すべきであると思ひます。

最近建てらるゝ住宅には、木骨セメント塗りとし雨戸無しの窓に、薄いスフのカーテンだけのものを多く見受けますが、之れなどは完全に日本の氣候を無視せるもので、眞に不健全なものです、或は又味噌汁さへ作つた事の無い名流夫人の臺所論などには、空中樓閣的な机上論を時々新聞雜誌に見受けますが、か樣な非實際的なものは世を毒する事があるので大に注意すべき事です。臺所の如きは教養ある夫婦の使用するものと、女中まかせの臺所とは大に趣きを異にするもので、女中用臺所は女中の教養程度に準據して設計すべきであります。建築特に住宅は、此の外施工上にも材料の見分け方或は使用法にも、あらゆる方面に細心の注意をなさぬと、依頼者から思ひがけぬ小言を頂戴するするのみか、工費が小額で利益が極めて薄いので依頼者は此の點には、特に注意し一方設計者及施工者も共に研究努力して安く善く造りたいと思ひます。

**直營實費精算法**

私は學校を出た頃に、辰野葛西事務所で見習をして居つたが、其の後現場に出て日本の請負制度に非常に大きな缺陷を發見して、一時請負會社のめしを喰つて、本格的に我國の請負なるものを體驗した結果、施工上缺點の少ない直營實費精算法を約二十年間實行して見て、住宅建築の施工は、此の方法に依る事が一番無難であると信じて居ります。次の機會に私の實行して來た直營實費精算法に就いて、詳述する事にしますが要するに此の方法によると、儲ける事の心勞が無いので、安く善く家を建てる事が比較的簡單に出來て、トラブルが非常に少ないので、建築の實際方面の知識あるものには、常に喜ばれて極めて愉快に仕事をする事が出來ます。事實私は十年も二十年も前に建てた方から、今日でも季節々々の挨拶を受け、年々盆暮に既に七八年間も年金を下さる方もあつて其の好意には眞に感謝して居ります。

併し直營實費精算法をやるには、先づ第一に職

人の訓育と使ひ方、材料の見分け方と買入法等に特別の注意と經驗を要し、更に正確なる設計圖と正當にして正確なる豫算を作る事が肝要で、此の點には少からず苦心を要しますが、其の代り變屈な依頼者を除いては、ほとんどトラブルを生ずる事なく、氣持ちよく誤間化しの無い家を作る事が出來ます。只此の方法を實施するに當つて特に注意すべき事は、依頼者の人格に注意し、施工要項をはつきり施工前に約策する事が肝要です。

**闇取引の是正。**

さて最近の事變下に於ける住宅建築を見るに、其の多くは統制配給の不圓滑なる事と、物資の不足とが原因で、あまりに粗造と云ふか、亂暴と云ふか、目茶な家が到る處に出來つゝありますが、誠に寒心に耐へぬ次第です。折角事變直前には我國の住宅建築は非常な進歩をなして、錠前を除いては私は一切外國品を使用せずして、相當優秀な家を建てる事が出來、世間一般にも大變によいものが出來る樣になつた際に、不幸なる事實に出合ひ進歩しかけたものが、一頓挫を生じたる感があります。然し東亞共榮圈確立と云ふ、大使命の爲には不得止ぬ事ではあるが、建築資材の闇取引だけは絶滅し度いものと思ひます。夫れには統制や配給の不合理な點を是正する事が最大要點で私は一昨年來筆に口に絶叫して居りますが、微力如何ともなし難く甚だ殘念に思つて居ります。希くは本協會を始めとして建築學會の如きが一團となつて、何故に闇取引が横行するか、其の根本原因を極め、一日も早く除去する樣切望します。か樣な事柄は今日我々一私人の力では到底如何ともなし難く、どうしても權威ある團體の力より外に方法は無いと思ひます。闇取引の横行が世道人心に及ぼす惡影響は實に甚しく、幸に東亞共榮圈が確立しても、盟主たる我國人の道義心が下落して居つては、甚だ心細い次第と存じます。

尙此の機會に申述べさせてほしい事は、此の頃流行の木骨セメント塗りの防空建築の事ですが、私の體驗では、我國の氣候には極めて不適當な壽命の短い建築と思ひます。特に最近の乾燥不十分な年輪の少ない白太の杉材に、インチキな建築紙をかぶせて、名ばかりのモルタル塗りのものは極めて危險なものです。あのおそろしい地震は戰時でも遠慮するとは思へません。又風雨も昨夏の如きは甚しく多量でありました。之れも何とか改善すべきものであり、同時に又耐火木材の供給も何とか心配すべきものです。尙又市中の木造建築の防火は、一區郭を適當に仕切つて防火壁を設くる事が、比較的安價で効果的である事を提案して識者の一考を煩し、切に其の實現を希望します。

（24—11—16）

（筆者は東京山田建築事務所々長）

# 防火改修事業一ケ年の回顧

大野勝三郎

目　次

Ⅰ　はしがき
Ⅱ　本事業遂行上の障害とその對策
Ⅲ　防火改修事業促進に關する一私見
Ⅳ　本工事施工による効果の一例
Ⅴ　むすび

## 1　はしがき

防火改修事業が都市防空上の重要對策の一つとして、少くとも燒夷彈攻撃に對する我國都市防火上の應急施策の一つとして實施せられしより、既に滿二ケ年以上經過せり。

然るに全國主要都市に於ける現狀を見るに、その進捗遅々として豫期の如き成果を擧げ得ざりしは、獨り筆者の遺憾とする所たるに留らず、都市防空に關し心を有する識者の齊しく憂ふ所ならん。

本事業の急速なる實施の必要性と、その方策に關しては、既に本誌上或は各種の新聞、雜誌に先輩諸賢の御高說發表せられ、筆者も著しく啓發せられたり。

然れども本事業實施上その生命とも稱すべき强制法の施行せらつざる限り、而して强制法施行さるとも、本事業遂行上その動脈となるべき家屋所有者に對する資金融通の途の拓かれざる限り、折角の名論も、卓說も單なる一論說に過ぎずして畫餅に歸するを常とせり。

然るに今回防空法の改正に際し、本事業も强靱なる遂行力の必要を認められ、防空法中に織込まるゝことゝなり、强制執行力の賦與さるゝと共に資金なき家屋所有者に對する融資の途も拓かるゝことゝなれり。

本事業に從事し荊棘の道を步みつゝある我等の喜びは素より、邦家の爲御同慶に耐へざる所なり。

本事業に關與せしより僅々一年有余、淺薄なる經驗と、偏狹なる視角とより斷定せる嫌なきにしも非ざれども、本事業遂行上現在迄、障害となりし點を指摘し併せて之が對策の一端を述べ、先輩諸賢の御批判と御叱正を仰がんとす。

## 2　本事業遂行上の障害とその對策

(1)　强制力の缺如

本事業遂行上現在迄最も困難を極めたるは强制力なかりし事なり。本事業は讀者周知の如く、一街廓內若くは數街廓內の家屋所有者の贊同を得て組織する防火改修組合を結成し、府市共同の指導監督の下に組合をして事業を執行せしめ、事業完成の曉、之に補助金を下附するを目的とするものなり。

然るに法的根據無かりし爲、即ち强制力缺如のため偶々時局認識に缺けたる家屋所有者の出現により組合結成に時日を要し、場合によりては組合結成不可能なりし事もありたり。

(2)　適當なる融資方法の缺如

叙上の如き困難をを克服の上組合を結成し、莫大なる技術的勞力と時日とを費し設計の上、工事の施工を行はんとするに際し、豫想より工事費高き爲說得に多大の時日と努力を要し時には工事費の三分ノ一に相當する組合員の負担金支拂能力なき組合員存在のため、或は負担能力は有するも强制力なき爲出資の意志なき組合員出現のため、工事施行不可能となりたる例も存する實狀なり。

資金融通の途として現在存するは、簡易保險局の低利資金融通の方法、組合員各自に於て適當なる金融の方法を講ずる以外、適當なる方法なし。

而して前者は全組合員が融資を受くる場合にの

み、即ち組合としての責任に於て融資を受くる時に限り成立し得るものにして、融資を要せざるもの大多數存在する現狀に於て事實上不可能の現狀なり。

然らば後者の方法により融資の方法を計らしむれば可なれども、强制力缺如の爲家屋を抵當とする融資の方法を忌避する者、或は融資を受くるもその利子支拂の負担に耐へずと稱するもの、或は又融資を受くる抵當物權が種々の事情より抵當に附し得ざる場合等ありて、之が實現不可能なるを常とせり。

防空法の改正により資金なき家屋所有者に代りて、市長その代行をなすことゝなりたるを以て此の障害も一應解除せらるゝことゝならん。

(3) 技術者の不足

時局の進展と共に殷賑產業方面に轉向するもの續出し、加ふるに應召、應徵者相接ぎ公共團體に於ける技術者の拂底は想像以上にして、本事業執行に必要なる技術者所要數の十分ノ一にも滿たざる現狀なり。目下之が對策の一として本工事執行に必要なる技術的勞力の大部分を占むを現存家屋の配置と現況の測量及現況圖、設計圖の作製等を適當なる設計者に委囑することゝし、その緒に就きたるを以て、將來之を擴充することにより或程度緩和さるものと思ふ。

然れども尙此等設計者の指導測量及設計の審査工事監督に多數技術者の補充を必要とする現狀なり。本市に於ても之が對策に就き種々方法を講じ居るも、都市防空に熾烈なる關心と本事業に深き理解を有し欣然參加を希望せらるゝ多數技術家と設計に獻身的協力を惜まざる技術家の出でられんことを望んで止まぬ次第なり。

(4) 工事施工上の難點

本工事は既存の木造建物に對し施工するものなるが故、新築の場合に於けると異り居住者の存在せる儘工事の施工を必要とす。即ち大規模修繕工事の集團とも稱すべきものなり。而して修繕工事の場合に於けるが如く家主又は居住者の自發に俟つものに非ざるが故新築の場合に於けるが如く、工事の進捗圓滿ならざるは必然の理なり。以下本事施工の場合に於て紛爭の對象となりし點を列記せん。

イ、修繕工事と改修工事との混同

家屋所有者の無理解、認識不足、或は惡意より本工事施工中改修工事並改修工事施工上必要なる修繕工事と所謂修繕工事とを混同し工事施工者に對し不當の要求をなす者存在し施工者の迷惑となりしこと屢々ありたり。

例へば軒先改修の場合又は螻羽改修の場合、軒先又は螻羽の瓦一通若くはそれに接せる木部の腐朽せる場合は改修目的達成に必要なるを以て、瓦の破損又は木部の腐朽せる個所は取り換ふる方針なりしに、家主又は居住者中にはそれ以外の部分の修繕工事をも要求するもの存在し之が調停に我々としても種々困難を極めたり。

現在組合を結成しつゝあるものに對しては此等の點を充分說明しつゝあるが故に遂次かゝる要求は絕滅するものと考ふ。

その他改修工事に規定せる以上に良好なる仕上を行ふ場合は家屋所有者に於て、その差額を負担する契約になれるにも拘らず必要以上の仕上を要求するものさへ存在せり。

ロ、改修工事に借口し不當の要求をなす者

施工上必要なる足代の架設に當り、或は既設板張、既設板塀、無願若は無屆假設物等の撤去に際し、附近工作物、或は建物の各部分に及ぼしたる損害は當然施工者の責任に屬するものなるも、家主又は居住者によりては既に破損せる個所をも改修工事に基因せしめ所謂因緣を附け、損害を賠償せしむる者屢々存在せり。

例へば屋上作業を要する改修工事に於いて工事完了後家根瓦の破損、緩み等を修繕し、家主の立會を求め工事着手前破損し居れる個所は家主に於て手直しを行ふ事に取極め、家主も承認しながら其の後感情の行違ひより降雨による雨漏に對し修繕を要求せるを以て我々が立會せしに、家根瓦の破損個所に苔の生じ居りしが如きはその最も甚だしき一例なり。その他硝子の破損に際しての不當なる要求、些細なる破損に對する不都合極まる損害賠償等一々例を擧げれば枚擧に遑なし。

ハ、雨樋

本工事施工上現在迄最も困難を極め紛糾の原因となりたるは雨漏なり。屋上作業中瓦の破損、瓦の「ズリ」下りに基く一例は前述せし所なり。

最も紛糾の原因となるは雨樋なり。軒裏塗其の他施工の必要上軒樋、竪樋を一時撤去の必要あり。腐朽甚だしき樋も塵芥、土、その他の附着物の堆積せる結果手を觸れざる限り辛じてその目的を果し居れるも、之を撤去せる場合には腐朽個所の飛散、再使用不可能盜難等の原因により約三分ノ一位不足するを常とせり。近來雨樋修理用鐵板の配給十分ならざる爲特に腐朽甚だしきも一つの原因なり。

然るに改修工事は新築工事と異り雨樋に必要なる鐵板の配給なきが故、市場の「ブリキ」屋の手により補修をなすの他適當なる方法なし。これが對策として道路に面せざる部分に取付くる樋は竹樋を以つて應急の處置を講じたる例も存す。

家屋所有者としては樋は當然改修前の狀態に復歸し度き意向を有す。居住者との間の家賃問題等にも影響を有するが故、斯る要求も當然にして無下に却すべきものに非ずと考ふ。此等が原因となり改修工事、施工後工事費中の三分ノ一に相當する負担金支拂を怠るもの、忌避するもの等存在し、工事施工者は勿論その間に介在する我々としては日夜その調停に辛苦を嘗めつゝあり。

此の問題發生を未然に防止する目的を以て現在以後工事に附するもの並に、現在組合を結成しつゝあるものに對しては鐵板なき場合は竹又は木製の樋使用も止むなきを說明しつゝあり。而して最近當局も我々及び施工者の勞苦を察せられ非公式ながら防火改修に限り雨樋用鐵板配給を開始せらる用意ある旨筆者迄通告せられたり。

ニ、其の他

施工上の必要より梯子を使用し、其の日の工事終了後梯子の取片附を忘れ、その夜盜難に遇ひ、居住者に對し工事施工者より損害賠償を行ひたる例もあれば、工事中足代丸太、工事用材料の取扱の不注意又は不可抗力による硝子破損の爲、在來より破損せし硝子迄取換へを要求せられたる例、取毀材料、殘材等が裏路地に一時堆積せし爲下水溝會所等埋沒し排水に支障を來し紛爭問題を惹起せし例其他些細なる紛爭問題、家屋所有者、及び居住者よりの苦情に至りては應接に暇なき狀態なり。

此等の紛糾問題は家屋密集の度甚しく老朽家屋の多き場所にして施工するものなるが故、或程度已むを得ざるものなりと考ふ。我々としても從來の經驗に照し今後特に留意する心算なるが故施工者としても在來以上に注意せられ、斯る給糾問題の除去に努力せられ併せてその責任に非ざる個所の損害賠償の口實を與へざる樣せられんことを切に希望す。

## III　—防火改修事業促進に關する一私見

防火改修事業執行の理想方法は大阪市木造建物防火改修補助規程に明示されたる所なり。即ち一街廓内の家屋所有者を以て構成せる防火改修組合又は家屋所有者をして設計を行はしめ、適當なる工事施工者により工事費を積算の上市長に對し補助申請を行はしめ、市の審査を受け許可を得たる上、府及市の監督の下に工事を執行し、工事竣工後工事に要したる工事費精算額の審査、並工事竣工檢査を受け、交付せる補助金に家屋所有者の負担金を加へ工事施工者に支拂ふ方法之なり。

然れども實際問題としては斯る理想は現狀としては望み得ざるものにして、今暫く或は將來共設計並施工の監督は現在の如く府市協して行ふの外途なきものと信ず。

然しながら本事業は大阪府井上建築課長の御說の如く、現在の如き大阪市全體として考ふれば九牛の一毛にも過ぎる小規模のものにては何等實効なきものにして、將來大規模に施行さるべき性質のものなり。

防空法の改正により本事業が强制執行力を賦與さるゝと共に資金なき家屋所有者に代り市長之を執行し得ることゝなりたるを以て、從來本事業執行上の最大障害が除却されたり。而も同法によれば命令の定むる所により、地方長官一定地域を指定し一定期限内に防火改修を施行せしむることを得るが故必要と認むれば飛躍的大規模のものとなし得るものなり。本事業が一ケ年數百萬圓否數千萬圓の大規模に飛躍を遂げたる場合に處する對策を今日より考慮し置く事は焦眉の急を要することならん。

以下筆者の抱懷する本事業促進方法を述ぶれば次の如し。

(1) 工事施工者

時局の進展と共に各種資材の統制益々强化され

時局に即應せざる用途に供する建築物の新築必然的に掣肘を受け軍需及、生産力擴充施設に屬する建築工事に從事する一部企業者を除きては多數の企業者は必然的に事業閑散となるものと考へ得らる。かゝる業者に對し資金融通（補助金の前渡）の方法を講じ資材の優先配給を行へば必ずしも憂ふるに足らざるものと考ふ。或は此等企業者を統合し防火改修工事協力團體を組織し之に工事を請負はしめ、各團體員をしてその勞務動員能力に應じたる規模の工事を施工せしむるも可ならん。

(2) 勞務者

本工事は建築工事としては仕事そのものは比較的簡單なものなり。各種の派生的紛爭問題を官民一致の努力により、即ち都市防空に對る深き認識と熾烈なる鄉土防衞精神の發揚により除去すれば工事の施工は容易に行ひ得るものと信ず。

各種工事の要所に熟練せる勞務者を從事せしめ之が指導下に經濟統制の强化により生ずる多數轉業者の中の一部、或は靑少年團の動員、或は又隣組員の勤勞奉仕等により勞務者の不足を補ひ得るものと信ず。即ち比較的熟練を要せざる下地材の取附、壁塗中の容易なる個所、材料の運搬、取毀材、殘材の取片附等に從事せしむれば材料輸送問題がく重大化せんとする際一石二鳥の名案と信ずるものなり。

勿論之が實施方策に關しては愼重なる研究と、周到なる準備とを要するものなるも、確固不拔の信念と牢固たる決意を以て斷行すれば必ずしも可能には非ざるなり。

(3) 資　材

本工事施工に必要なる資材の主要なるもの次の如し、木材、セメント、ラス、不燃板、釘、耐火木材、漆喰、網入硝子、石綿板、貼瓦等にして之が確保こそ先決問題にして、しかも頗る困難なる問題なり。上記資材中セメント、ラスは之を土塗を以て、工事期間の延長さるゝ點を度外視すれば必ずしも代用し得ざるには非ざるも、耐火木材、網入硝子、釘並に木材は他の資材を以てしては代用し得ざるものなり。之が增產と確保こそは焦眉の急務なり。

## IV　本工事施工による効果の第一例

從來稍もすれば本工事の効果に對し危惧の念、或は疑念を有せし者存在したり。然るに先般或區方面の防火改修工事設工し本市よりの補助金の下附を受け組合長木下氏筆者の許へ挨拶に御越しになられたるその翌日午前一時頃、木下氏所有の製材工場の東隣、木造平家建屋根、鐵板葺のボルト、ナツト製造工場より、しかも製材工場に接せる壁際より失火し幸にして燃燒物少かりし爲小火の程度なりしも、約二十分間燃燒し、小屋裏の野地板母屋、妻側の破風等を焦がし木下氏所有の手押ポンプにて消火に努めし結果、製材工場には何等の影響もなく官設消防ポンプの馳けし時には既にその必要なく消火し得たり。

失火せし工場も製材工場も改修前には相接せる壁面は共に板張の防火上最も脆弱なるものにして改修工事の施工なかりせば當然延燒し一大事に到なるものと考ふ。

## V　むすび

以上により本工事に關與して以來、本工事に關する經過の概要とその對策の一端を簡單に述べたり本工事を大規模に且つ迅速に實施せんには、關係當局者、特に最高首腦者に於て本工事の必要性を深く認識し、資材、技術動員能力、勞務動員能力等を考慮され、適確、正鵠なる判斷を下され、各種事業整理の上重點主義により萬難を排して本事業の强行實施を決意さるゝ事が先決問題なり。次に本事業に深き認識を有せらるゝ多數有爲の靑年技術者の擢出、本事業に挺身滅私奉公の精神を以て從事せらるゝ工事施工者の出現せられんことを望んで止まぬ次第なり。

（筆者は大阪市建築部第一建築課係長）

# 最低限生活の要請と建設住宅の基準

西山卯三

## 1. 最低限生活の要請と住宅建設

國際情勢の緊迫下、國内の國防臨戰體制整備の完遂は一刻も遲滯をゆるさず、之がため國民擧つて決戰の覺悟を以て日々の生活を最低限に切詰め餘力はあげて以て戰爭目的の達成に注ぐべき事が要請されてゐる。

此の國民消費生活の最低限への切下げは、その衣食住について等しく求められるところであつて住居に對しても當然要求されずにはおかない。併しながらこゝにいはれる消費節約、消費規正は「住む」といふ事に對する節約或は制限ではなくて「住む」ためにする資材勞力の消費を節約する事を意味する。從つて住に關する資材勞力の最も大きな消費が住居の「建設」である關係上、消費規正の問題はまづ建設規制の問題とならざるを得ない。

しかるに我々は現在量的、絶對的、住宅難に直面しつゝあり、住宅の急速は大量供給は國防、生産の最大の急務となつてゐる。之がためその大量建設の具體策が國家の保護指導の下に既に實施の過程にある狀況である。斯様な事情に對する上述の要請は直ちに建設住宅の規模と質の低下、即ち建設基準の再檢討を促すにいたるのは當然である

併乍ら、世常に橫行する之等の論議を耳にする或は過激或は舊套、墨守何れも正鵠の主論に乏しいのを遺憾とする。こゝに敢て問題の論點を明にし大方の一考の資に供したい。

## 2. 住居の最低限度

當面の情勢は既に決戰態勢である。かゝる時に悠長にも30年の償還計算の下に昔ながらのマツチ箱の如き住宅を多大の費用と勞力とをかけてたてゝゐる、そして資材が足らぬ、何がないといつてその工事の遲滯し勝なのは何事であるか。我々は今や生死を決する局面にあるのが。雨露をさへしのぐにたりる場所があれば結構なのだ。バラツク結構、堀立小屋結構、住宅の質の何のと問題にすべき時ではない——之が一方の論者の主張する處だ。

之に對して他方——住宅の質低下は國家におそるべき損害をもたらす。夫は單に傳染病とか、或は體質弱化、出産率の低下、死亡率の上昇、等の生物學的障害のみでなく、犯罪、風紀紊亂等の道德的頽廢を齎す、その結果は人目につき難い故に見おとされ勝である故に却つて危險である。

我々はかゝる害毒を後世にのこす培養基となるべき不良住宅地區の建設をおそれる。住宅は少くともその存續の全期間を豫想して計畫されたものでなければならぬ。斯く考へれば、その如き粗惡住宅は單にそのやうな害毒の淵源たるのみならず、早晩住宅改善の對象となるの愚を演ずるであらう。建設される住宅はその存續の全期間を通じて最も望ましい質のものでなければならぬ——といふ。

無論之等の見解の何れも一應正しいが又全然正しいものではない。

前者の見解は國民の覺悟を促すものとしては正しい。しかし實現には住宅（市場）は常にその時に建設されるものよりも遙に量に於て大きい既存住宅をもつてゐるのだ。粗惡住宅の供給はたゞ一部の人々にのみされるにすぎない。他の多くの人々がより設備のよい廣い家に住むでゐる場合に我々はどうして一部の人々に住居に對する生死の覺悟を強要出來るか？　覺悟を建設の基準に直譯する事は勿論誤りである。

併し之と同樣に後者の見解も亦當を得てゐない。住宅の建設は勿論、その存續の全期間を豫想してつくられねばならぬ。しかし、現在の情勢が特殊なる故を以て夫を無視する事は不可である。

「現在」の累積によつて將來が出來るのであり、その內最も切實なるものが今の要求なのだ。夫は又不良住居の齎す害毒を正しく指摘してゐながら住居の質が住宅のみに結びついてゐるとして、住居の質の機械的解釋に近づいてゐる。不良住宅でも住み方さへ正しく行はれ得るものならばその脅威は絕對的なものではないのである、夫は極めて限界的な成功ではあつたがオクテヴイア・ヒルの到達は之を立證する。

では實際には之に對してどのやうな態度の解決がとられてゐるのか。實はどちらとも確然と指摘し得ない狀態である。併し夫は之等兩極端の意見の「中庸」ではなくて、極言すればこの兩者の見解の間を動搖してゐるといへる。之は全く我々の關係者の無定見を示すものである。

### 3. 最低限切り下げの可能性

住居の最低限の要求に對する探求は屢々建築家や他の學者技術家によつて試みられた。だが夫等の結果はいづれも多くの假定的前提をおくに非ざれば、その定量的決定に完全に失敗してゐる。この失敗は彼等の研究が不完全だつたためではない。夫が當然の「科學的」歸結だつたのだ。

營養不良の狀態におかれた人間は正常の勞働に困難を感じ又その生存の抵抗力を弱められる。しかし我々は之を一の別個の生存の均衡狀態だともいひ得る。なぜなら我々は「より低い營養の最低限をもつより弱い人類」といふものを考へてもいゝのであるから。卒直にいふならば、營養の最低限といふ如きものでさへ一定の他の歷史的條件の下に暫定された一種の便宜的概念にすぎない。斯樣に考へれば最低限の問題はその生活條件の變更によつて生ずる生存の平衡狀態がそうでなかつた場合に期待し得た平衡狀態とくらべていづれが採用されるべきものであるかといふ、極めて困難な判決に轉換される。

營養といふ如き一見極めて直接的に生物學生存に關聯する條件と考へられてゐるものをとつても我々が通常その最低限と目してゐるものは斯の如く曖昧なのである。況んや住居となるとその効果は食物より更に間接的で、その最低限侵犯によつて生ずる結果も、從つて又その規定力も、薄弱である。

住居の粗惡は人々に直ちに中毒症狀をあたへはしない。夫がもたらすところは一連の——死亡率の上昇、出產率の低下、結核其他の傳染病の感染の危險、罹病率の上昇、飮酒犯罪風紀壞亂等の道德的頽廢、等の如き一連の——社會的災禍である。そして之等の災禍はいづれも急速に結果を表すものではなく、永い間の經過過程のうちに之をよみとり得るものなのである。しかも之等は一連の一定の他の條件を假定してゐる場合、即ち之に對應する他の對策を何等講ずる事なく放任してゐる場合にのみそうなのである。

例へば傳染病の發生や感染の危險は一連の衞生施設の强化と敎化によつて防ぎ得る。道德的頽廢も亦緊張せる敎化によつて打克ちがたきものではない。たゞ之が住宅の粗惡化から來ると斷定するのは、住宅の粗惡を改善するのが之等一連の複雜な因果關係の錯綜の中で一番容易な原因除去法であるといふのにすぎない。對策は他にいくらでもあるのだ。

之を反對の側からいへば、他の對策さへとられてゐれば、住居の所謂最低限要求を犯しても夫は直ちに災禍を齎さない。即ち現在いはれてゐるやうな「最低限條件」の低下は必ずしも災禍の發生を必然的に招來しはしない。

### 4. 最低限住居と生活文化

單に狹義の生物學的生存を保證するのみの塵壕の生活であつても、他の生活對策の全體系が之に適合したものでさへあれば、たゞにその生物學的生存が保證されるのみでなく夫を包含する全社會の健全な繁榮さへも我々は期待する事が出來る。例へば戰時に於ける軍隊の生活はその生活とは一應無關係な敗戰や他の不祥事が存在しなかつたならば、その住居に對する極端な不自由にも拘らず健全なる社會的生活を維持發展せしめ得る。反對に如何に豪華な設備よき邸宅が準備されてゐやうとも、そこに行はれる生活が頽廢的なものであれば、そのあらゆる巧妙な設備も健全な社會生活維持のために何等役立ち得ない。住居の最低限は生活文化全體の問題を密接に結びついてゐるのだ。

斯の如く住居の最低限要求が生活文化の問題であるといふ事は住居の適否が生活を通じて——之

をより限定していへば住生活、住み方を通じて一一居住者の肉體的精神的狀態に作用を及ぼすといふ事である。從つて住み方を最大限の緊張下におくときは、住宅の物質的質の低下もゆるし得ないものではない。即ち住居の最低限要求は多面的な性格をもち、その對策は様々な組合せの可能をもつものであつて、住宅の質の切下げは他の諸條件の誤らざる改善を伴ふ場合は、絶對にゆるすべからざるものではない。

### 5. 住居條件切下げの前提

斯の如く住宅の質的粗惡に基づく効果は住生活全般の構成、生活文化を通じてしかも長期間の効果の累積として生ずるものであるから、住宅の質の切下げは不可能な事ではなく、又一時的の切下げは當然ゆるさるべきものでもあらう。併乍ら、斯様な處置は當然之に伴ふべき對策を絶對的に隨伴しなければならぬ事はいふまでもない。もし我々が以上の結論から住み方さへ適當に統制、教化訓練すれば住居は雨露をしのぐに足れば充分で、如何なる住居も排斥すべきでないと簡單に考へ、或は更に非常時局の際は夫に應じて速成のより粗惡な住宅を大量に供給するのが適當だと考へるやうな事があつたら、夫は輕率のそしりをまぬがれない。

建築家の當面する住宅は常に建設する住宅であるが、國民の住む住宅はその大部分が既に存在する住宅である。したがつて住居條件に關するすべての問題は、建設住宅の問題として解決されるべきものではなく、全國民住居施設の問題としてとりあげられねばならぬ。

斯の如く考へる時は、住居條件の問題は建設の問題よりも遙に配分の問題である。特に國民の住生活の所謂最低限以下への切詰めを豫想する如き事態に於ては、かゝる惡條件を新建設住宅に住む人々にのみ強要する事は全然ゆるされない。もしそのやうな處置が輕率に行はれるならば、夫は社會的不公平を激化し、その切下げを恐るべき災禍なくして可能とした唯一の根據であつた國民の精神的決意を阻害し、如何なる教化も訓練も甚だ困難とならざるを得ない。

對策は建設住宅のみの問題として解決されてはならぬ。

建設基準の問題は常に全國民住居の現在水準とその配分對策を較量し考察されねば絶對不可である。こゝに住居條件切下げの基本的前提がある。

### 6. 應急對策の限界

次にこゝで考へておかねばならぬ事は、住宅供給に於ける應急對策と恒久對策のけじめである。

我國の住宅政策が今まで常に應急對策としてとりあげられてゐた結果、建設に於ける應急策と恒久策が常に混同され勝であつた事は止むを得ないとしても、今やかゝる素朴杜撰な考へ方はゆるされない。住宅不足が喧傳されるとすぐバラツクの大量建設が眞の對策の如く叫ばれる。そうでない場合でも我國の住宅が本質上バラツク的性格をもつてゐるのに住宅不足の叫ばれる時代の通有の情勢たる更に資材勞力の質の低下によりバラツク化が好むと好まざるとに拘らず強要されてゐるのだ。斯の如き情勢に對して、我々は見解を明瞭にし、ドロナワ式對策に困惑されない事が必要である。

バラツクとは臨時的、應急的目的のために建てられる輕易構造物である。斯様な構造の輕易化によつて節約される建設費は一般にその短期使用と較合する場合、採算上つりあわない場合が多く、結局、恒久建築に對して割高となるが實情である。しかも猶斯様な形式が採用されるのは、經濟的條件よりも政治的條件に基くもので、二つの理由が指摘される。

第一はいふまでもなく、應急的目的、火急の用のため犧牲をかへりみないといふ事。第二はその様な應急的、臨時的なものであるが故に多少の質的不滿はたへ得る故、必ずしも完璧な質を要しないといふ事、したがつて粗惡化による質低下が或程度ゆるされるといふ事。

住宅難時代の住宅は常に多かれ少なかれ此種解決と相似の傾向をおびる。そして、第2の質の幾分の粗惡化といふ事も住居の人間に及ぼす作用の敍上の考察から臨時的といふ條件で、或は他の適當な對策との併用といふ條件付でゆるされるのである。しかし、バラツク對策は十全の策でない事は上述の條件が又同時に明瞭に示す。從つて住宅對策はバラツク對策に終始するものであつてはならない。

バラック對策は綜合的な住宅對策の中に、恒久策と平行してとりあげられる一對策にすぎないのである。しかるに國民生活基地建設の全趨勢を洞察する事なく單たる建設費低下といふ狹い經營計算から來る誤まつた指導の下に、盲目的にバラック化の道へ突進する事態が建築家の協力の下に行はれてゐるとすれば、その責任の一半は何人が負ふべきか。

應急對策と恒久對策の關係は建設基準と全民國住居水準の問題、全國民住居施設の配分の問題との關係と同樣、しばしば無視されてゐはしないか

**7. 建設基準の限界**

生活最低限條件よりする住居の絕對的最低限などはあり得ない。住居對策は住宅建築のみの問題ではなく生活組織生活文化全體の問題である。從つてその建築的質を規定する住居標準の切下げは一定の政治的經濟的條件の下には——そして全體的住居政策の一施策とには——ゆるさるべき事である。しかしその切下げを建設住宅のみの問題として、とりあげる事は危險な企圖といはねばならぬ。全住居施設の綜合的配分調整を考へない標準の切下げは無意味であると同時に危險である。建設の基準は、常に夫によつて增强される國民住居水準全體の長期に於ける配分計畫に立脚したものでなければならぬ。再配分の計畫を伴はざる建設基準の改訂は蹉行である。建設の基準は單に資材の割當を量や所要住宅數の如きものから定められるのではなくて、之等全住居對策の見透しの上に確固として立脚したものでなければならぬ。

今や住宅建設の重點は四圍の困難な情勢下に次第に特惠的事業體たる住宅營團に移行しつゝあるが、此事情は好むと好まざるとに拘らず、その建設住宅を我國に於ける住宅社會的標準たらしめやうとしてゐる。即ち之が關係建築家の相肩には現下の情勢に最善の規模と質をもつ住宅を解決するといふの重大な責務がかゝつて來つゝあるのだ。

情勢の變化に眞に對應する建設計畫のたへざる改訂は必要である。しかし此探求は我々の考察を益々全住居施設の綜合的再配分計畫へ結びつけずにはおかない。そして之が建設基準決定の基本問題なのである。　　(2601.11.20)

(筆者は東京住宅營團研究部技師)

---

**5頁より續く**——(年頭に當りて農村住宅を展望す……竹内芳太郎)

將來の一般庶民住宅に大なる影響があるので、厚生省では、國民住宅問題として採り上げ、建築界にも幾多の波紋をつくりつゝある譯である。

然し勿論それは國民と云つても、半數にも足らぬ都市的居住者が對象となるので、云はゞ都市的國民住居といふ註釋が必要な譯である。

農地開發營團が建設を要請されてゐる農村住宅の數は、十箇年間に六萬戸であつて、數から云へば住宅營團の建設戸數に比較すれば、その僅か一箇年に割當てられた數位にしか相當しないが、從來、殆んど充分に手をかけられてゐなかつた農村に建てゝ、行くだけに、影響は亦多大なものがあると思ふ。而もそれは單に住宅を建てゝ貸したり讓渡したりすれば足りるといふやうな簡單なものでなく、其處には營農上支障のない自作農家を育てゝ行くべき使命が與へられてゐるだけに、時節柄各種の困難の伴ふことを豫期しなければならない。從つて單に建築家の常識では割切れない問題が、一戸の住宅にも、一聚落の計畫上にも横たはつてゐるのである。殊に土の條件や自然の條件で營農の形態は各地樣々であるから、建築計畫も一々之に適したものでなければならない。それだけに農地開發營團は、それぞれの土地に適應した住宅を建設することによつて、一面、不完全な農村住宅を改善する標準を示し、促進させることになる。從つて其職をけがす一人として、一層職責の重大なることを痛感してゐる次第である。

以上極めて雜然とではあるが、近來の農村住宅界の一般を叙し十七年度の展開の豫想に及び筆を擱く。

(筆者は東京農地開發營團建築課長)

---

# 木材の配給機構に就て

松本儀八

我國は、事變以來新思想に依る、理想社會建設に官民共に、懸命の努力を傾注しつゝあるのであるのが、經濟界に於ても、統制經濟乃至計劃經濟理念の下に、着々その實を擧げつゝあるのである斯かる新經濟下にあつて、木材界の占める地位の重要なるは、論を俟たない所である。

即ち遲蒔き乍ら本年3月、木材統制法が發布せられたのであるが、本法が他の部門に於けるが如き、戰時に對應する臨時的措置にあらずして、恒久法なる點に注意を喚起したい、この統制法に依り、生産者たる、山林業者、製材業者も配給業者たる木材業者も、需要者たる建築者も共に、重大なる統制を受けることゝなつたのである。

然らばこの重大なる統制を受ける現下の木材事情は如何なる狀態にあるか、少しく夫れを研討して見たいと思ふ。

先づ供給方面に就て見るに

1. 事變以來外材輸入は激減し目下杜絶狀態にあり。
2. 滿洲材等も種々の事情により當分輸入の見込はない。
3. 內地材の伐採は最早飽和點に達し目下甚だしき濫伐に陷りつゝあり、保安上からも由々しき問題となりつゝある。
4. 今後この儘で進めば10年か15年もたゝぬ間に40年生以上の立樹は、內地にはなくなるであらうとさへ言はれて居る。

以上の理由に依り今後內地材は相當量減産を免れ得ない現狀にある。

一方需要方面を見るに事變以來

1. 公用材として優先的に相當量供出し。
2. 生産擴充方面へも著しき需要あり。
3. 住宅難に伴ふ住宅建築の急激なる需要增加。
4. 土木造船パルプ其他各方面共目覺しき發展に伴ふ需要增加

等々の爲め需要は急激に增加し事變終了後の將來と雖も尙一層增大の一路を辿る事は間違ひなしと考へられる。

逐次減産する內地材と現在業者の手持量を以て無限に增大する需要を充足せねばならぬことは、當然の結果として、高度の消費規正が必要となつて來る、配給は重點主義となり、所謂不要不急方面には配給を停止せらるゝことゝなるであらう。

1. 配給機構の再編成。

過去數百年來の傳統と地盤の上に立つ木材關係業者の今日迄の足跡は誠に偉大で、我國文化の發展に寄與したる功績は忘れてならぬものがあるが統制經濟下に於て從來の自由なる組織機構を以てしては總て國家の爲めに奉仕すると謂ふ、理念に副はないのである、功利主義、自由主義、個人主義は嚴に排擊せられて居る。

即ち

1. 輸入材の氾濫による內地材の急落。
2. 需要の增減による價格の急激なる騰落、

斯かる事態が從來往々繰返へされ業者自身も、關係方面も、將又國家としても、精神的に、又物質的に莫大なる損害と惡影響をその都度蒙つて來たことは、吾人の屢々聞知し、經驗したる所である。今日是れが未然防止は當然の事柄であり、輸入と生産を計劃化して、國家の必要とする方面に圓滑に配給し、以て、重要資材たる木材を確保することは、現下非常時下喫緊の要務たるは勿論であり、戰後の將來共に其の要切なるものがある。

剩つさへ、現在の生産量より推して、現存の生産設備は全國的に見て半を以て足るとも謂はれ配給機構とても、人的物的に相當大なる餘剩を來して居るのである。

木材統制法は斯くの如き現機構の全面的刷新を要請する至上命令である、即ち

1. 木材の生産を確保し。
2. 輸出入を計劃化し。
3. 需給の圓滑を圖り。
4. 價格の公正を期する。

のである。

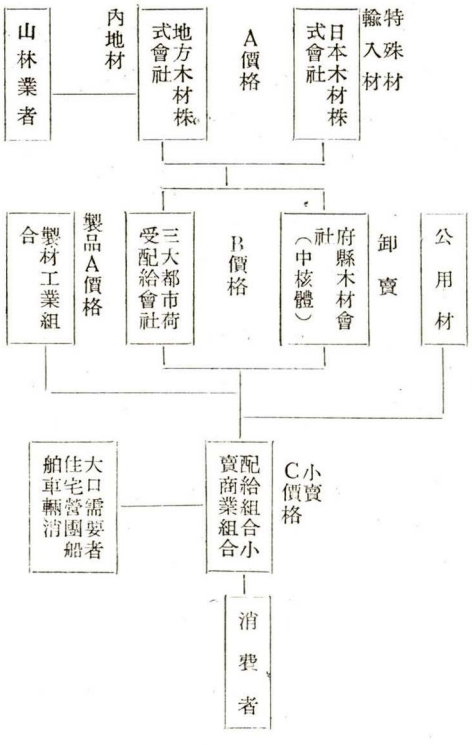
國策會社である資本金5千萬圓の日本木材株式會社は上記の目的を達成する爲めの一元的統制會社である。

地方木材株式會社は、全國を8ブロツクとして各ブロツク毎に、地方的に同様の目的を達成する統制會社である。

地方木材株式會社は生産配給の本體として活躍するもので、將來內地材の買入は凡て同社を通じてすることとなるのである。

然しながら、一擧に在來機構を廢して地方木材株式會社を設立する事は、實際問題として不可能に屬するので、現機構、即ち現在の生産、配給の機構は一應其の儘來年5月末迄存在を認められ漸次府縣單位或は流域單位により整理統合して地方

新配給機構系統圖




木材株式會社の母體となるべき中核團體を設立し是等の中核團體が合併して地方木材株式會社となる豫定である。尙東京、大阪、名古屋の三大都市には、別に荷受配給會社が生まれ、地方木材株式會社と同様の仕事を行ふ豫定であり、最下部配給組織として配給組合或は小賣商業組合が結成せられ、消費者への直接配給に從ふのではないかと考へられて居る。

以上の新配給組織により、木材の配給は中央の一元的統制による重點主義割り當てにより需給の圓滑を計り、中間利潤を適正化して、極力價格の低下を期し、依つて以て木材界の飛躍的發展を企圖せられて居る次第である。

價格の公定は、今の所卸賣、小賣の二本建となつて居るのを、將來新配給機構の整備確立を俟つて小賣價格（C價格）一本建てなる模様である。

今や國家目的達成上必要なる方面用の木材は極力之を確保してその要求充足すべき様仕向けられて居るのであるが、此の爲一面一般用木材の需給關係は目下漸次急迫しつゝある事は事實であり早晩益々重點配給となり層一層入手困難となることを覺悟せねばならぬ。

現狀の配給機構がその儘認められる來年5月末迄は今や餘す約半歲、新機構誕生の陣痛の眞最中である今日、その進捗狀況は如何に、私の知り得たる範圍を概略說明すれば、木材の生産配給の本體たるべき地方木材株式會社は未だ各地共設立を見ないのであるが、是か母體たるべき、府縣中核體は當局の指導より着々設立を見或は設立準備中と謂はれ、その數全國にて約2百個所に及ぶと聞く、此の中核體は夫々來年6月迄に結成せられ、爾後5年間以內に、夫々8ブロツク別に統合して地方木材株式會社となる豫定である、即ち前記中核體は完全統制態勢に入る過渡的措置としての團體である事を知らねばならぬ、最下部機構たる配給組合或は小賣商業組合は未だ如何なる型態により組織せられるか何等聞知して居ない、恐らく大都市に於ては用途別或は樹種別に依つて組織化せられ其他の地方は地域別に依り結成せられるのではないかと思はれる。

故に將來公用材を除き一般建築用材の如きは從來の如く直接山林業者或は卸問屋等より購入し得

ない事となり、日本木材株式會社又は地方木材株式會社の配給計劃に基いて、配給組合又は小賣商業組合を通じてもC價格を受けねばならぬことゝなるのである。

以上記述したる如く今や木材界は大刷新を加へられ又は加へられんとし、關係方面へ其の成果を注目せられて居るのであるが、これが完全態勢に入るには相當の時日を要し、中核體の設立に於てさへ各地共夫々尙相當の困難を豫想せられて居る狀態であるが早や矢は弦を離れた譯であるから、要は當局の適切なる指導と業者の奉公的信念と關係各方面特に土木建築造船關係者の等の支援に依り新機構が早晩に實現し、新機構の圓滿なる運營と相俟つて、所期の目的達成に邁進せらるべきある。

以上の如く本問題は目下結成途上にあるが故に其歸趨に就て之以上適確なる判斷を下し得ない今日の實狀であると云ふ事を附け加へて本稿を止める事とする　　16年11月30日

（筆者は內外木材工藝株式會社常務取締役）

---

# 第八回全國都市問題會議總會議題について

## ——「地方計畫具體化に關する諸問題」及「都市財政の現狀及將來とその對策」の研究項目——

全國都市問題會議事務局

明春神戸市に開催せられる第八回總會の議題が、第一議題「地方計畫具體化に關する諸問題」第二議題「都市財政の現狀及將來とその對策」の二つの決定を見た。。兩議題決定の理由及びその解決を要求する研究項目等に關しては後述するところに讓ることゝするが、兩議題が現下並に將來のわが國都市にとり、極めて重要な問題たることは贅言を要しない。

わが國地方計畫問題は都市計畫の必然的發展として擡頭し來り、一應論議がつくされた。今やわが國地方計畫は國土計畫の一環として長期建設に處する綜合國力充實强化のため、實踐具體化の段階に入つてゐるといひ得るであらう。これ本會議が、さきの總會議題都市計畫の基本問題（第六回）本邦都市發達の動向と其の諸問題（第七回）研究に引續き、地方計畫具體化に關する諸問題を俎上に、諸研究者の建設的論策を要望する所以である。

又第二議題「都市財政の現狀及將來とその對策」は、その策立如何が都市政の將來を左右する極めて重要な問題たることは今更いふ迄もない。即ち昨春に斷行された稅制改革は、特に都市に顯著な影響を齎らし、他方都市行政が逐年質量共に增大の一途を辿り、しかも時局の推移は愈々財政需要の激增を招來する事は明かである。これが本議題が研究者の精討善處を要求する所以である。

冀くは會員各位が新銳な熱情をかたむけられ、兩議題に關する研究の成果を競うて提出され、本總會に一段の生彩を加へられんことを念する次第である。

---

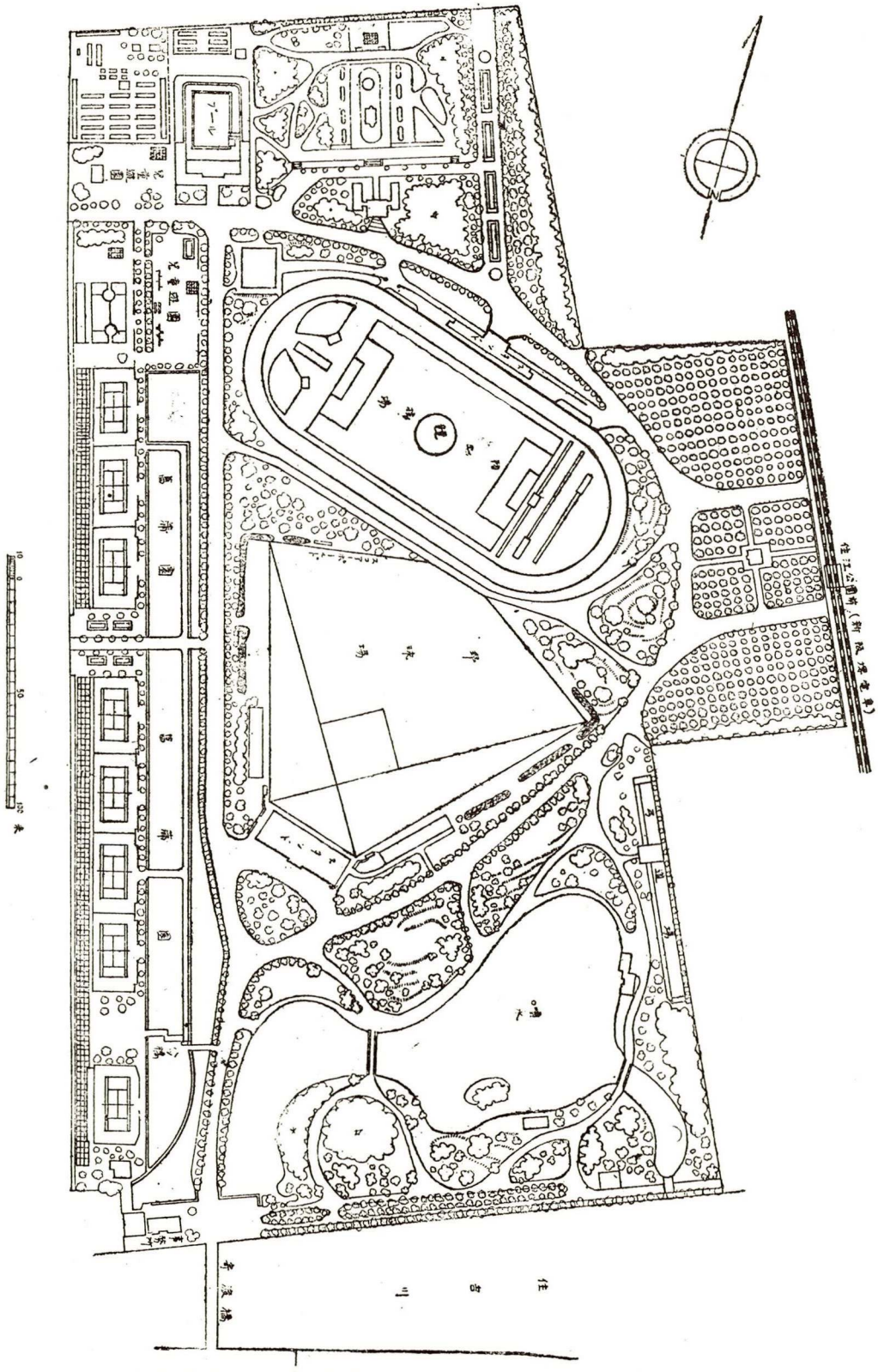
# 體位向上厚生施設に就て

野中駒市

國民の體力は國家の基礎である。世界の歴史を見ても、列國の現況を眺めても國家が發展する時は必ずその國民人口の增大する時、また體力の旺盛なる時であつて之に反する時、すなはち人口の量と質との低下する時は國家も衰へるものである。國民體力と國防との關係を見れば、近來往々にして近代戰は、機械力の戰であると言はれる、然し如何に優秀なる兵器を有すとも之を活用する優秀なる體力と、强健なる身體に宿る精神力を持つ將兵に依つて戰を最後の勝利に導き國防を全からしめるものである。即ち人口の量的增大と相俟つて心身兩面の國民體力の增强こそ國防國家の根基を培ふ所以である。國民體力を向上せしめ國力充實を圖るためには、先づ以て國民體育を振興し、國民全般に體育に關する注意を喚起せしめ體育運動を日常生活化して普及せしめる事が最も必要であり、殊に發育途上にある青少年に對して戶外に於ける新鮮なる空氣と日光の下に適正なる體育運動を行はしめる事は、唯單に青少年の體力を向上せしめるに止まらず不健全なる娛樂に耽溺することを防止すると共に健全なる運動精神の涵養により、國民思想の作興に資する所亦尠からざるものがある。然しながら斯くの如き體育運動を國民全般に對して普及せんとするに當つて第一に逢着する一大缺陷は、其の目的に供すべき各種體育運動施設、特に最も大衆的なるべき運動場又は運動公園の不足せることであつて、其の擴充整備を先決問題とするのである。

我國は明治維新以來歐米の文化を輸入し、學術產業、國防、文化、方面に於て短期間に長足の進歩を遂げ體育も亦競技記錄等の方面より觀れば進歩の跡著しきものがあるが、之を國民全般の體育と云ふ點より見る時は、實際に日常體育を實行するものは尙一部の者に限られ、從來稍もすれば一般社會に於て體育運動が輕視される傾きがあつたのである。最近壯丁の體力が低下の傾向を示し、殊に都會に於て其の傾向の著しきものがあるのは敢て體育運動の不振にのみ起因するとは考へられないけれども誠に、憂ふべき現象と云はねばならぬ。今日世界各國の情勢を通覽するに、一國の體育運動の隆盛と其の國力の程度とは、大體比例する事が認めらゝのであつて力ある文明國程體育運動の必要を自覺し、其の普及發達のため國民も政府當局も最大の努力を拂つて居るのである。我が國に於ける運動競技場は其の起源は平安時代に始り、先づ、大內裏に武德殿が出來、宮闕、公家邸內に弓場馬場等が、設けられ、又角力、蹴鞠も行はれた。中世以降特に弓術、劍術、馬術の爲、一定の地所が用意せられ、藩政時代には町道場等も出來たのであるが、之等は凡て武士の武藝鍛鍊場で、一般民衆の體育のための施設ではなかつたのである。明治維新以來歐米の各種の運動競技が輸入せられるに至り、明治の初期既に橫濱神戶其の他の開港場に洋式の運動場が設けられ、明治の中頃より漸次公園に運動施設が施され大阪府下鳴尾に大正六年に獨立せる運動競技場が建設せられたのを始めとし、大正後期以後各都市に於て運動競技場は急速なる發達をなし、今日一般公衆の利用に供せらるゝ公開運動場は全國に百十五ケ所、公園にして相當備完せる運動場を有するもの約三十(昭和十五年厚生省體力局調査)を算するのであるが、之を歐米の夫と比較すれば數に於ても施設の內容に於ても及ばざること甚だ遠いのであつて、今後の發展を期せなければならぬのである。然らば歐米諸國が競つて如何に運動場及運動公園の發達に努力致して居るかを先づ英國について見るに英國は所謂「スポーツクラブ」の發達著しく、從つて施設も體育團體に依つて建設されたものが多

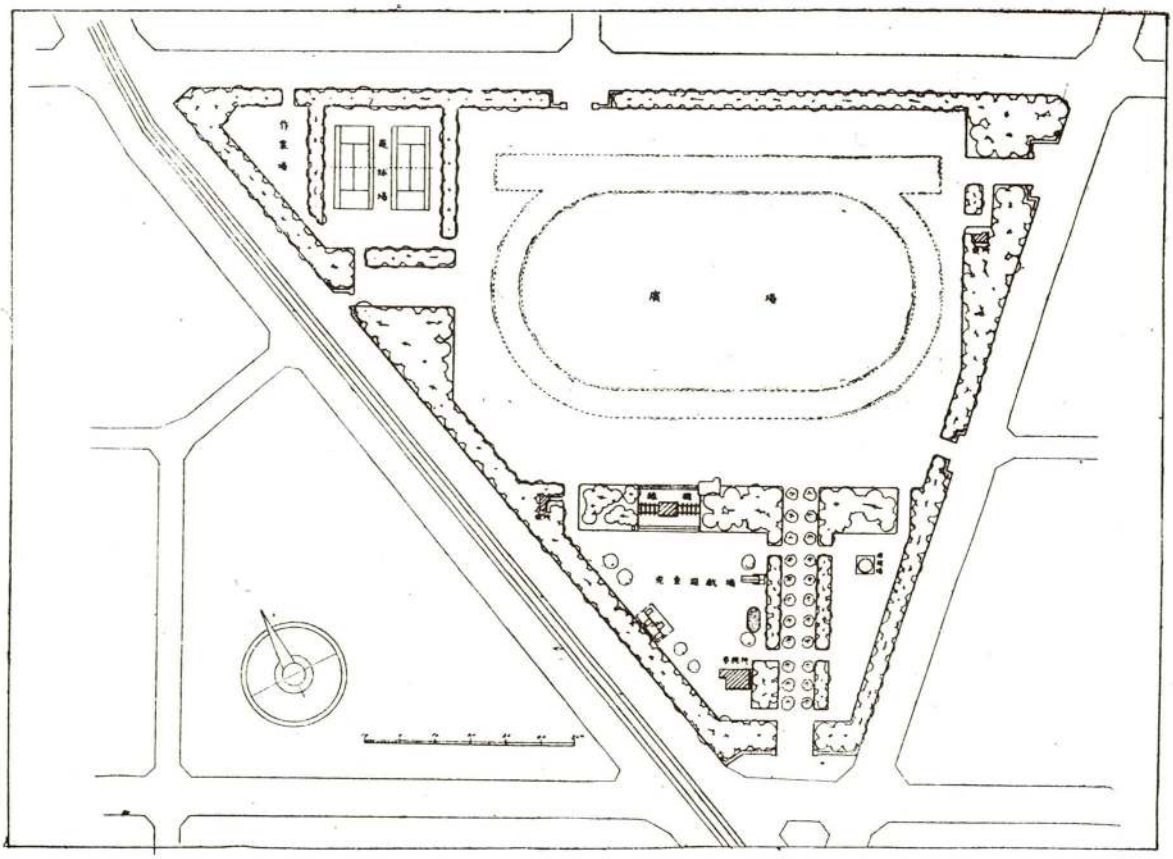
| 種類 | 名稱 | 說明 |
|---|---|---|
| A 公共的施設 | | （公衆の用に供する施設）<br>（公衆の運動休養教化等の用に供する園地） |
| I 公園及準公園 | | |
| | (I) 公園 | 公衆の運動、休養教化、等の用に供する目的を以て設置せる園地にして國又は公共團體の管理するもの |
| | イ、休養公園 | 主として一般公衆の休養の用に供するもの |
| | ロ、運動公園 | 主として一般公衆の運動の用に供するもの |
| | ハ、兒童公園 | 主として兒童の運動の用に供するもの |
| | ニ、自然公園 | 主として一般公衆の自然の享用に供するもの |
| | ホ、其の他の公園 | 1.道路公園及之に類するもの<br>2.動物園植物園及之に類するもの<br>3.史蹟又は自然物等の保存を主とするもの<br>4.其の他 |
| | (II) 準公園 | 學校植物園、社寺苑、公開私園、墓苑等公園に準ずるもの |
| II 體育運動施設及奬健施設 | | 公衆の體育運動の用に供する施設 |
| | (1) 體育運動施設 | 體育運動の用に供する屋内及屋外施設 |
| | イ、體育館 | 體育運動施設を綜合せる屋内施設 |
| | ロ、武道館 | 劍道、柔道、弓道、其他武道の用に供する施設 |
| | ハ、運動場 | 育體運動の用に供する屋外又は屋内施設 |
| | ニ、運動廣場 | |
| | ホ、體操場 | |
| | ヘ、陸上競技場 | |
| | ト、野球場 | |
| | チ、庭球場 | |
| | リ、蹴球場 | |
| | ヌ、籠球場 | |
| | ル、排球場 | |
| | ヲ、相撲場 | |
| | ワ、馬場 | |
| | カ、射撃場 | |
| | ヨ、自轉車競技場 | |
| | タ、其の他の運動場 | スキー、スケート、ホツケー、拳闘等の用に供する施設 |
| | レ、水泳場 | 水泳(競泳、游泳、飛込、徒渉等)の用に供する施設 |
| | ソ、漕艇場 | 端艇、端舟、ヨツト、カヌー其の他漕艇の用に供する施設 |
| | ツ、綜合運動場 | 體育館、武道場、各種運動場、水泳池等の中數施設を綜合せるもの |
| | (2) 奬健施設 | 野外に於ける體育運動施設 |
| | イ、青年宿舍 | |
| | ロ、徒歩旅行施設、 | |
| | ハ、登山施設 | |
| | ニ、野營場 | |
| | ホ、海水浴場 | |
| | ヘ、スキー場 | |
| | ト、スケート場 | |
| | チ、ゴルフ場 | |
| | リ、グライダー場 | |
| | ヌ、其の他の奬健施設 | 自轉車旅行、漕艇、種藝、釣魚、溫泉浴場等の用に供する施設 |
| B 非公共的施設 | | 營利の爲にして又は特定人の用に供する施設 |
| I 園地 | 細目はAに準ず | 運動、休養、敎化等の用に供する園地にして營利を目的とするもの（遊園地其の他）又は特定人の用に供するもの |
| II 體育運動施設 | 細目はAに準ず | 體育運動の用に供する施設にしの營利を目的とするもの。 |



1. 大阪府立住之江公園

く1937年國家は體育及休養法（Physical training and Recreation Act）を制定して、體育施設の普及に關し一層積極的に體育團體及地方公共團體に對し助成を行つて居り、1937年より1940年三月迄に政府は運動場、プール其他の體育及休養施設の爲に241萬磅の補助金の交付を企圖してゐるのである。

獨逸然り。特に獨逸に於ては1920年非常に、劃期的な運動法案（Sportplatz-gesetz）を作つて居り前歐洲大戰に於てドイツの破れたるは1919年あの非慘なる敗戰國が破れたる翌年既に運動による體力の向上を如何に重大視したるかゝわかると同時に今日のドイツの强さは決して、偶然にあらず、當然の結果だと思ふのである。獨逸に於ては初期は各體育團體の施設が多かつたやうであるが、財源獲得のため觀衆本位の競技に走る弊害を認め、公共團體の施設に主眼を置くことに方針を一變し、殊に國家社會主義の全體主義的體育國策の實施に伴つて、政府は强力なる體育行政機構を確立し劃期的ベルリン競技場の建設を初めとし積極的に市町村の助成に邁進しつゝある。最も前記



2. 堺市三寶公園

法案は未施工でもあるが各都市の施設は同法案の理想に向つて進展し同時に施設に對する標準ともして居るのである。米國に於ても運動場施設の發達は顯著なるものがあるが之は州、郡、市町村就中都市の施設を主としたもので體育團體及私設の運動場も相當あるが國家全體として均衡施設の整備を期するため合衆國政府は1936年公園及休養地調査に關する法律 An Act to Authorixe. a study of the Park. Parkway and Recreationalarea Programs in the United States. and for otherpurposes を制定して全國的調査を開始して居り、佛蘭西亦然り、1936年佛蘭西政府は餘暇及體力局 (Sons Secretariald'Etat da l'orzanisation de loisirts) を創設して選手本位スポーツより民衆體育への大轉換を企圖し市町村に許容する體育運動施設に標準型を制定し數千萬フランの國庫補助により、その施設を助成してゐるのである。

斯くの如く從來體育團體或は公共團體の自由意

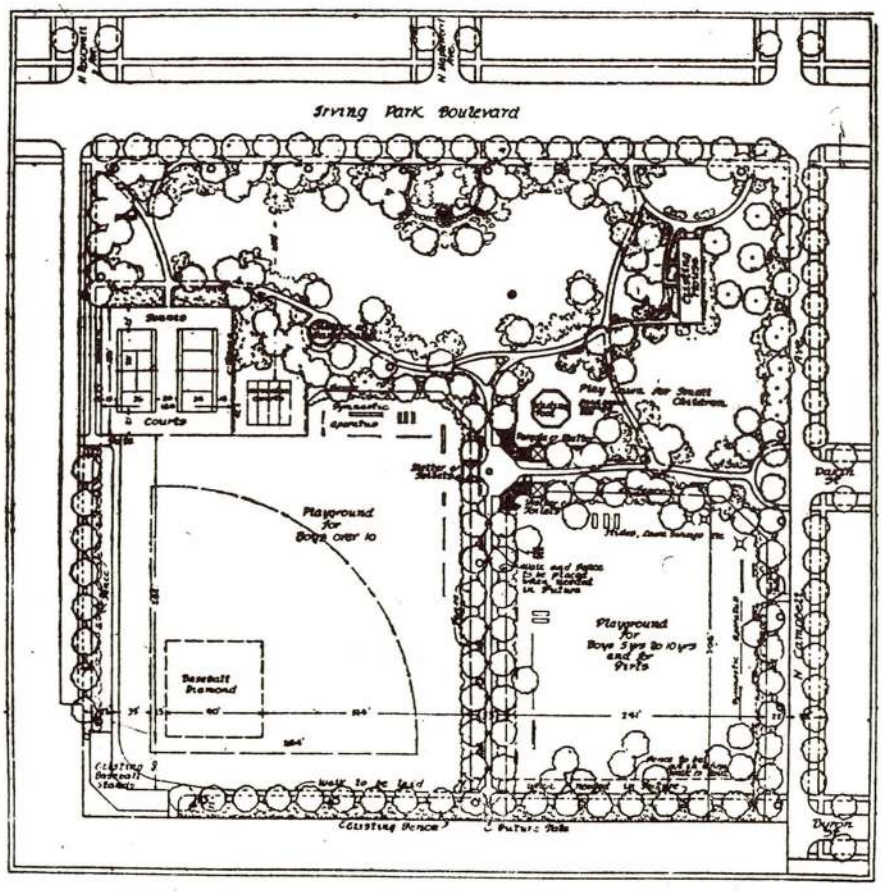
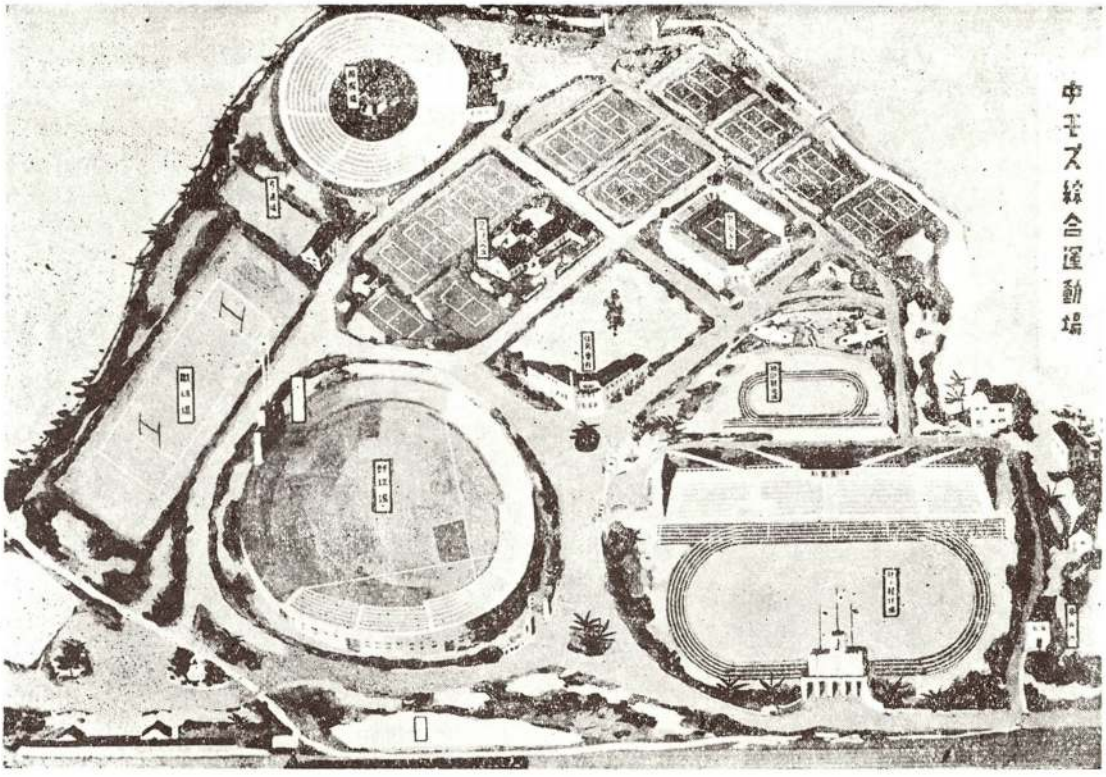



PLATE No. 44

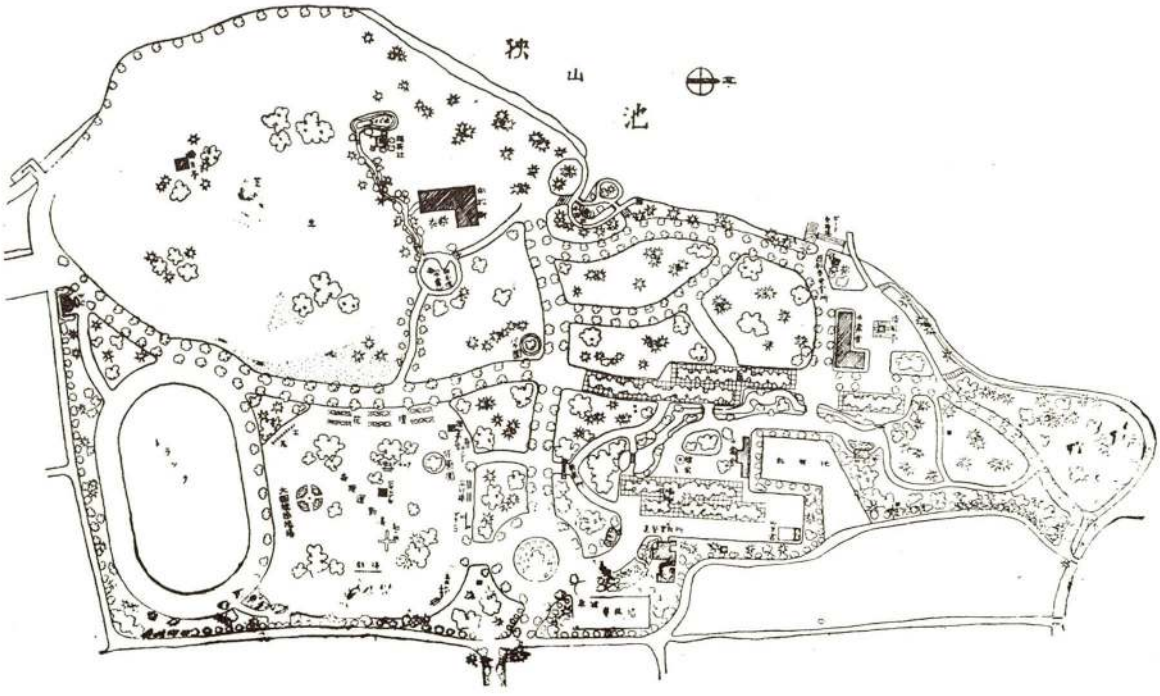
PLAN OF PAUL REVERE PARK, RIVER PARK DISTRICT, CHICAGO, ILLINOIS

An area of approximately 9.25 acres designed as a children's playground and neighborhood park. The three-part division of play areas in this design is frequently used in children's playgrounds. The general arrangement of the various facilities and the location of equipment are excellent. This area is adopted for evening use as a play center by young people and adults. Plan designed by Jacob L. Crane, Jr., Chicago.

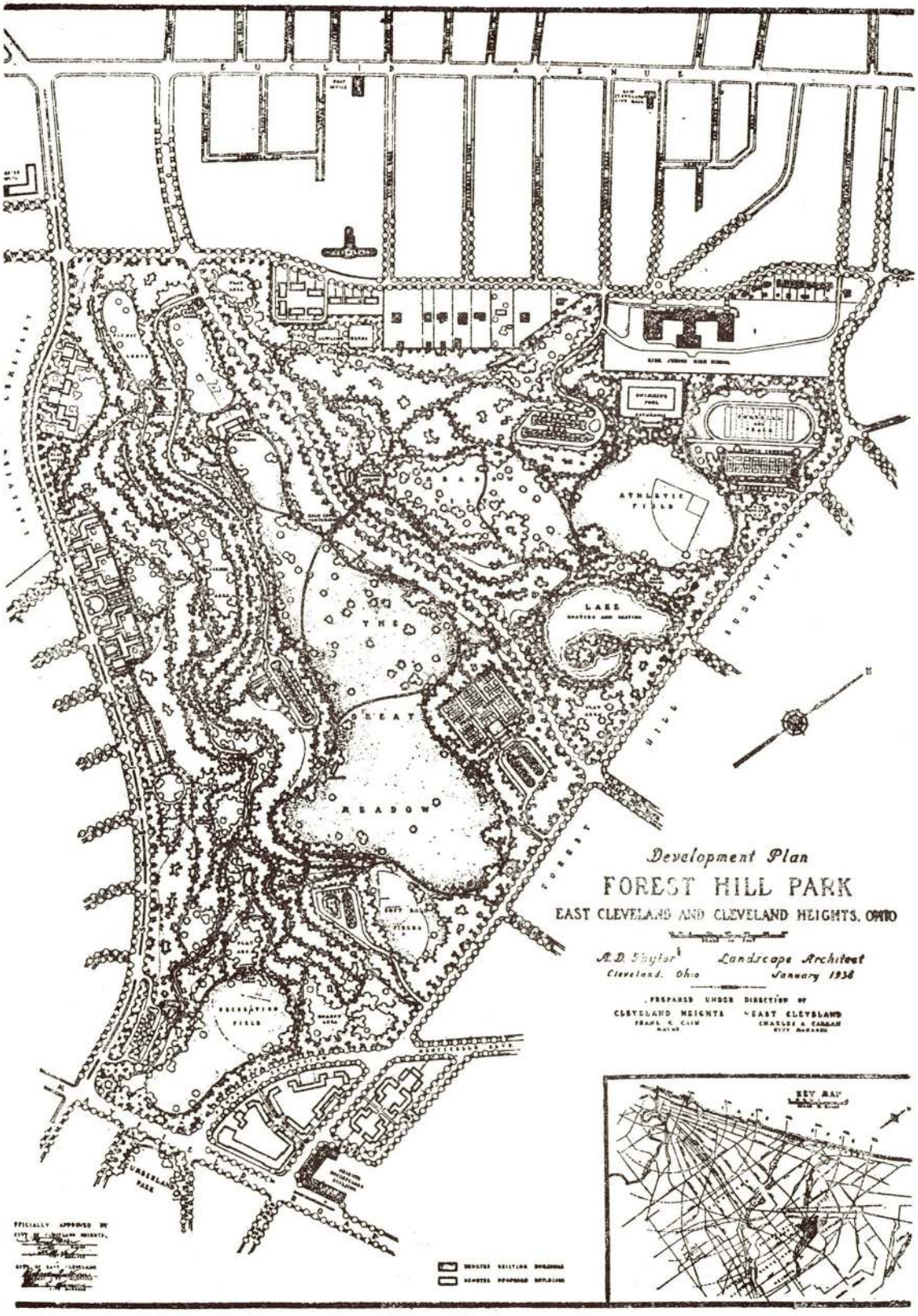
3. シカゴ市兒童兼近隣公園



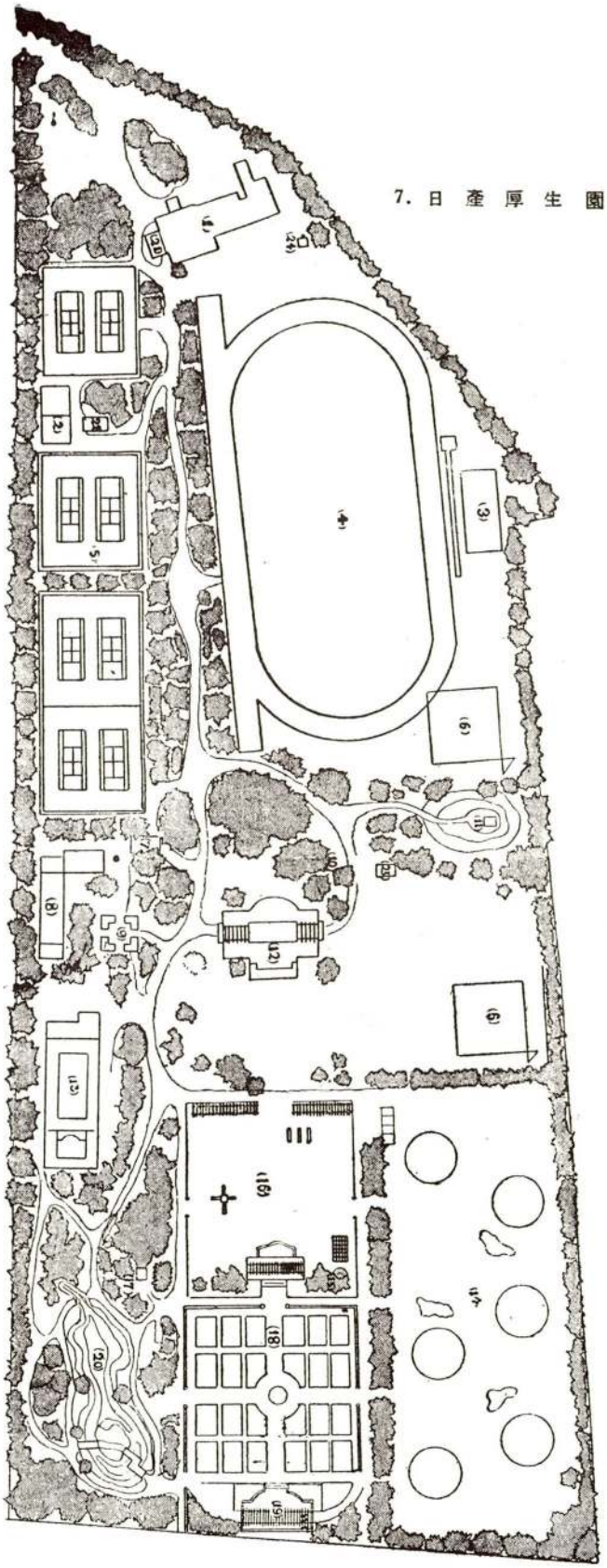

4. **南海、中モズ綜合運動塙**（總面積60.000坪）




5.**醫南海、狹山地厚生園**（總面積25.000坪）




6. クリーブランド市自然式運動公園



7. 日産厚生園

志に放任せられて居た運動場の施設に對し國家が積極的に補助を行ひ又は國自ら其の施設を實施して國民體力の向上を企圖せるは正に世界の趨勢とも見る可く、殊に我國の如く施設の擴充を焦眉の急とする國に於ては國家も公共團體も體育團體も私人も、官民一體となり其の實施に邁進しなければならないのである。

我國に於て從來行はれて來た體育運動の種類は極めて多く、從つて運動の種類に應じて施設も異なるが、一般國民の體育運動を奬勵する上に最も適當と思はれる施設には別表の様なものがある。

表中の各施設中體育運動施設として揭げたものは單獨に設置せられ或は他の施設に附帶して設置せられる事もあるが特に公園に併置せられる事が多い。公園は公衆に開放せる土地にて國又は公共團體が管理するため之に各種の體育運動施設を併置するが最も便利であり且公園の利用便値を高める事にもなる。

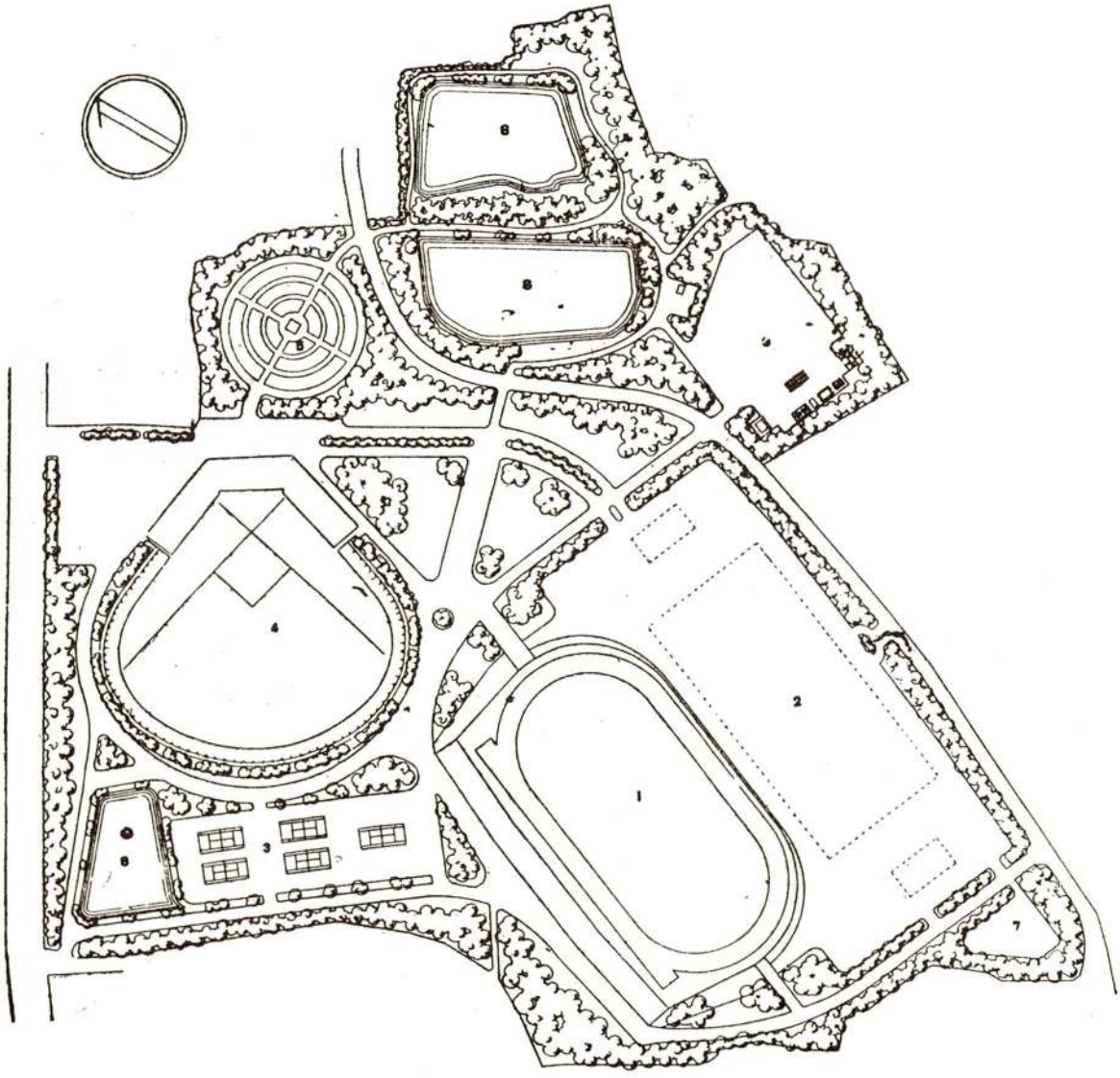
南海金剛厚生園

面積　38.000坪

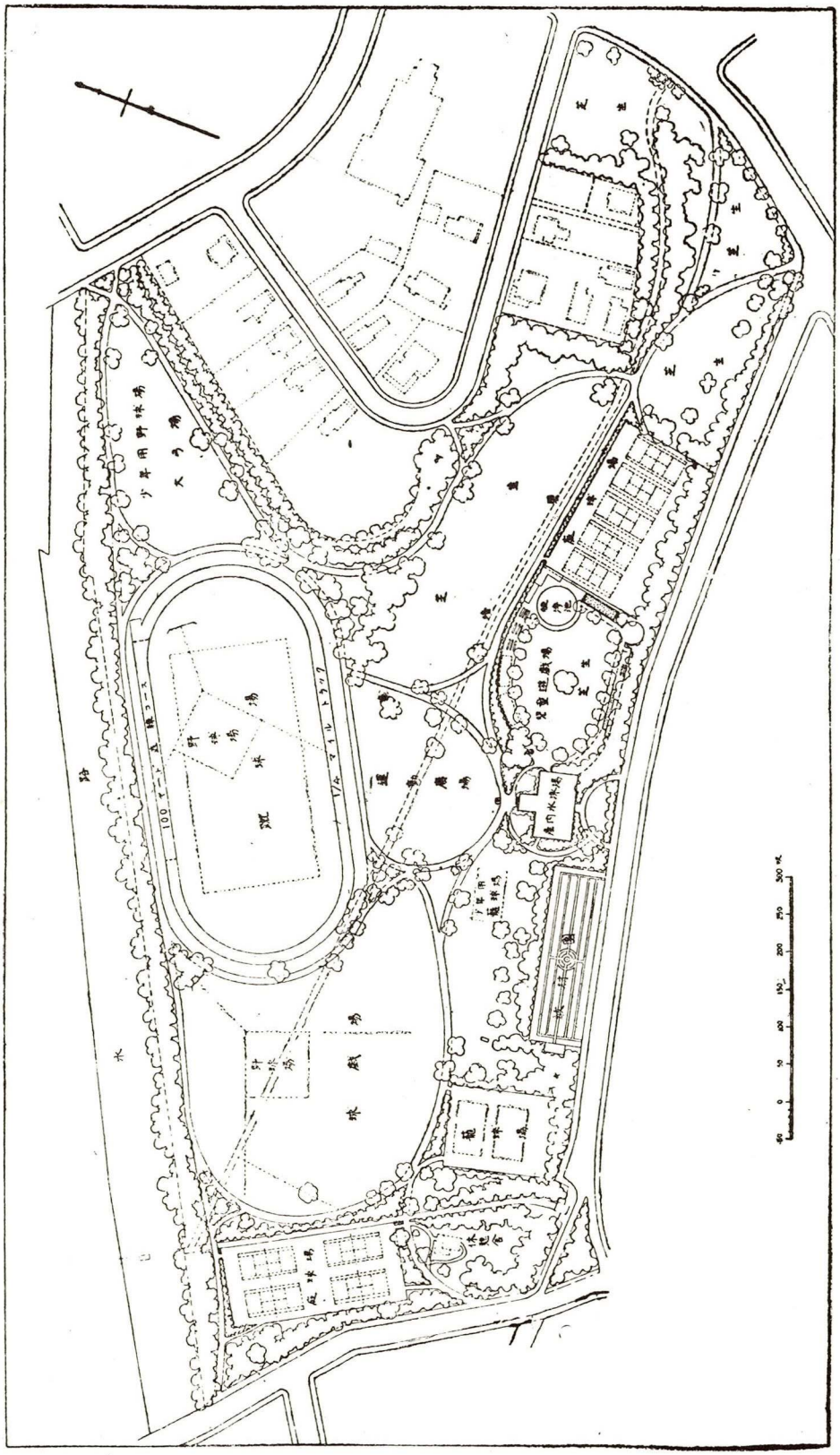
都市が有すべき運動場及運動公園の面積は如何にして決定すべきかは種々議論せらるゝことで全市域の面積の何%と云ふ様に割合を以てするもの

又市民一人當り幾坪と人口を標準とするものがある、市の面積は行政區域を指すから必ずしも都市として利用されてゐる地域と一致するものではなく、都市に依り人口密度は異るから都市面積基準より人口基準とする方が理論上合法的であると謂へる。

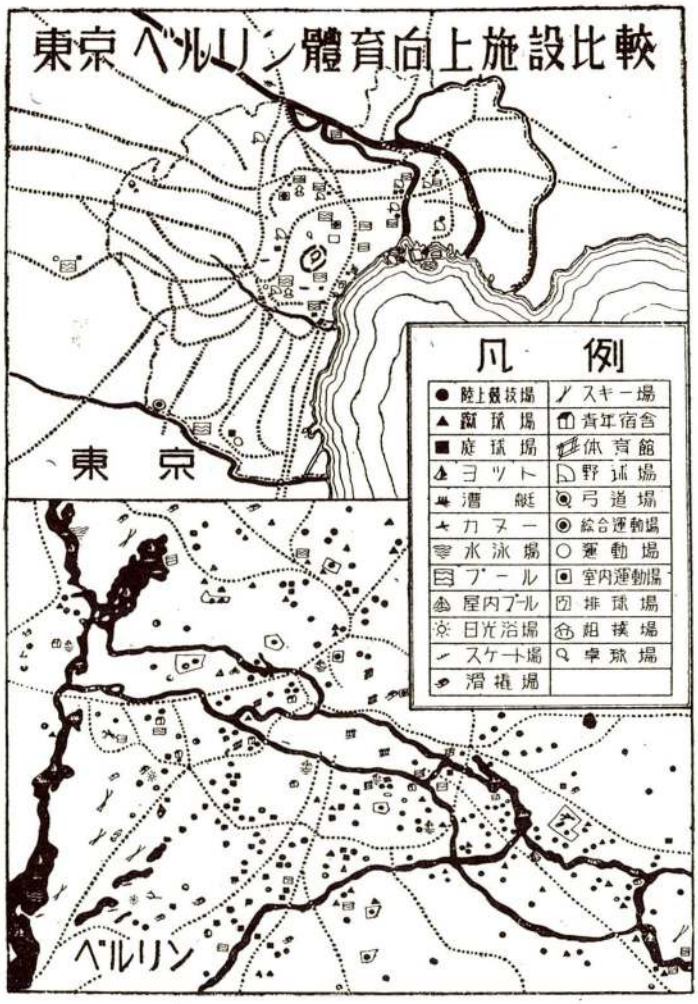
運動場建設計畫の目標は大體の標準を定むることは必要で一應の理論數は算定し得る。既往の例として例へば獨逸のウオルフは人口一人當り3.65平方米（1.10坪）ワグナーは4平方米（1.21坪）獨逸體育委員會は標準4.5平方米（1.36坪）（最低2.5平方米）（0.76坪）と云ふ標準を算出して居る。今參考の爲め我國各都市（人口25.000以上）に於ける運動場及運動公園の現況を獨逸に於ける拾年前の調査例と比較すれば表の如き相異を示し我國に於ける體育運動施設の現狀が如何に貧弱であ



8. 靜岡縣、草薙綜合運動場



9. アメリカ合衆國ニューセンター運動公園




B　表

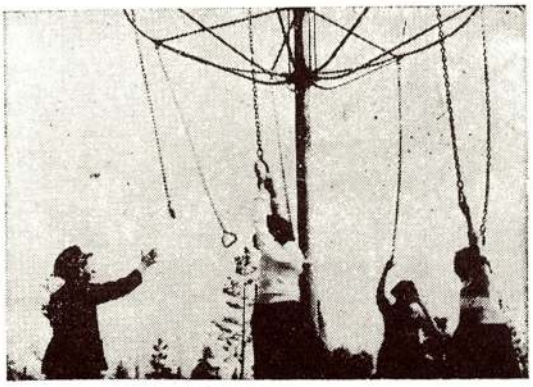
るかは一目瞭然たると共に之の施設の事業に携はる者の責務が如何に重大なるかを痛感せしめられるのである。

ベルリンと東京に於ける體育向上施設比較

（筆者は南海鐵道株式會社工務部營繕課勤務）

南海、狭山池厚生園施設の一部





# 簡易生命保險の保健施設について

佐藤重夫

我が簡易保險にありては創業の當初より常に被保險者の健康保護の問題に留意して、全國主要都市に健康相談所を開設經營するの外、巡回健康相談の施行、結核及花柳病豫防思想の宣傳、震火災其の他の突發的災害に對する臨時救護の處置、印刷物及活動寫眞による保健衞生思想の普及等被保險者の健康增進と社會衞生思想の啓發とを目標として汎く多方面に亘り多額の經費を投じて最善の努力を續けて來てゐるのであるが、本文は被保險者保健施設のあらましを述べると共に特に簡易保險の最も主力を注いで經營するところの健康相談所に關する概略を紹介し、その如何なる目的の下に生れ且つ延びんとしつゝあるかに言及せんとするものである。

**被保險者保健施設の由來**

生命保險の頭初に於ては醫學は何ら力を藉すこともなかつたのであつたが、醫學との連絡を保つて活動し初めたのは比較的近代のことである。更に保險と醫學とが協力するに至つてからも本當の保險醫學が確立されたのは更に後期に屬すのである。即ち生命保險に保健施設を加ふるに至つて生命保險醫學の新時代を迎へ漸次一般國民の健康保護の目的へ迫車を加へるに至つたのであるが、保健制度の目的は專ら最後の事業救濟にありとし同種危險團體員の大數的結合を基礎として危險分散をはかるを保險制度の本態なりとする觀念は吾人が從來保險學により教へられて來た所であつた。從つて保險事故に保險給付を以て能事終れりとして、極めて運命論的で、保險事故の發生率を輕減することなど與へても見なかつたのである。

而るに火災保險業者が十九世紀中葉に到つて火災事故の豫防鎭壓を試み、耐火建築の奬勵、水道消防設備の完成により契約者と共に危險防止に努力せる事實に着目せる生命保險業者に漸やく醫學により死亡率を減少し、疾病を豫防撲滅し得るを知り、こゝに於て危險發生の積極的施設の擴充を計り、一面事業の確實化をはかると共に、更に進んで被保險者の爲に健康の保護增進生活狀態の改善、平均壽命の延長等に努力するに到つた。此の新運動に第一指を染め業界に一大衝撃を與へたものは實に米國メトロポリタン生命保險會社であつて米國よりカナダ、歐洲、濠洲、日本とこの施設は移行して來たのである。尙こゝに特に注目すべきはメトロポリタン社をしての保健施設を斷行せしめたフランケル博士は、この施設を中產、生產の階級の爲め遂行せんとの願望のもとに被保險者のみならず、漸次一般國民の健康保護を目的として運營せしめたことである。

**歐米の被保險者保健施設**

一九〇九年ニューヨーク、メトロポリタン社により先鞭をつけられた保健施設は爾來三十年間に全世界の關心を體め、現在では各社共何れかの形に於て實行せる狀態となつた。例へば瑞典では瑞典生命保健會社の經營にかゝる共同結核療養所であるが、この施設はソルバツケン、結核療養所と名づけられ療養は被保險者に限られてはゐるが極く輕費の負擔を持つのみで他は全く保險會社の出費とされるのである。尙特色として被保險者の負擔金は無利子の貸付金として保險金の支拂と相殺されること並にこの貸付金は治療後自動的に年々一割宛償還されるものと看做すことである。各國共結核病床の寡少に惱みつゝある現在の狀況の下にあつてこの施設は極めて有効且つ適切なるものと稱揚さるべきであらう。

其の他チエツコスロバキア（現在は獨領）では全國內の有名な溫泉場に療養所を設けて豫防的保健施設としてゐる。次に歐米各國の保險會社で現に實行しつつある保健施設の主なるものを擧げて

見ると次の如くである。

1. 定期健康診査　　2. 訪問看護
3. 保健衞生印刷物の配布　4. 尿檢査
5. 結核療養所及健康相談所の經營
6. 公共的保健衞生運動

以上の內定期健康診査が最近は特に各國共に普及し保健施設の中樞をなすに至つてゐる。而して健康施設はその對照を被保險者に局限することなく汎く一般公衆の衞生思想の普及啓發と衞生狀態の改善とを目標として講ぜられるに至つたのであつて、これは云ふまでもなく被保健者の健康狀態の改善、及び死亡率の低減は一般民衆の衞生狀態思想の程度、衞生施設の定否等に左右されること亦大なるがためである。從ひて生命保險の保健運動は漸次一般民衆をその對照とするに到つたのである。

**本邦に於ける被保險者保健施設**

明治二十三年本邦に誕生して以來、約五十年間に飛躍的に發展した本邦の生命保險事業は遂に其の普及率に於て米英に次ぎ世界第三位を占むる盛況に到つた。從つて事業と共に保健施設も近年著しく整備されて來たのである。今普通保險の保健施設を上げると次の如くである。

1. 家庭醫學其他リーフレツト等の印刷物の發行
2. 健康相談所健康相談部の開設
3. 救護班、巡回診察班の派遣
4. 病院、結核療養所、產院の開設及び診察藥價入院料の免除又は割引
5. 映畵會其他にある衞生思想の普及

これらは皆何れも相當の成績を上げてゐるのであるが加入者本位の傾向顯著な點が遺憾である。

**簡易保險の保健施設**

前にも一寸述べた如く大正五年十月創業以來異狀の發展を遂げ、昭和十六年七月十一日にはその契約高百億圓を突破し、現契約高百十億圓契約件數五千貳百萬件に達し、益々加速度的に進展の過程をたどつてゐるのである。これは近時の貯蓄奬勵浮動購買力吸收の運動が分る處に大なると共に簡易保險が一簡易保險ではなく、國民保險として一般民衆にアツピールするに到つた事を痛感せざるを得ないのであつて從つて、被保險者中には極めて多數の勤勞階級を包含するものである。即ち簡易保險に於いてはかゝる被代險者を多數に持ち且つ一般國民の大多數が加入してゐる關係上その保健施設の必要性は一般民營保險に比し、特に必要なものがあるのである。こゝに於て簡易保險局は創始以來被保險者の保健衞生に深甚なる注意を拂ひ、施設を擴充してゐるのであるがその內主なものは

1. 健康相談所の經營
2. 巡回健康相談の實施
3. 災害救護
4. 保健衞生思想の普及宣傳

等である。

**簡易保險相談所**

健康相談所の經營は、簡易保險の被保險者保健施設の樞軸をなすものであつて、大正十一年に創設されてより漸次增加され、昭和十七年三月末日現在に於ては內地を通じ三百十七ケ所を、外地では臺灣、樺太、關東州に十數ケ所を數ふるに到り醫師約600看護婦約1600其他職員合計3500に及ぶに至つた。而してその取扱事務は、健康相談、特定の疾病の治療、訪問看護、及び書面相談であるが一部の相談所では投藥もしてゐる。その他大部分の相談所にはレントゲン設備を整へてゐる。而して健康相談、訪問看護は全科で治療並に特種の設備を要する檢査及處置に付ては使用料を徵してゐる。

（イ）健康相談及特定の治療

來所する健康相談者の九割六分までは疾病の所有者であり輕費診察の要望をも入れて一般內科診察を行ふ他、結核の早期發見、療養豫防の指導、大氣安靜養法を根幹として、適應症あれば人工氣胸をやることになつてゐる。花柳病については疾患の發見、豫防智識の普及の他治療を施してゐるが其他一般の疾患には處方箋を與へてゐる。尙開局藥劑師の居ない不便の地では所內調劑の需に應じてゐる。其他今の處重點主義に徹するため專門外の眼科、耳鼻科、外科等の領域は應急處置の範圍に限られてゐる。

訪問看護は結核を目的として運行されてゐる。

（ロ）相談所の建築施設

現在は（イ）項の如き保健業務を行つてゐるのであるから從つて相談所廳舍の主要部は診察室であ

りレントゲン室であり檢査室である。然しながら現在までの建築施設は色々の不自由のため、且つ相談所其物の發展過程にあつた爲め、極めて小規模不完全、のみならず甚だ非合目的なものさへあつたのであるが、これも年次改良に追車をかけつゝあるのである。次に各處要室の概要を述べん。

a) 診察室　多數の患者を極めて能率よく診察するためには、一般診察の要項を調ふる他に室内にて待合室あり呼入れたる患者を適當に控へせしめ、着脱衣の便を計り、且つ患者のプライバシーを充分保たゝしめる必要がある。

然して患者と醫師との對談が外部に洩れざる様にすべきである。ガラスクリーン等を使用して控室、更衣室を明るく附屬せしめる等も診察の流れを圓滑、且つ迅速ならしめる一方法であらう。

b) レントゲン室　透視、撮影に便なる様にする他、室の乾燥度のよきこと、遠距離撮影の出來る便利のための廣さ、又比較的大規模の相談所では集團檢査の便のための間接撮影室集團結合室の附屬も必要である。

c) 檢査室　檢尿、檢便の他、血沈、血清反應等を行ふ室を設ける處もあるが充分の天然光を得られる室が絶對必要である。

d) 玄關、待合室、相當の多人數にもかゝはらず患者自身の手で下足を整理し上履きに履き變へて入室すると云ふ自治によるものである關係上、充分以上の設備とする必要がある。

e) 處置室　花柳病治療其他一般應急處置を行ふ室として設ける室で患者の心理になるべく影響少なき様に配置するものである。

f) 休養室　注射後の休養室等に當てるものである。

g) 豫備室　人工氣胸療法を行つたりした後數時間又は數日休養せしむる室等に用ひるものでベツトを設置するものである。從つて簡單な湯沸等の便を設ける必要がある。

h) 研究室、圖書室　比較的大規模の相談所では相談所醫師の臨床醫學を一層醫學の進歩に即應せしめ以て診察の的確を期するために必要である。

i) 事務室　藥局、舊來の窓口を以て患者と應對する方式は患者をして精神的に疲勞せしめあまり良い氣持にならざる故將來は廣々とした開放的カウンターを以て患者との應對場處とし努めて明快ならしめる必要がある。藥局もガヲス張りの室の如きものが好ましい。

j) 看護婦室　日本婦人としてはやはり座敷が好ましいが、衣類戸棚、化粧棚等の他訪問看護等の重責を擔ふ者でもあるし、書齋としての落附きある室として準備して置きたいものである。

この他色々の室、設備等も必要であるがそれは一般病院と大差なきものなれば省略する。尙この他に簡易保險局では中央相談所を全國樞要の地に設置し、各相談所の中央機關として高度の臨床諸檢査を行ひ得る様、且又職員の養成をなさんとするもので其の一部は既に開始され、目下殘餘の實施を急ぎつゝあるものである。以上で健康相談所の概説を述べたのであるが、しからば此等施設の効果は如何であらうか。

**保健施設の効果**

各國で色々の統計資料が作られたのであるが尙今日實際の處、保健施設と死亡率との關係即ち如何なる保健施設を以てせば保險上最効果的なりやの問題は依然として證明するにはあまりにも困難なものである。然し次の如き効果のあることは何人も否定し得ないものであらう

1. 被保險者個人に對する効果、疾病の早期發見早期治療の機會を得、自己並に家族の衛生狀態の向上を得るが如き何れも個人の保健上又經濟上甚大なる利益を得るのであつて生命保險と同時に生命の確保の歡びを享くるものである。

2. 保險事業に對する効果、死亡率を輕減し事業の安全度を增加せしむ。

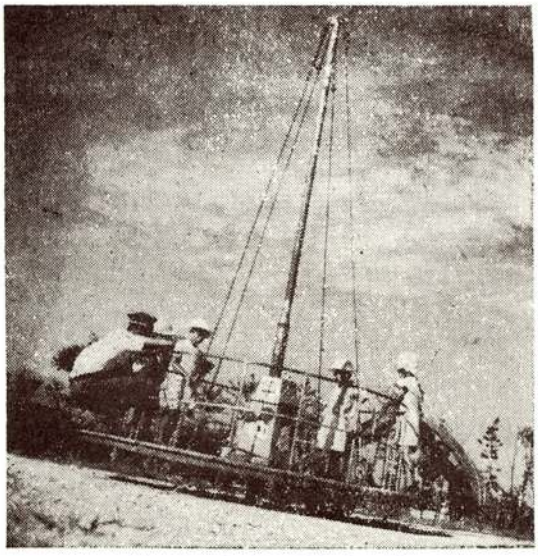
3. 社會に對する効果、人的國家資源の增强は時局下特にその効果は絶大なり。更に疾病の多くは人爲的に豫防し得るものなることを民衆に徹せしめるが如きは偉大なる社會への貢獻である。其の他公共保健事業への刺戟を與へ、且つ社會立法を速進助長する効果をも有するものと思はれる。

**結　語**

保健施設、特に簡易保險の保健施設は以上の如く大いなる足跡を印して來た。然し保健施設の價値や効果の重大の餘りに將來の保健施設の見透しを忘れてはならない。醫務組織の形態國內多種の施設の統一さる可きや否や——經營技術の問題は如何に解決さる可きやこの理論的研究は將來にまたなければならぬ。更に自由主義的性格の普通保險事業に屬した保健施設は曾てなき試練に遭遇するものと信じられる。然し簡易保險は他國に類例無き强力なる國家機關なるがため、且つ被保險者が廣く一般民衆であるため、將來はその保健施設の被保險者の爲めの言葉は國家の爲めと云ふ言葉に置き換へられることであらう。而して國家保健醫療施設の一環として益々增强されるものであらう。

（をはり）

（保險院簡易保險局管理課營繕課技師）



さやま池厚生園



さやま池厚生園

# イコマサンと厚生鍛練

竹内　孝

**生駒山**（イコマサン）——とは生駒さん（生駒聖天）と語呂の相通する所から隨分と大阪人には親しまれて來た山である。そして大軌電車と云へば奈良のあやめ池よりも寧ろこの生駒山を連想させる程兩者は密接不離なものであつて、廣袤40萬坪の山を所有して由來會社はこれが開發に種々のエピソートを織り込みつゝ莫大な費用を投じて來たのであつた。

當時の生駒山は遊園地的に開發の方向能が握らて居て、これに群小の良心なき企業家が便乘して樣々な都人に阿ねた施設を試み、一時は全く遊蕩的な雰圍氣にまで墮して來たのであつた。それが大軌電車の社名を關西急行と改められると時を同じうして、山上も厚生的、文化的の諸施設が形を整へて實現し、あたかも開發の方向が百八十度の旋回をしたかの樣になつて來た。而し、この厚生的、文化的への陣痛は、今日の時局から止むなく、させられたのではなく既に七、八年程以前からその胎動は始められてゐたのであつた。

種々な意味で、頽廢的にさへならうとしてゐた山上の雰圍氣の眞只中にあつて、厚生的、文化的方向へ變換をしやうとする事は、諸施設が相當にいゝ收入を擧げてゐる限りに於ては、事業會社として仲々容易なことではない。其れは、これまでの遊山的な投資の布石を全然無にしないまでも、相當の無駄を覺悟しなければならないし、又、後者の方は民衆にアツピールするには隨分むつかしいからである。

打算を無視しやう——と社の方針が決まつてからはやり易かつた。今は亡きブルノウ・タウト氏や、都市計劃の權威者、造園の大家などに實地踏査を願ひ、過去の投資の形骸を無視した白紙の立場から卓見を求めて、やつと一つの指導目標を打ち樹てた。この時を限つてはつきりと百八十度の旋回をして、今日順を逐ふて產まれ來りつゝあるものゝ胎動が始められたのだつた。

これが第一着手としては、先づ頽廢的なものゝ撤去であつて、群小企業家の料亭、旅館等を買收してかつての面影を止めぬまでに改築して經營も會社組織の、一環たらしめる樣にされたのである。

續いて家族を單位として厚生鍛練を目標とする〝山の家〟週末休養のためにとて〝コツテージ〟青少年の團體的修養と訓練の目的に〝青少年鍛練道場〟航空思想普及の一助にもとて〝グライダー場〟の建設を實現させると共に、彼等童心の大空への幻想をより高く昂揚させんためにとて〝航空道場〟を建て、或は山にさまよひ、山に修めんとする一般ハイカーに開放すべき〝八紘舍〟〝野外炊事場〟〝林間學舍〟文化的施設を始めその他一二を最近竣工せしめ、目下設計中のものもある。それに續いて實現さすべき大な劃策も、しきりと胸に描いてはゐるが、この時局はいつの日に之等を確かに產み出させて呉れるだらうか。

**山の家**（ベルグ・ハウス）——

前にも少し書いた樣に、家族單位のものゝ厚生鍛練の明朗道場たらしめやうとして建てたのがこれである。

敷地は大和の平野を瞰下し、更に遙けく筌置、木津を越えて雲煙幾十里、自然の四季とりどりな彩りを各戸の窓邊に思ふ存分に饗應し樣とした。

戸數は約三十戸、獨立家屋の極めて小さなものから、相當に纏つた別莊風なものまで、各々その趣向を變へ、長屋式のものも二棟建てた。

各戸共簡單な炊事が出來るやうに設備をしたが向金戸を打つて一丸とし、共同の一家としての浴室、食堂、日用品の廉賣、事務所と各戸との通信連絡設備等をも設けた。

問題はこの浴室と食堂である。

計畫の本意は明朗家族を一單位とし、單位相互の親睦、常識の交換、何かにつけ不自由勝ちなるべき假住居の有無相通、明朗は他の家族生活を實見する事による自試向上などを期待して、浴室の廣間は數戸家族の會同に、食堂客室は十數戸或は全戸、家族の集合に便するつもりであつた。

今日の社會組織の根幹をなしてゐる〝隣組〟の共保共存が既に7～8年前我々の夢に描いて、この形を整へた事をおもへば、まことに興深い。

果してこれは成功だつたらうか？

7～8年前の社會情勢に於て、營利的には斯ういふ計劃は決して所謂―そろばんのもてるもの―ではない。

營利を度外視して――と言ふ出發は、責任者を決めて經營して見れば、いつしかそろばんを彈くやうになつて終ふ。亦これを利用する人達も、別莊を持たないプチブル階級の數日の〝避暑別莊〟と考へられて終ひ、そして彼等の常として、斯ういふかりそめながらも、此れは別莊なり――と自認して見れば、極端に自由を求め、他よりの如何なる拘束をもいとひ、當然の義務すら避けやうとするのである。それ故に〝隣保精神〟は到底實現出來る事ではなく、いつの間にか食堂も浴室も、その兼務を解かれた、食堂は敷地外の一般公衆にも門戸を開かれて市井の公衆食堂と同じ性質になり下り、浴室の廣間は、浴後の涼を納るゝ一室に過ぎなくなつて、日中は只空窓をかこつてゐる有樣である。戰前に於ける社會情勢に於ては確かに、〝隣保〟といふ組織體制、思想系體は、むしろお互ひに〝おせつかい〟なものであり〝迷惑至極〟なものであらう。

斯ういふ傾向への大きな變昌は、我々の計畫とはたとひ反對方向であつても、營利會社である以上、惡い氣のものではなく、まことに痛し痒し、有難迷惑な氣がする。

この施設が世間に知れるにつれて、一日の利用にも豫約しなければ空室が得られなかつたり、日曜の利用には、金曜日あたりの比較的閑散な日よりの申込として權利を留保しなければならなくなり、この勢ひが段々極端になるにつれて、利用の階級も上昇して、一般民衆からは益々遠ざかりゆき、別莊を持たぬ階級の1ケ月の避暑別莊、一夏の別莊とまでなり上つたのである。

而し考へて見れば、餘りにも當初の目論見より遊離すること遙かである處から、家族中に病人を有し、療養の目的を以て滯在する者には優先賃貸する條件を作つて、この趨勢にブレーキをかけたがこれは確かによかつた。その後は虛弱兒を有する家庭、一家全體の保健を念願する家庭によつて大いに利用されてゐる。

まことに文化施設とその雰圍氣に充たされた健全な山上に於て、或ひは昆虫類の採取に、或ひは足を伸ばして尾根傳ひに信貴山までのハイクに、時には友を集めて山中に野炊を味はひ、又一周1粁を裕に超ゆる大グライダー場を早朝鍛錬道場として、黎明の山氣を呼吸しつゝ一家を率ひで駈足强行、或ひは廣い一面の芝生地域の朝露を踏んで素足徒步など、家族訓練と團欒の日課はこの地形施設を利用して、如何樣にも組めるのである。又その意味に於て、大いに利用されつゝある現況である。

斯ういふ豐富な日課はプチブル或ひはそれ以上の階層にのみ許さるゝものではなく、寧ろ庶民層にこそ、其の必要があるのである。その意味に於て會社では賃貸料を低廉にしてゐるのだが、これは亦中層以上の者達にとつて、より長期契約を容易にする逆効果となつた。

これの事情の內在によつて〝コツテージ〟の出現となつたのである。

〝コツテージ〟は全くのポータブル、天幕と若干の丸太と板、虫除け網戸とによつて手輕く組立てられる。10數戸の〝コツテーヂ〟こそ庶民の一日或は數日の夢を結ばしめるものであつて、我々の本來の念願が廻り道、寄り道をして、この〝コツテージ〟になつたかと思へばいさゝか寂しい。今後に課せられた宿題は、〝山の家〟をいかにしてコツテージ並みに庶民へ開放するかである。

× × ×

〝山の家〟〝コツテージ〟共に勿論夏期の利用を條件としてゐるので、氷點下10數度にも下ることある山上の越冬には、可成りの不備はまぬがれない。冬向きの家は夏向きでない事は、特異なわが國の氣溫濕度の情態では止むを得ないものゝ、山

（以下40頁下段へ續く）

日本電力株式會社　日電産業報國會

荒川卓次郎

# 修養道場・八紘苑

## はしがき

紀元2600年の記念事業を何かやることになつたのであるが、色々あれこれと考へた末この八紘苑を建設することにした。

この八紘苑の考へ方は産業報國運動が段々盛になつて來た折柄、何かこれが中心になるものを作りたいと思つたが、從來の倶樂部式では時局にふさはしくないのは勿論、そうかといつて『行』本位の道場も堅すぎて、而も年中毎日利用も出來ない。結局倶樂部式の和合團欒のいゝ所と、道場式の嚴肅な所とをうまく調和させて日常の生活を通じて精神身體の錬成を圖ると共に、産業報國運動の中心として行かうといふ風な考へから、色々の施設を綜合的に取入れて獨身者は勿論、家族持に婦女子、小供にも有効に利用できるやうな厚生施設をしたつもりである。

## 1. 建設の趣旨

皇道精神に徹し事業一家産業報國の實を擧げ、大政翼賛の使命を全うする一助として、修養道場『八紘苑』を建設し、精神の修養と體力の鍛磨を行ひ、皇國産業戰士としての固い信念を涵養すると共に、併せて寄宿舍を設け青年社員を收容し日常生活を通じて、精神並に身體の錬成を圖り規律ある生活をなさしめ、次代の産業中堅戰士を養成する目的のもとに建設することにした。

## 2. 施設の大要

(1) 遙拜所—敬神崇祖の念を涵養する爲合宿者は勿論道場に參集する從業員は必ず遙拜をなさしめ精神修養の根元とする。

(2) 講堂(修養道場)—收容人員約50人
社員約50人を1組とし順次交代で宿泊せしめ各種の修錬並に精神講話等を行ひ精神並に身體の錬成に努める。

(3) 合宿所(寮)—獨身者を常時收容宿泊せしめる。收容人員約30人、指導者を置き獨身青年社員を1年若くは2年毎に交代收容し日常生活を通じて精神並に身體の修錬を行ひ規律ある生活をなさしめ次代の産業中堅戰士を養成する

(4) 武道場—劍道、柔道、弓道、相撲

(5) 運動設備—庭球場(野球場は隣接の大鐵電車の第2グラウンドを借用する)

(4)と(5)は講堂に參集の者並に合宿者は勿論全社員が勤務時間の餘暇を利用して前記施設を有効に利用する。

(6) 蔬菜園、果樹園—趣味と實益と保健厚生を兼ね社員のみならず家族にも開放し都塵を遁け土に親しむ生活を味はしむ。

## 3. 所在地

大鐵沿線藤井寺の社有地約九千坪を之に充てた、山あり、森あり、池ありで四季とりどりの眺めもよく加ふるに大鐵電車野球場が二ヶ所もあり教材園遊園地を控へ四圍の環境は申し分がない。

## 4. 工事進捗狀況

今年の紀元節から社員の勤勞奉仕に依る整地作業を開始し、續いて3月には地鎭祭を執行、愈々第1期工事の食堂、事務所、獨身者合宿所(一宇寮)及庭球場の建設に着手した。11月末頃に第1期工事だけは大體完了の見込である。

(筆者は日本電力株式會社、總務部長)

# 我社の厚生施設に就て

南　岩男

小　引

一口に厚生施設と申しても色々ある。教養、錬成、體育、慰安娯樂、保健衞生、醫療、經濟共濟表彰、便益等其種類も多く範圍も廣い。そして大工場と云はれるところでは程度の差こそあれ此等の各種類に亘つて實施せられて居る。從つて編輯者から特に「我社の厚生施設」に就て書けとの律令を蒙いた以上は、我社の厚生施設の全般に亘つて記錄しても意味はない。そこで以下我社の厚生施設中比較的獨自の色彩を帶びて居ると考へられるものを書き記し度い。但しこれと共に所謂野郎自大だと咄はれるかも知れない。御寛恕を乞ふ次第である。

**1. 修養會に就て**

從業員の教養を昂め人格を向上さす爲に各種の修養方策がとられて居る。講演會、講習會、錬成會、何れも社內で行つたり社外で行つたり、或は年齡別、性別、身分別等に、分つて考へられる。當社に於ても以上各種類の教養方策を竝行して行つてゐるのであるが、就中特記したいのは月例修養講習會である。

月例修養講習會は每月一回郊外の禪寺で行はれる。參加者每回百二十名、三泊四日、昭和十三年一月から開始し已に連續四十回の記錄を作つた。修養講習會を行つて居る會社は元より數多いけれども、每月實施し然も已に四十回の記錄を持つ實例は全國を通じて稀有だと思ふ。此修養會の特徵が三つある。

イ、中心講師は松元稻穗先生であつて然も四十回の裡一回だに缺かされた事は無いと云ふこと。松元先生中心の講習會は講習を以て米の飯に例へられ、從つて四日間に亘り眞劍、機敏、敬虔、を重視せられつゝも兎もすれば苦痛が伴ひ嚴格過ぎる觀を抱かす鍛錬會式なやり方を避け、眞劍の裡に和氣を尊び、機敏の裡に和樂を交へ、敬虔の裡に童心を重んずる等、松元先生二十餘年の體驗に依る工場從業員の日常生活と修養會との融合一體を目指して居る點である。

ロ、第一回以來今日に至るまで修養會參加者の數は已に四千數百名に及び、孰れも工場現場にあつて修身齊家、淨職場をモツトーとして報國の誠を盡して居るのであるが、講習を受けた人々の移動率を然らざる人々の移動率と比較して見るに、前者は後者に比して約八分の一である。此驚くべき數字が悉く修養會の効果だとは云ひ得ないにしても尠くとも、勞働移動の原因は他の問題と同じく結局は魂の問題に還元せられることを雄辯に物語つて居ると思ふ。

ハ、老社長親らが講師の一員として壇に起つことがある。過去四十回一回と雖も缺くることなく午後一時から午後五時過ぎまで前後四時間に亘つて壇上に起ち、然も教師、說教師の態度を全然離れ一個の人間として過去四十年の會社を中心とした生活を物語る其の淡々たる談話の裡に從業員は慈父を見出し、云ひ知れぬ感激の泪に搏たれて當社の修養會は社長の想ひ出話あるに依つて一種獨特の靈能發揮して居ると云つて過言ではない。

**2. 産報挺身隊に就て**

産報挺身隊は我社獨自とものである。これは自惚れではないと思ふ。基より産業報國運動は單なる餘暇善用や厚生部面許りでなく職場に於ける御奉公の部面も包括するのであるから其挺身隊も純然たる厚生施設ではあり得ない。然しながら産報運動の目標の大きな一々が産業人の厚生の徹底にあることを考慮し特に茲に報告致し度いと思ふ。

當社の産業報國會は昭和十三年十一月二十日を以て結成せられたのであるが其の結成に方つては工場事業場の本質と産報運動の基本的性格に鑑み

最初から其組織を部隊組織としその最下部の母體として五人組を採用し來つた。今回産報中央本部の名に依つて全國的に部隊組織と五人組制度が採用せられるに到り此方面に於て微力ではあつたけれども陳呉の一役を買ひ得た事を衷心より感謝せざるを得ない。

産報挺身隊は實にこの五人組を基礎として編成せられて居るのである。即ち全工場にある五人組の世話人を以て挺身隊員としそれ以上の上層指揮者を以て挺身隊指揮者とする。挺身隊の規則を掲げよう。

第一條　挺身隊員ハ社是ヲ遵奉シ職域奉公ノタメ率先垂範挺身ンルモノトス

第二條　挺身隊ハ五人組世話人ヲ以テ編成ス

第三條　挺身隊隊ハ産業報國會長ヲ總指揮者トシ各聯合支部長、支部長、分會長之ガ指揮ニ當ルモノトス

第四條　挺身隊員ニ對シテハ特殊訓錬ヲ施スモノトス

右の規則に灼かないやうに挺身隊は當社産報運動の中核體である。挺身隊が中心となつて當社の産報運動は總ゆる方面に亘つて活潑に展開をせられて行くのである。人あつて或は謂はん「それじや挺身隊はナチスの突撃隊のやうなものか」と、任務は同じかも知らぬが編成は全然違つて居る從つて其本質も兩者別である。最も大きな違ひは挺身隊は突撃隊と違つて産報の基本組織たる部隊編成の上に乘つた組織であり然る限りに於て職場の職制と完全に一致した編成を採つて居る。ナチスはそれが如何に命令服從の部隊組織をとつて居らうとも現場の職制とは無關係である。現場の職制と無關係なナチスの突撃隊は從つて産報の挺身隊ではない。アルバイト・フロントの内部にヴエルクシヤーンと云ふのがあるがこれはどちらかと云へば産報青年隊に比較すべきものであつてこゝに云ふ挺身隊ではない。又大政翼賛會の推進員もここに云ふ挺身隊ではない。何となれば大政翼賛會は職場の職制とは無關係であるからである。

斯く考へてくるなれば産報挺身隊とは實は五人組世話人を含めての産報運動の指揮者、指導者の特別修練團體である。當社に於ては此團體の必需性を痛感し去る十一月十二日嚴肅なる結成式を擧行した。挺身隊員に對する特殊訓練は主として

イ　工場規律の徹底

ロ　製産力倍加

ハ　非常時工場防衛

を目標とし、集團訓練の形式を以て力強くこれを行ひ度い。目下その訓練計畫の詳細は立案中である。

### 3. 住宅交換に就て

大都市の住宅拂底は當地に於ても例外をなすものではなく、國防産業の戰士が住宅拂底のために非常な惱みを感じて居ることはこゝで諄々しく申すまでもないと思ふ。當社に於ては其の惱みの緩和の一部として住宅交換制度を實施してゐる。但しこの住宅交換制度は一工場の内部だけでは効果が薄いのであつて數工場が協定し相互に隣接區域の住宅を交換することが必要である。當社に於ても愛知縣産業報國會の指導と協力を得て今一段と其本制度の規模を大きくしたいと考慮中である。

### 4. 遺家族の副食物に就て

物資の配給不圓滑な今日に於ては、工場附屬の日用品配給所に於て、全從業員の家庭の副食物を配給するのが理想でありうるけれども莫大な從業員數を擁する當社にあつては不可能である。只ここにどうしても放置出來ないのは出征遺家族が雄々しくも起ち上つて産業戰線に投じ銃後の職場を護る一員となつた場合不幸にも其家族が少數で物資配給不圓滑の惱みを最も大きく受ける。この人々に對してはどうしてもこれを放置する譯には行かない。そこで當社は厚生施設の一端として出征遺家族に對して毎日その副食物を材料のまゝ配給するやうにした。一人一日當り二十五錢である。この施設は目下のところ非常な感謝を以て迎へられて居る。然し前線にゐる將兵の辛苦を思へばこの位の事で感謝を受けることは寧ろ勿體ないと思ふ。遺家族の方々に對してはもつと厚く報ひ度いと考へてゐる。

### 5. 工場作業衣の修理に就て

工場の作業衣其他の日用品の修繕は當然從業員の家庭に於てなすべきであると云つてしまへばそれまでゞあるけれども現實にはなかなかそうは行はない。殊に最近のやうに人不足の折柄夫婦共稼ぎ等の傾向が殖えて來たり獨身者が續續と工場へ

入つて來た以上は、作業服の修理に就いても舊體制的感念で臨むべきではないと思ふ。

斯かる考への下に當社に於ては取敢ずミシン二臺を購入しこれを勞務部に据付け廣く一般に修理希望者を募り作業服其他の簡單な修理を引受け出來る限りこの方面で奉仕することに致したが其効果も相當大なるものがあるやうに思はれる。

（筆者は愛知時計電機株式會社勞務部長）

---

**36頁より續く**（イコマサント厚生鍛練　竹内孝）

上の冬の情緒に亦格別であるので、捨てるのは如何にも惜しい。そこで目下設計中の增築案に於ては、夏の冷涼を滿喫しうるは勿論のこと、雨季に於ける相當猛烈な霧に備へて防濕方法を講ずると共に、越冬には、極めてコムフオータブルに採煖し、且つ雪に粉飾された大自然を一望に收め、山上の汲み切れない情緒を家族團欒の中へ持ち來たさうと苦心をしてゐる。けれども最近に於ける情況はどうやら圖面箱の奥に庫と共に藏さねばならぬ運命となるらしい。（8.18）

（筆者は關西急行電鐵株式會社建築課長）

---




# 二人大名

山口　正

ふと

こゝに2人の大名が京に上らんとしての道すがら、これも京に上るといふ小者に出あひ、よき道連れと、相語らつて行く中、大名の1人が携へてゐた刀をその小者に持てといふ。おどされて刀を持つことになつたかの男、いつそのこと自分を太郎冠者と呼べ、といふので、大名はかはるがはる『やい太郎冠者』『やい太郎冠者』と呼びつけてよい氣もちになる。始めの中はかの男も、一々、『御前に候』と調子を合はしてゐたが、あんまりな大名の有頂天さに、ふと、大名をからかつてみる氣になりくだんの刀を抜き放つておどしつけ、大刀、小袖、袴等を大名からとりあげてしまふ。それぱかりでなく、刀のない大名の姿が鶏に似てゐるから蹴合への、裸にされた姿が狗にそつくりだから咬みあへ、の、とたわけた所作をさせたあげく、おきあがりこぶしの眞似をさせてその際にきの刀や衣類をかかへて姿を消す。——これは狂言『二人大名』の荒筋であるが、狂言には、こうした、ふと、したはすみの氣の變りを扱つたものが多い。『月見座頭』などもその一例で、名月に虫を聞く座頭と共に酒を汲み、舞ひ唄ひあつてゐた男が、歸るさに、ふとその同じ座頭にからみかゝつて、けんかを賣る氣になる。人情味ゆたかなありさまから一瞬にして、底意地の惡るいきもちに移り變る表情の變化は、快く見物の心をくすぐつてゆくけれども、常識からは肯定しがたい、心のはすみである。

さて、長々しく狂言の話を書いたわけは、これから記す事柄が、これも、ふとした機みに思ひついたことであつて、別に根も葉もない、いはゞ思ひつきみたいなものであるといふことの說明に資したいからである。筆者はこれまで建築協會といふ大きな完全な組織の中にあつて、專ら先輩の指導を受け、自らを磨くことにかゝりきつてゐたのであるが、つひこの間の評議員會に出席した折にふと協會の一部を檢討してみる氣になつた。かなり無遠慮な發言であると思ふので、その動機を明かにして誤解をさける工夫とした。

**やりなほし評議員會**

さてこの間の評議員會であるが、出席者僅か15名である。15名では定員の半數以下だから、評議員會は成立しないのであるが、既に一度流會になりこれは再度招集されたものであるから、出席が少くても成立する。建築協會の評議員會は大抵1回では成立せず、再度招集のやりなほし評議員會を開催する習慣になつてゐる。この間の評議員會の議案のひとつは總會にかける昭和17年度豫算案を審議する件であつて、協會としてこれ程重大な會議はないはずである。それに僅か15名とは一體これはどうしたことであらう。缺席評議員の心のうちをそんたくすると、（そんなものはどうせ當事者の作つたとうりに決まるのだ、わざわざ出かけても無意味だ）（面白くもない、つまらん別に金になるじやなし、俺には評議員になる偉さがありやそれでよいんだ）（そうかい評議員會があつたのかいそういへば案內狀がきてゐたような

氣もする）等々、まあ、ざつとこんなところだらう。どうも偉い人ばかりだ。迷惑するのは、協會と會員と、一緒に評議員になつた我々とである。我々は本職に多忙であるから、餘計な用事である協會の仕事のために、特定の日時に、そうそうかつちり出席できるものではない。然し、60名からの評議員の中僅か15名しか出席しないことや1回も出席しない評議員のゐることをどう考へたらよいのであらうか。評議員の職責を感じてゐる我々は、だから評議員會の催される回數の2倍度數協會によらねばならないのである、流會の分と成立の分と。評議員會に出席しないでは評議員としての値打は全くないのであるから、出て來ない人は最初から評議員にならぬがよいと考へる。（俺は偉い、そんなところへ行く暇があるかい）（そんなことは世話すきの閑人にまかしておくさ）なんて連中はこの際一應反省してみてもらひたい。會員諸氏の信頼を裏ぎり信任を汚がすこれより甚しきはない。幸ひに當事者において提出される議案は練れきつてゐるので評議員會がぼんやりしてゐても會員諸氏には少しも迷惑はかゝらないし、僅かながらも出席された評議員は極めて熱心に追窮檢討されるから會員諸氏は安心してよい。たゞ國家重大の時に、かゝる虚構が、協會の組織に含まれてゐる事はこの上もなく殘念だと思ふ。

**會勢幹事會**

會勢幹事會といふのがあつて、會員を增加することに專念して居られる。熱心あまつて、會員1名招介の責任を果たせ、などと云ひ出す。會勢を增大せしめることは會員一同の努力にまつべきであるから、これを會勢幹事會に任して、我々があんかんとしてゐるわけのものではない。然しながら、會員に新入會者を作り出す責任があるとも考へかねる。幸ひに會員諸氏はきもつたまが太いから、この責任にとつゝかれて日夜おうのする人もないけれども、あらたまつて、『貴下の責任を……』とやられると、なにかこう、ひとつ責務がふえたような氣がするのである。毎月催される見學會はこの幹事會のうけもちになつてゐる。見學は會員を集める上の好餌にもならうといふので會勢幹事會で扱はれるものと愚考するが、もしそうならば至極ごもつともである。

物を賣らうとすれば廣告をしなければならん、廣告すると賣れる。賣れると廣告する。商賣がかかる連鎖であるのに似てゐて面白い。會員を增すため見學を催す。見學が魅力となつて會員が增す。又その會員のために見學を催す。會勢の發展と會員の福利とを目指して輪轉して行く單一軌道上の協會の運命を考へてみる。廣告のいらない商賣はないものか。會勢幹事會がなくても自然と會員の增す工夫はないものか。誰もが入りたいような會できへあれば骨は折れないのだが、誰もが入りたがる會にするためにはもつと事業をしなければならず、事業をするためにはもつと會勢を增して大世帶にしなければならん。誰もが入りたがる會に會員を增加する事なしにする方法はないものか。實は「つまらん會だ」といふ蔭口を諸所で耳にしてゐる。彼等のいふところは、會費1圓だして、50錢の雜誌をもらふのがつまらん。50錢で本屋から直接買ふ方が賢明である、といふのである。雜誌は會の全部でなく一部にすぎないけれども、この說にも一應の道理は認めねばなるまい。だから會勢幹事會は盛に見學會を催して、1圓の會費の値打をあらしめようと努力する。

**小型見學組**

ところが、その見學といふのが、金曜日とか土曜日とかに行はれる。大抵の會員が製圖室や現場で仕事に沒頭してゐる最中に見學會が擧行される。閑散な事務所の主人とか、隱居仕事に日を送つてゐる人とか、學校の先生、役人といつたところでなければ、餘程理解のある雇主のもとに働いてゐる人のみしか出席は出來ない。建築家は暇の少ない職業だから、これを日曜日にしたところで差支のある人が多いだらう。然し、日曜日といふことになれば、土曜日の午後1時集合などいふのよりはまだましだ。いつも參加者が少いのはこの日時の選定を誤れるが故と考へる。小人數の見學は、見學としてはまとまりがよいけれども、多數の會員を對象としてやる企てとしては承認しがたい。又、在來の如く色々目先を變へて見學することは建築家として常識を增すであらうが、成人教育の機關としての任からいふと、少し散漫の嫌ひがないでもない。そこで筆者は、日曜見學を推奬すると共に、小型見學組の組織を提唱する。

小型見學組といふのは、少數の會員を以つて組織し、見學を主とする研究會のことである。色々の研究對象を撰んで見學組を組織する。たとへば工場組、飛行場組、住宅組、社會施設組、訓練道場組、運動場組といふ風に各種の見學組を作る。茶室組、寺院組、市場組、火葬場組なども無論あつてよい。これらの組には同じ工場組でも、初級中級、上級などと區別し、又同じ住宅組が7組あつても8組あつても構はない。そして各組の上級組に在來の委員會の1部を吸收することも出來る。1組20名位で組織するとし、組が60組出來れば全體で1200人を抱くことになる。協會の事業であればこれ位の規模は必要だ。そして各組には適當な指導者を置き、見學のみならず、エキスパートの講義も聞き、參考書も閲覽し、實驗實演なども行ふ。たとへばホテル組に就いていへば、1年間に關西を中心とする主要なるホテルは全部見學し、ホテル業者となじみも出來ホテルの經營にも明るくなり、ホテル建築の參考書にも一應は目をす通ことが出來るといふ風にする。『僕は建築協會の運動場組を出てゐますから、運動場建築なら自信があります、日本中の運動場の缺點長所みな心得てゐます』などと言つて一つの仕事を得ることも出來ると言ふものである。こういふ重寶な組が出來ると入會希望者が續々集まること請合だ。『ひとつ協會に入つて、自分の專門である住宅組に入りたいが』と言つて會員諸氏は入會斡旋をたのまれること必定。會勢幹事會においてこの拙案を御採擇あらんことを切望する。

× × ×

見學に就いて、もひとつ注意すべきことは（上記の小型見學組ならば問題はないが、在來通りの見學會を催す場合の話である）もつと親睦氣分を濃くしたいことだ。建築家には變人、學者、藝術家が多いから、銀行屋がゴルフ遊びにゆくような調子にはいかないが、せめて工場における職人同士位の氣輕さでやつてゆきたいものである。もう少し、うちくつろいで和氣の中に見學したい。同じところをみてあるひてゐる中に、つひ顔を見知つて『よいお天氣ですね』といつても『はあ』とか何とか簡單に答へるばかりなので、こいつは無口な性なのかと思つてゐると、別の知人には口角泡をとばして談笑するなど面白くない。この繁忙な社會において、餘計な知人を增したりすることはお互にわづらはしいに違ひない。しかし、交友錄に記入する程でもなく、名刺をやりとりすることもなしに、氣輕に、偶然の1日を親しくしたいと思ふのである。老生すでにこの感がある位であるから青壯年諸公に到つては、1人で行つても面白くないからやめる、といつて見學に參加しないのが多い。正に女の子が遠足にゆく時のようなありさまである。催しの主人役においてこの點留意されんことを希望する。

**クラブ**

さあ、そんな目的のために、ちやんとクラブが作つてあるのだと言はれるかも知れない。協會員の眞の親睦はこのクラブにおいて達せられるといふのであらう。然し、一寸眺めたところ、クラブは常連の巢の感がある。若いもの、たまにきたものは、片隅でだまつてゐるより仕方がない。誰も彼もがおそろしく非社交的的なようにみうける。こゝに出入する會員は皆一流の建築家である、と誰も自分では思つてゐないであらうのにお互同士をそんな目でながめるらしい。うつかりつまらんことを話かけて相手の氣分を損ふことを恐れてゐる如くでもある。ひとりポツツとしてゐるものがあれば、居合せたものが誰でも話相手になる位の心構へがなければいかん。挨拶ぬきで互に談笑するのでなければクラブの値打がない。この室においては少しく心のたがをゆるめ、初對面から10年の知己の如くでありたい。常連がどくろをまいてゐる片隅に、田舍からたまたま出て來た若い建築家が默然としてゐるなど、こゝ獨特のクラブ風景であらう。會員の多くが1度はこの室の扉を押してみる、そしてそれつきり2度と來ない人が多いことは、我々が熱心に會員を勸誘してゐる足もとの地盤をゆるめてゆく。雜誌もくれるし、講演會もあるし、見學會もある、クラブに行くと偉い建築家も澤山來てゐる、と力說したところで、誰もなかなか、なびいてはくれないのである。

(16.1.18)

# 燒夷彈と火災の特異性に就きて

富田　清

最近科學の急速な進歩發展は從來の戰爭形式を一變して新たなる立體戰へと移行しつゝある現在航空機及航空術の驚異的なる發達が世界に於ける諸國土間の距離を縮少して如何なる都市と雖も空襲を容易に敢行し一瞬にして、重要資源を破壞させてしまひます、其の恐るべき航空偉力は今次支那事變に、又歐洲に於ける獨空軍の働き戰果に依つて明らかに物語つて居ります。

此の發達した航空機に依る敵空襲の目的對象なるものは先づ軍事施設と都市である事は勿論でありますが就中都市に於ける建築物——政治、軍事の中心、公共建築物——が第一の爆撃の目標となるのであります。ですから今後は空襲と建築物の關係に就きて新らたな對策を講じ樹立しなければならないと思ひます。其處で、建築物の受くる災害を檢討して見ますと、二つの源因が存して居る事を識ります、一つは天然的源因、他は人爲的源因であります。この天變的源因の事は別とて他の人爲的源因は火災、空襲が先づ考へられます、特に我國の如き木造家屋では空襲と火災の關係を別個に考へる事を許されません、この兩關係に於ける、空襲の手段としては、燒夷彈、破壞彈、毒瓦斯彈、細菌彈等の投下又はビラ散布戰の如きものが有ります、が、最も重要な問題は投下彈に對する對策であります。銃後の都市に於て燒夷彈に因る災害對策が必要であります、空襲に依つて起る火災は數ケ所、乃至數十ケ所同時に發生する場合を容易に想像し得られます。

斯した際、消防作業と相當の經驗の持主ですらも時には可成り周章氣味に成り易いものであると聞いて居ります、まして、消防作業に經驗の無い方は大抵周章狼狽するものと思はれます、とりはけ燒夷彈の如き猛烈なる勢で多量の熱と火を發して燃燒するものには驚きうろたへるものが多いと思ひます。此の様な際に周章てず驚かず吾等の都市工場、吾家を護るのは平常の訓練が、最も大切だと信じます。以下それに就いて自己の見界を述べて見ます。

## 1　火災の原因

先づ空襲を受けたる際に於ける火災の原因を研究致しますと、之を直接的原因と間接的原因に區別する事が出來ます。直接原因とは敵機より投下する諸種の爆彈に依り起る火災でありまして、其の投下彈には前記のものがあり、火災に對しては燒夷彈が最も恐ろしいのであります。

間接原因は避難等が混亂の際不注意に依りて發生する火災を云ふのであります。避難の際不注意に依る火災には關東大震災の時、東京の大火がこの實例として、その慘狀を物語つて居ります。一口に避難と云つても非常の時に於ける逃げ出す様子とその趣を異にして居ります。例へば空襲を受けたときを考へて見ますに一部の人を除く外は各々其仕事に、或は工場に止つて『吾家の防火は吾等の手で』と云ふ考へを、モツトーを守つて良く沈着いて總ての火氣を安全に處置し興奮を防ぐ事を先づ必要とします。又燒夷彈の投下に際しては瓦斯彈細菌彈等を同時に投下せられる事を豫想し防毒の處置を考慮しなければなりません。

## 2　空襲に依る火災の特異性

空襲に依る火災は平時の場合と異なり火災の起る時期場所の大體の豫想が付くと云ふ點であります。即ち空襲警報が傳はると敵機が近づいて火災が起るのではないかと思はれるし飛來した敵機の動作に依り、大體何處の附近に火災が起るのではないかと云ふ見當も付くものであります。從つて空襲警報が鳴りましたら一段と緊張して防火の準備をする事が必要であります。

次に空襲による火災は同時多發性でありまして多くの場合消防能力以上に、火の手の揚る事も豫想され得るのであります。今假りに、1000瓲積載し得る爆撃機が十機編隊を以て都市を空襲したと假定して見ませう。二瓲燒夷彈のみを積載したとしますと、總計、5000個の彈を有する事になり其內我空軍や高射砲隊に八割を撃墜又は撃退せられたとしても尙ほ二機は都市の上空に、現れ其の保有する彈は1000個あり、都市の燈火管制其他の完

全や否や等に依り其内幾割が命中するか確實しませんが約2割が有効に着發火したとしても20個所に火災の起りうる事になりますので、其禍害は戰慄すべきものがあると云はねばなりません。特に可燃性物の多い個所に於ては火災が最も恐るべきであることは勿論でありますが、其の他の原因で火災を發生することも考へねばなりません——瓦斯タンク、石油タンク、或は他、發火性並びに引火性の品物を貯藏する處では地雷彈による火災發生の處も少くないのであります。

### 3　燒夷彈の侵徹力

我國の様な木造家屋に對しては、極く輕量の燒夷彈でも屋根を貫通して火災を起します。平家の場合ですと、通常屋根及天井を貫通し一階床上に落下して燒燃します、屋根を貫通して後梁に當つたものは、天井板上に轉がり直に之を燒き貫いて床上に落下します、二階家の場合は屋根及天井を貫通して二階床上で燃燒いたします。鐵筋コンクリートの屋根では、厚さ5吋あれば輕燒夷彈を防ぐ事が出來ます。

### 4　燒夷彈の種類と其の性能

現在の所燒夷彈といたしましてはエレクトロンテルミツト燒夷彈、黃燐燒夷彈、油脂燒夷彈の三種があります。この燒夷彈の歷史は相當古いのでありますが、之を空襲に使用する様になつたのは、第一次歐洲大戰からで獨逸は大戰中燒夷彈の改良に多大の努力を拂ひまして、5瓩から20瓩の黃燐を結めたもの、又はテルミツトで油脂やベンゾールを燃すもの等の燒夷彈を都市攻擊に使用いたしました。然しその効力は豫期した程大きくありませんでした。獨逸はこの經驗から前大戰末期に及んで、所謂エレクトロン燒夷彈なるものを完成しましたが、遂に大戰には使用されるに至らなかつたのであります。

此のエレクトロン燒夷彈は從來のものとは比較にならぬ程進步したものでありまして、大戰後列强の重視する所となり其の威力の絶大なるに驚異と恐怖の念を抱いて中には誇大なる宣傳さへ行はれる有様で今日に及んで居ります。近時は更にエレクトロン燒夷彈以外のものに付いても、研究が進められて居るので防空對策としては、一通り各種のものに付いて考へて置かなければなりません

（A）　エレクトロンテルミツト燒夷彈

これは俗にエレクトロン燒夷彈と呼ばれて居ります。燃燒の模様は發火と同時に盛に燃燒を開始して、小爆音を發しつゝ自熱の火沫を飛散します。而して、1瓩燒夷彈ならば發火後1分、5瓩乃至10瓩のものでも凡そ2分後には、大體燃燒し終り火勢は衰へ火沫の飛散も殆んど無くなつて、その後は熔融エレクトロンの燃燒が、10分乃至15分繼續します、燃燒溫度攝氏200度乃至300度になります。周圍の可燃物に延燃するのは飛散する火沫に依るのではなく、主として彈の燃燒に依つて生ずる火焰竝に輻射熱に依るのであります。

（B）　黃燐燒夷彈

これは內部に黃燐が入れてあります。發火と同時に大爆音と共に爆裂し濛々たる白煙を發し黃燐の火沫を遠距離まで四散し、各所に無數の小さい火元を作つて燃燒します。燒夷効力はエレクトロンテルミツト燒夷彈に較比すると大變劣ります。又瞬間的に火沫が四散し、小さい火元が澤山出來る丈で、エレクトロンテルミツト燒夷彈の如く彈自身が、相當時間燃燒し續ける様なことは有りません。が而も襖、障子、その他燃え易いものに附着すると火災を起します。

（C）油脂燒夷彈

燒夷効力は油の燃燒力に期待して居ります。發火すると長い大きな赤い焰を出して燃え、それと同時に黑煙を濛々と出します。而して油脂の流動に依つて火點が擴大し、又は、燃燒物を四散して多數の火點を作ります。

### 5　燒夷彈の消火方法と其考察

燒夷彈は普通輕量であつて其の發熱量は限られて居ります故、大して恐れるには足りませんが、燒夷彈に依つて起る延燒の方が恐ろしいものであります。

先程も云つた様に輕量燒夷彈を多量に投下せられるが、消防能力以上に火の手が揚る原因でありまして、防火作業に從事するものには一番厄介なのであります。燒夷彈の延燒防止方法と致しましては燃燒中の燒夷彈に直接注水せず、附近の可燃性物に對して注水するのが最も有効であります。エレクトロン燒夷彈に輕便消火器、バケツ其の他の少量の水では、燒夷彈其のものゝ燃燒を防止す

することは困難ですが多量の水を一時に注ぐことに依つて燒燃しつゝある燒夷彈を消火することは必ずしも不可能の事では有りません。或は直接注水すると却つて火勢を旺盛にして、爆發性の瓦斯を發生して飛沫の飛散を少し烈しくすることもあります。問題は直接燒夷彈を消すには非常に多量の水を必要と致しますから、それより前に述べました様に燒夷彈の燃燒時間の短い點を捕へて周圍に注水して延燒を防止する方がより以上に効果的であると考へます。

尙化學藥品の火器等を以てしてもエレクトロン燒夷彈は燃燒を防止する事は出來ません、乾燥した砂をかけるのが最効果があると考へます。が此は燒夷彈の火花が散亂することを防ぐだけでありまして、燒夷彈の消火は困難であります。砂や濡れ蒲團、濡れ蓆等を燃燒中の燒夷彈にかけて火沫の飛散を防ぎ附近遮障子机疊等の燃燒物に手早く水を注いで火沫が飛んでも燃へない様にしなければなりません。要するに燒夷彈に對する防火方法は落ちた燒夷彈其のものよりも其の周圍に水をかけて延燒を防止する事であります。黃燐燒夷彈なれば、砂や土をかぶせ水をかけると消すことが出來ますが、黃燐は空氣中に於て自然に燃へ出す特徵を有つて居りますから、一度消した上で殘つて居る黃燐を除去しなければなりませまん。素手や素足で黃燐に觸れるときは難治の火傷を受ける事がありますから觸れるときは濡れ手袋等で作業する事を必要とします。

扨て燒夷彈に對する處置は斯くの如くでありますが、初めに述べました様に空襲時に於ける消防作業には種々の困難が伴ふのみならず、其の火災は一時に多數發生する事が多いのですから猛火が多方面に同時に威力を逞しくすれば、平時の消防能力のみでは其の全部を防壓することは甚だ困難と思はれます。そこで各工場、住宅に於ては平常に消防方法を研究訓練して燒夷彈の火災に對しては發火初期に善處して防火の徹底を期する事を必要といたします。尙空襲時には消防作業に非常な困難が伴ふものであります。維彈等に依り建物並道路を破壞せられ行動の迅速を缺き場合に依りては、消防自動車の通行不能な場合もあませう、燒夷彈と共に瓦斯彈等を投下して、消防作業の妨害を企圖する時もありませう、夜間なれば燈火管制の眞暗な中で活動せねばならぬ事もありませう、消防の彈藥である水道の破壞せらるゝ處もありまして、平素考へて居る以上に消防作業は困難であると思ひます。空襲警報が鳴りましたら速かに附近の消火栓、又は水道ホース等を接續して隨時延張して消火作業に從事し得る様に準備するを必要と考へます。實際におきましては、少數の人にて該作業の完璧を保持し得る様に準備と訓練を平時に於て實施し、水利、地形並要防護箇所を研究して置かねばなりません。

# 會報

## 常務會（第24回）

時　12月4日 午後6時40分—8時30分

所　陣列場

出席者　理事　井上副會長
　常務　中西主記、藪中主記、桐本主計、松久保主計、池田主計、小林編輯、大下編輯、岡田編輯

議事

1. 昭和17年度常務會に引繼事項の件
2. 新舊役員引繼會開催の件
3. 全國都市問題會議事務局より研究議題會誌に揭載方依頼の件
4. 事務員辭職願出の件
5. 事務員下半期昇給並賞與の件
6. 會員詮衡

報告

1. 10月分會計報告
2. 講演會終了報告
3. 消防演習終了報告
4. 建築學會より建築書提出報告
5. 出征、入營、除隊報告

### 通常總會

1. 昭和16年11月25日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て昭和16年度通常總會を開會す
1. 出席者左の通り會員23名

井上新二、伊藤和夫、岩崎甚太郎、尾龜清四郎、岡本忠行、荻田眞之助、川勝健二、川西梅次郎、桐本楠雅、黒澤研、黒田茂、小林清、小林三造、昆眞造、左谷陽充、芝田知重、鈴木一幸、園部泰文、薗部茂、竹中景一、中島喜平、中西六郎、平野忠雄、藤田元吉、松久保敬三、三浦茂、村島彰、横見幹

1. 午後5時35分—同着席副會長理事井上新二氏議長となり只今出席者二七名なるも本日は再度の召集に付定款第24條但書により定數に依らず成立の旨を述べて開會を宣し直ちに選擧を行ふ

選擧　第1監事選擧
　第2評議員半數改選及壹名補缺選擧

議長右一括して選擧を行ひます御投票洩れの方がありますれば投票函に御投票を願ひます

御投票洩れなき樣でありますから開票に移ります就ては開票立會人を御指名申上げたいと思ひますが御異議はありませんか（異議なし異議なしの聲あり）

御異議なき樣でありますから左記五君を御指名申上げます

伊藤和夫君、尾龜清四郎君、黒田茂君、小林清君、三浦茂君、以上五君は直ちに別室に於て御開票を願ひます

茲に於て右立會人は投票函を別室に移し直ちに開票に着手す

議長開票中時間の都合上休憩せず進行して差支へなきやを諮り一同賛成あり次の議事に移る

第1號議案　昭和16年度事業報告

中西主記常務起立別紙事業報告を詳細說明す

議長質問の有無を問ひたるに質問者なく一同諒承

第2號議案　昭和15年度決算報告

桐本主計常務起立別表により詳細說明す

議長質問の有無を問ふ（異議なし異議なしの聲あり）

御異議なき樣でありますから御承認と認め次の議案に移ります

第3號議案　昭和17年度收支豫算の件

桐本主計常務起立別表により夫々詳細叮寧に說明す

議長質問に答へん旨を述ぶ（異議なし異議なしの聲あり）

御異議なき樣でありますから本案御承認のことと認めます之で本日の議案全部終了致しましたから暫時休憩を致します、時に6時15分

1. 午後6時25分再會

議長只今開票立會人より選擧の結果を通告ありたる旨を告げ左の通り發表す

**監事選擧開票結果**

| | | |
|---|---|---|
| 總投票數 | 1.460票 | |
| 內無効 | 17票 | |
| 差引有効票數 | 1.443票 | |
| 當選 | 716票 | 鈴木　一幸氏 |
| 同 | 713票 | 池田　宮彦氏 |
| 次點 | 3票 | 松井清之助氏 |
| | 2票 | 伊藤　正文氏 |
| | 2票 | 辛木　貞夫氏 |
| | 2票 | 三浦　茂氏 |

（以下略）

**評議員半數改選開票結果**

| | | |
|---|---|---|
| 總投票數 | 2.193票 | |
| 內無効 | 27票 | |
| 差引有効票數 | 2.166票 | |
| 當選 | 78票 | 海野浩太郎氏 |
| 當選 | 77票 | 宇都宮藤次郎氏 |
| 同 | 77票 | 吉田　吳郎氏 |
| 同 | 76票 | 伊藤　和夫氏 |
| 同 | 75票 | 桐本　楠雅氏 |
| 同 | 74票 | 中西　六郎氏 |
| 同 | 73票 | 小林　三造氏 |
| 同 | 73票 | 清水　升氏 |
| 同 | 72票 | 中島　喜平氏 |
| 同 | 72票 | 錦田　直一氏 |
| 同 | 72票 | 宮田　秀穗氏 |

同　71票　伊藤　武文氏
同　71票　池田谷久吉氏
同　71票　小川·　正氏
同　71票　岡野　寛次氏
同　71票　景山　正明氏
同　71票　黒田　茂氏
同　71票　谷民　藏氏
同　71票　藤田　元吉氏
同　71票　山田　壯二氏
同　71票　和田貞治郎氏
同　70票　尾龜清四郎氏
同　70票　佐藤正次郎氏
同　70票　坂本　啓一氏
同　70票　菅原　徹郎氏
同　70票　西澤　藤生氏
同　70票　松久保敬三氏
同　70票　道田泰治郎氏
同　70票　森定　幹夫氏
同　70票　山本磯十郎氏
次點　2票　玉置豊次郎氏
次點　2票　三浦　茂氏

（以下略）

評議員補缺選擧開票結果

總投票數　728票
內無効　10票
差引有効票數　718票
當選　711票　笹岡美代吉氏
次點　2票　三浦　茂氏

（以下略）

議長以上の通り夫々當選されました（一同拍手）

1. 次で議長より本議事錄の代表署名者に左の2氏を指名し其の承諾を得たり

小林三造君、左谷陽充君

1. 井上議長本日の總會は之を以て閉會する旨を宣す 時に午後6時40分

**評議員會**

1. 昭和16年12月4日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1. 席者左の通り評議員37名

伊藤和夫、伊藤武文、池田宮彦、池田谷久吉、岩崎甚太郎、宇都宮藤次郎、海野浩太郎、小川正、尾龜清四郎、大下順三郎、岡田孝男、岡野寛次、川勝健二、桐本楠雄、小林清、坂本啓一、笹岡美代吉、清水升、芝田知重、菅原徹郎、園部茂、高松平太郎、竹內佐平治、竹中景一、中島喜平、中西六郎、錦田直一、平野忠雄、藤田元吉、松久保敬三、道田泰治郎、森定幹夫、藪中一良、山口正、吉田與郎、和田貞治郎、井上新二

1. 午後5時40分開會理事副長會上井新二氏議長となり只今出席者37名にして定款第24條に依り評議員定員の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げ豫て通知の如く選擧を執行する旨を宣す
1. 定款第17條に依る理事3名選擧
2. 定款第20條に依る會長1名副會長2名選擧
3. 定款第17條に依る常務12名互選

1. 議長右一括して選擧して差支なきやを諮り一同賛成依て其方法に付諮りたるに評議員大下順三郎君より前例に倣ひ投票選擧の代りに議長指名により詮衡委員を擧げて人選を一任したしとの提議あり議長より其の賛否を問ひたるに（賛成賛成の聲あり）異議者なく茲に詮衡委員制に依ることに決定議長より左の五氏を指名し承諾を得たり

伊藤武文君、池田谷久吉君、岩崎甚太郎君、尾龜清四郎君、芝田知重君　（五十音順）

議長只今指名の方は直ちに別室に於て詮衡されたしと述べ此間評議員會は休憩する旨を宣す

1. 午後6時10分再會

議長只今詮衡委員より報告ありとて左の通り發表す

理事　會長　片岡　安君
同　副會長　井上　新二君
同　同　竹腰　健造君
常務　伊藤　和夫君
同　大下順三郎君
同　桐本　楠雅君
同　小林　清君
同　小林　三造君
同　佐藤正次郎君
同　中西　六郎君
同　西澤　藤生君
同　錦田　直一君
同　松久保敬三君
同　藪中　一良君
同　和田貞治郎君

（五十音の順）

議長右の通り夫々當選されし旨を告ぐ（一同拍手）

1. 次で議長は本會議事錄の代表署名者に左の2氏を指名し其の承諾を得たり

平野忠雄君、吉田與郎君

1. 議長以上にて選擧終了に付本日の評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す 時に午後6時20分

**第2部會**　（第6回）

時　12月5日午後6時30分—8時
所　陣列場
出席者　幹事　伊藤和夫
委員　桐本、楠瀨、道田、楠田、渡邊

1. 東京に於ける第2部會の經過報告（桐本氏）
2. 命令系統及監督には中樞機關の各ブロック毎に支所の必要なる事。
3. 東京に於ける經過を各委員に報告し次回開催日迄に案作成持參を願ふ事に決定

**第3部會**　（第6回）

時　10月31日午後6時—8時
所　倶樂部室
出席者　主査　池田
委員　池田谷、村野

1. 前回迄に大體決定し居たるも村野氏より、新意見の開陳あり依て後刻村野氏より池田主査宛書面を以て取まとめ提書することゝなりたり。

**第4部會**　（第7回）

時　12月2日午後6時—7時50分
所　協會陣列場
出席者　主査　渡部
幹事　伊東
委員　松久

1.施工業者の再編成之件
2.勞務不統制の是正之件

**第4部　會**　（第8回）

時　　12月6日午後6時—8時
所　　協會陳列場
出席者　主査　渡部
　　幹事　伊東
　　委員　松久保、小西

施工業者の再編成

1.全國の施工業者を數級に分ち整理統合、之を統制會及統制組合により統制する事
2.專門業者を作り之れを現在以上に援助强化する事尙下請業者も相當數に整理統合する要あるべし
3.各職勞務者は、組合を結成せしめ職業指導所の如き行政官廳の力を借りて業者に於て配給統制の完璧を計る事

**第5部　會**　（第5回）

時　　11月26日午後6時—7時30分
所　　陳列場
出席者　主査　松本
　　幹事　谷
　　委員　地垣、中西、野中、堀內、三浦、藪中

1.建築關係團體40有餘の統合問題
2.學會と協會の統合につき可能性の有無
3.東京5部會は大體合併に賛成の趣なるも右は5部會のみの意見なるや又は學會の意見も加味されあるや否や
4.右兩會の統合は困難なるものとして如何なる理想團體を設けることがよいか。
5.產報團體との關係

**緊急常務會**

時　　12月10日
所　　クラブ室
出席者　理事　井上副會長、今村副會長
　　常務　中西主記、藪中主記北垣主記、松久保主計、桐本主計、小林編輯、岡田編輯

議　事

1.緊急常務會設置の件
2.諸會合時間の件
3.クラブ閉室時間の件
5.事務員宿直に關する件

# 會員動靜

## 入會

**會　員**

伊藤卯太郎君　神戸市林田區片山町5丁目15の3（兵庫縣都市計畫課）
磯野　康治君　京都府久世郡宇治町大字宇治町小字蓮華95（京都帝國大學工學部建築學教室）
今木延二郎君　東淀川區相川南通リ2の2（大阪市建築部第二建築課）
岩戸　聯一君　尼崎市難波新町3の282
大杉　讓二君　住吉區山阪町2の117（あめりか屋）
川田　一夫君　陸軍需品支廠檢査科
佐久間逸治君　住吉區阿倍野筋5の60(建築設計事務所)
中垣　了君　住吉區墨江西5の38（株式會社誠工舍設計部）
宮本　德一君　東區釣鐘町2の29大倉土木株式會社大阪出張所（大倉土木株式會社大阪出張所）
渡邊　英司君　神戸市神戸區加納町3の61田林工務店(內田林工務店)

**地方會員**

伊藤　輝君　吳海軍建築部工事場
上條　武幸君　和歌山縣海草郡椒村東亞燃料社宅（東亞燃料工業株式會社）
東海林三郎君　（吳海軍建築部）

**特別賛助員**

片山　與作君　旭區赤川町938(城崎耐火石材礦業所)
鈴木　友二君　此花區大開町2の59特殊セメント產業社（特殊セメント產業社事業室）
古澤與三八君　旭區赤川町1746（城崎耐火石材礦業所）

**普通賛助員**

赤尾　弘君　兵庫縣川邊郡園田村上坂部870(赤尾工務店)
植松　亨君　北區都島本通3の104（關高工在學中）
梅津　京君　旭區南島町768)關高工在學中）
上田　一雄君　府下北河內郡二島村大字三ッ島1315の2（關西工在學中）
岡本　辰義君　東京市本所區東駒形1の34　（吉田建築工務所）
岡本平次郎君　旭區南島町884の3伹勇方(關高工在學中）
龜谷　宏君　堺市南旅籠町西1の2（同）
樺原　三郎君　東淀川區南方町130（同）
末中　憲二君　東淀川區十三西之町2の91（同）
武田　肅君　旭區南島町768 三井信二郎方（同）
宮原　市郎君　府下北河內郡守口町平代町26乾政一方（同）
山崎　義男君　此花區秀野町43の7（筧組）

## 退會

**會　員**

奥田博次君、奥宮守君、小早川謙治君、澁川英一君、白川剛二君、望川初太郎君、由佐榮三郎君

**地方會員**

石津　誠君

**特別賛助員**

赤松正彬君、原禎男君

**普通賛助員**

上田　虎男君

## 轉居・轉勤

**會　員**

宮崎　春夫君　堺市中三國ヶ丘町6
谷村　忠一君　第32部隊福田隊
森定　幹夫君　府下三島郡春日村大阪製鎖造機株式會社茨木工場增築工事場大林組茨木出張所
小川　勇治君　德第8204部隊横山隊
石橋　逢吉君　第49部隊久能部隊
門田　敬一君　御影町字宇柳1233の1
横瀬　慶二君　東京市牛込區矢來町101(三菱倉庫株式會社建築課)
大國　賢市君　(勤務先)長谷鐵工所
八尾　正次君　布施市御厨川島56
倉田　一郎君　北區樋ノ口町40東洋紡績天滿工場社宅
鶴岡　文雄君　港區南市岡1の14
大江　武夫君　神戸市須磨區鹽屋字西ノ田128曉寮內(山陽配電株式會社建築課)
小澤　憲一君　尼崎市北雜波町425

**地方會員**

島影岩次郎君　東京市江戸川區小岩町4の1982
三宅　榮君　東京市世田ヶ谷3の2032常德院アパート街2の27(日本發送電株式會社)
小堀　順朗君　京都市上京區下立賣通千本西入清水組京都支店
本田明三二君　大津市高見町15
永井　佐藏君　一宮市八幡通東洋紡績株式會社一宮工場
田森　信夫君　滿洲國新京國務院建築局第一工務處
廣瀨源三郎君　奉天市大和區橋立町15(前田工務店建築掛)
多田　武君　山口市下金古曾64伊藤方
平松龍太郎君　米子市萬能町1山崎重三方
石津　昇君　靜岡縣棒原郡勝間田村淺沼組大井出張所
永田庄右衞門君　北京市內二區東斜街16の7
鍋島　辰雄君　和歌山縣海南中學不動建築現場
伊藤文次郎君　上海狄思威路502岡野建築事務所
三好　傳二君　兵庫縣揖保郡網干町濱田鹿島組內
多田　武君　吳市古江町68伊達正一方
大山　昇君　名古屋市南區鳳崎町繰出新田大林組星崎町出張所
武內富雄君　廣島市平野町720
大岡　喜治君　福岡市柳原町2の52
西村　隆君　朝鮮釜山府大橋通府廳營繕課
吉見　英治君　仁第4221部隊多田隊
大石　正君　香川縣高松市西濱町1の78大石きみ子方

**普通賛助員**

福井　簡藏君　北野部隊
黑田　三男君　奈良縣生駒郡北倭村字鹿畑14f9
林田　嘉瑞君　福島縣浮羽郡田主丸町林田瑞雄方


## 建築と社會

第25輯　第1號

每月1回1日發行　定價(送)　1冊 50錢(郵稅2錢)　12冊 6圓(〃 24錢)

昭和16年12月25日印刷　昭和17年1月1日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　ブラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番
日本出版文化協會會員番號222043

配給元　日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九番地



### 禁　轉　載

本號に掲載せるものは一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

## ●第二五集 第一号 掲載広告一覧（掲載順）

村田商会
大野製作所
建築金物商会
田中商会
大阪窯業セメント
協和製作所
下村商店
南満建材工業所
米本栄商店
三菱商事
平松釣戸車製造所
竹原文泉社
ライトラバー
萩工業貿易
東洋リノリューム